

JR東日本事業概要

当社の営業エリアは、関東、甲信越から東北までの広範な地域をカバーしています。営業キロは69線区延べ7,474.2kmにおよび、1日に1,710万人のお客さまにご利用いただいています。

● 会社概要

社名

東日本旅客鉄道株式会社
East Japan Railway Company

所在地

東京都渋谷区代々木二丁目2番2号

設立

昭和62年4月1日

資本金

2,000億円

発行済株式の総数

3億9,500万株(2014年3月31日現在)

上場証券取引所

東京証券取引所市場第一部
名古屋証券取引所市場第一部

社員数

59,240人(2014年4月1日現在)

事業内容

- 旅客鉄道事業
- 貨物鉄道事業
- 旅客自動車運送事業
- 索道業
- 旅行業
- 倉庫業
- 駐車場業
- 広告業
- 図書・雑誌の出版業
- 金融業
- 前払式支払手段の販売業及びゴルフクラブ会員権、テニスクラブ等のスポーツ施設利用権等の販売業
- 電気通信事業
- 情報処理及び情報提供サービス業
- 損害保険代理業その他の保険媒介代理業
- 自動車整備業及び石油、ガス等の燃料、自動車用品の販売業
- 旅行用品、飲食料品、酒類、医薬品、化粧品、日用品雑貨等の小売業
- 旅館業及び飲食店業
- 一般土木・建築の設計、工事監理及び工事業
- 設備工事業
- 電気供給事業
- 動産の賃貸業及びイベントに関するチケット販売、クリーニング、写真現像等の取次業
- 不動産の売買、賃貸、仲介、鑑定及び管理業
- 輸送用機械器具製造業
- 精密機械器具及び一般産業用機械器具製造業
- 看板・標識案内板等の製造・販売業
- 遊園地、体育施設、文化施設、学習塾等の教育施設、映画館等の経営
- 清涼飲料水、酒類の製造及び水産物の加工・販売業
- 骨材・石工品及びコンクリート杭・ブロック等の製造・販売業

上記の事業に附帯または関連する一切の事業、その他上記の目的を達成するために必要な事業

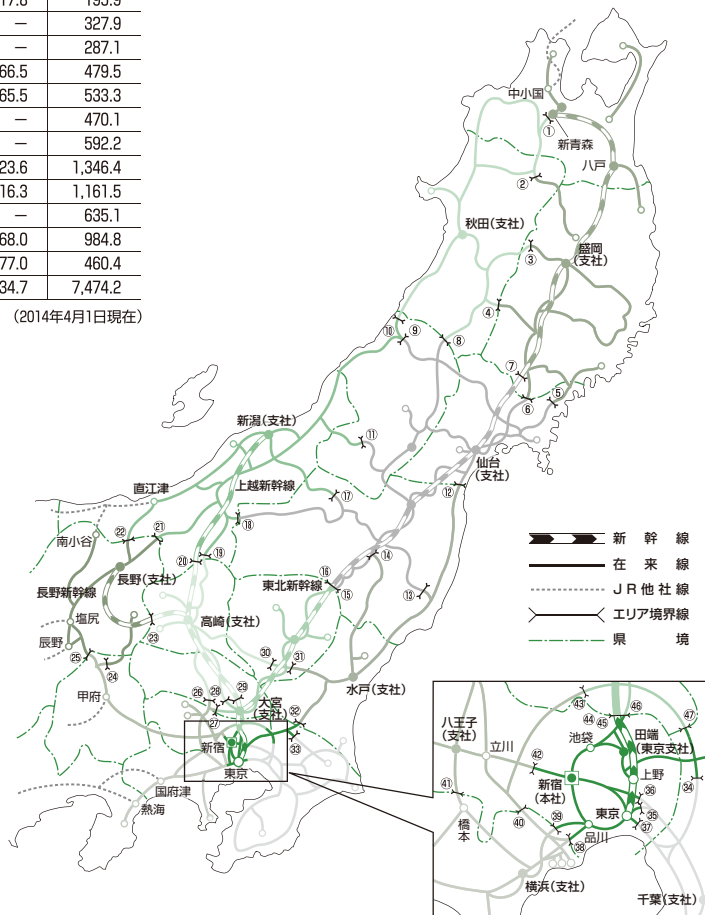
● 各支社の営業エリア駅数および営業キロ数

支社名	駅数	営業キロ数(km)		
		在来線	新幹線	合計
東京支社	80	178.1	17.8	195.9
横浜支社	108	327.9	—	327.9
八王子支社	95	287.1	—	287.1
大宮支社	79	313.0	166.5	479.5
高崎支社	89	367.8	165.5	533.3
水戸支社	112	470.1	—	470.1
千葉支社	158	592.2	—	592.2
仙台支社	287	1,122.8	223.6	1,346.4
盛岡支社	206	845.2	316.3	1,161.5
秋田支社	142	635.1	—	635.1
新潟支社	202	816.8	168.0	984.8
長野支社	120	383.4	77.0	460.4
合計	1,678	6,339.5	1,134.7	7,474.2

(2014年4月1日現在)

● エリア境界駅一覧

- | | |
|--------------|-------------|
| ① 新青森～津軽新城 | ⑳ 信濃境～小淵沢 |
| ② 大館～東大館 | ㉑ 毛呂～高麗川 |
| ③ 赤淵～田沢湖 | ㉒ 武蔵高萩～高麗川 |
| ④ ゆた高原～黒沢 | ㉓ 宮原～大宮 |
| ⑤ 本吉～陸前小泉 | ㉔ 熊谷～大宮 |
| ⑥ 油島～石越 | ㉕ 思川～小山 |
| ⑦ 一ノ関～くろこま高原 | ㉖ 小田林～小山 |
| ⑧ 院内～及位 | ㉗ 藤代～取手 |
| ⑨ 南野～余目 | ㉘ 東我孫子～我孫子 |
| ⑩ 本橋～酒田 | ㉙ 新松戸～新八柱 |
| ⑪ 今泉～萩生 | ㉚ 錦糸町～馬喰町 |
| ⑫ 坂元～新地 | ㉛ 浅草橋～秋葉原 |
| ⑬ いわさ～赤井 | ㉜ 潮見～越中島 |
| ⑭ 安積永盛～磐城守山 | ㉝ 蒲田～川崎 |
| ⑮ 豊原～白坂 | ㉞ 西大井～武蔵小杉 |
| ⑯ 那須塩原～新白河 | ㉟ 稲田堤～矢野口 |
| ⑰ 喜多方～山都 | ㊱ 橋本～相原 |
| ⑱ 田子倉～大白川 | ㊲ 西荻窪～吉祥寺 |
| ⑳ 土樽～土合 | ㊳ 新座～北朝霞 |
| ㉑ 越後湯沢～上毛高原 | ㊴ 大宮～上野 |
| ㉒ 森宮野原～足滝 | ㊵ 戸田公園～浮間舟渡 |
| ㉓ 妙高高原～黒姫 | ㊶ 川口～赤羽 |
| ㉔ 安中榛名～軽井沢 | ㊷ 三郷～南流山 |
| ㉕ 甲斐小泉～小淵沢 | |



株式の状況

- 発行可能株式総数…………… 1,600,000,000株
- 発行済株式の総数…………… 395,000,000株
- 株主数…………… 244,797名

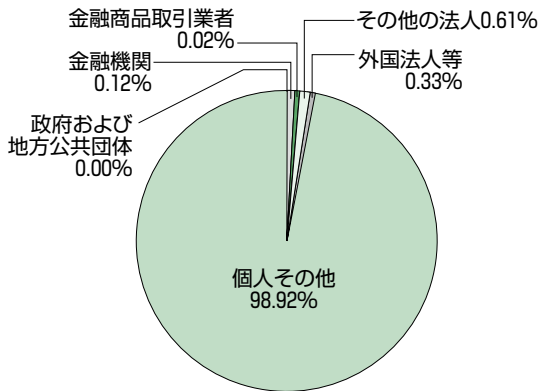
(2014年3月31日現在)

●大株主

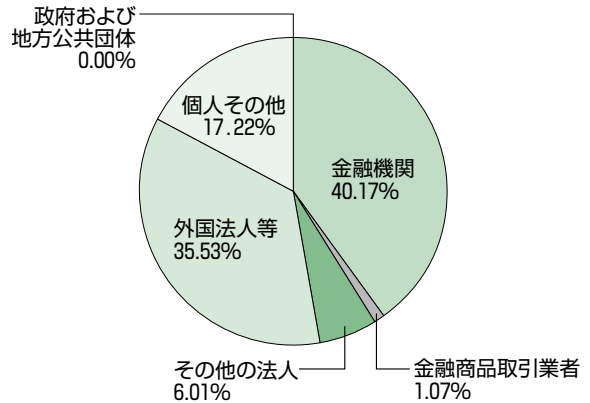
株主名	持株数
株式会社みずほ銀行	19,720,000株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	15,584,500
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	14,530,100
株式会社三菱東京UFJ銀行	12,520,315
JR東日本社員持株会	11,524,100
株式会社三井住友銀行	10,530,315
日本生命保険相互会社	8,015,560
第一生命保険株式会社	8,000,000
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	5,853,885
三菱UFJ信託銀行株式会社	5,000,000

●所有者別分布状況

○株主数比率

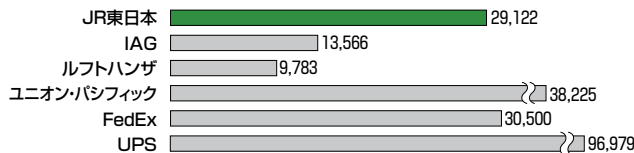


○所有株式数比率

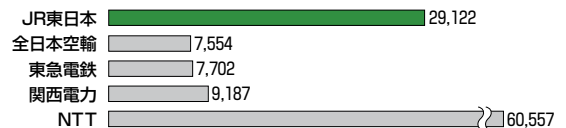


●株式時価総額企業比較 (百万米ドル)

国際比較



国内比較



2014年3月期(IAG、ルフトハンザ、ユニオン・パシフィックおよびUPSは2013年12月期、FedExは2013年5月期)

1. 各社の期末株価および期末発行済み株式数を用いて算出したものです。
2. 換算レートは2014年3月期末の実勢レート(1米ドル=103円、1英ポンド=1.66米ドル、1ユーロ=1.38米ドル)を用いています。
3. 上記のレートで米ドルに換算した期末株価は、JR東日本が73.84ドル、IAGが6.68ドル、ルフトハンザが21.22ドル、ユニオン・パシフィックが84.00ドル、FedExが96.34ドル、UPSが105.08ドル、全日本空輸が2.17ドル、東急電鉄が6.13ドル、関西電力が10.28ドル、NTTが54.55ドルでした。

連結決算・単体決算

■ 連結決算について

JR 東日本グループは、東京圏を含む本州の東半分のエリアを中心として、さまざまな事業を展開しており、連結決算を以下の4つのセグメントに分けています。

(1) 運輸業

JR 東日本グループは、鉄道事業とモノレール鉄道業、バス事業、車両製造事業を展開しています。鉄道事業は、東京から5方面の地方都市を結ぶ新幹線輸送、関東圏輸送、都市間・地域輸送を行っています。これらを中心として、羽田空港へアクセスするモノレール鉄道業や各駅からの路線バスや高速バス、貸切バスなどの事業を行っています。

(3) ショッピング・オフィス事業

JR 東日本グループでは、立地に合わせたさまざまなタイプのショッピングセンターを開発しています。また、首都圏を中心として複合型オフィスビルを展開しています。

⇒連結決算の推移はこちら

http://www.jreast.co.jp/investor/factsheet/pdf/factsheet_09.pdf

⇒連結決算の長期時系列データはこちら

<http://www.jreast.co.jp/investor/historicaldata/csv/consolidated.csv>

⇒過去の決算短信はこちら

<http://www.jreast.co.jp/investor/financial/index.html>

(2) 駅スペース活用事業

JR 東日本グループでは、駅構内や駅周辺、列車内などにおいて、駅の売店「KIOSK」、コンビニエンスストア「NEW DAYS」、車内販売をはじめ、小売・飲食などのさまざまな店舗を展開しています。

(4) その他

JR 東日本グループは、その他にもホテル業、広告業、情報サービス事業、清掃整備・駅業務運営業、クレジットカード事業、建設コンサルタント・設備保守事業など、さまざまな事業を展開しています。

■ 単体決算について

JR 東日本単体の営業収益は、大きくは鉄道事業に関わる収入と、関連事業に関わる収入に分かれています。

(1) 鉄道事業に関わる収入

① 運輸収入

- ・ 鉄道運輸収入
新幹線、在来線（関東圏）及び在来線（その他）
- ・ 荷物運賃収入

② その他の鉄道事業収入

- ・ 運輸附帯収入
鉄道用地を貸し付けた際の貸付料、駅構内で事業を営む構内営業者から得られる構内営業料、広告料などによる収入
- ・ 鉄道線路使用料収入
JR 貨物から受け取る線路使用料による収入
- ・ 運輸雑収
旅行業手数料などによる収入

● 鉄道輸送量

⇒鉄道輸送量の推移はこちら

http://www.jreast.co.jp/investor/factsheet/pdf/factsheet_09.pdf

⇒鉄道輸送量の長期時系列データはこちら

<http://www.jreast.co.jp/investor/historicaldata/csv/traffic.csv>

(2) 関連事業に関わる収入

鉄道事業とは明確に区分できる事業や非鉄道事業資産の活用により得られる収入で、ショッピングセンターなどの事業を営むグループ会社からの不動産賃貸料、分譲土地建物収入などにより構成されています。

⇒単体決算の推移はこちら

http://www.jreast.co.jp/investor/factsheet/pdf/factsheet_09.pdf

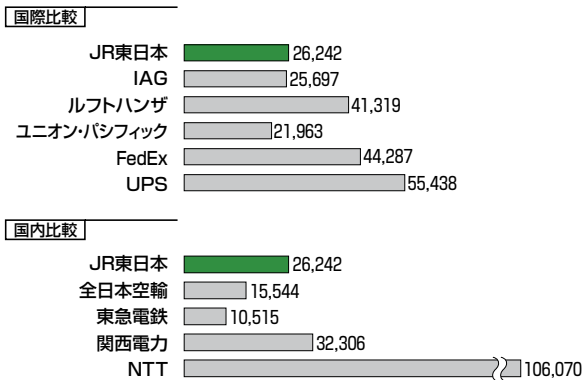
⇒単体決算の長期時系列データはこちら

<http://www.jreast.co.jp/investor/historicaldata/csv/non-consolidated.csv>

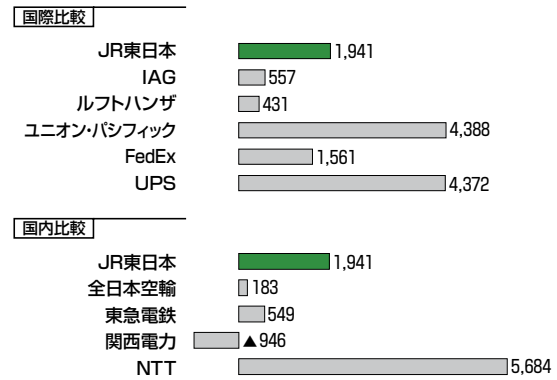
財務比較

● 企業比較

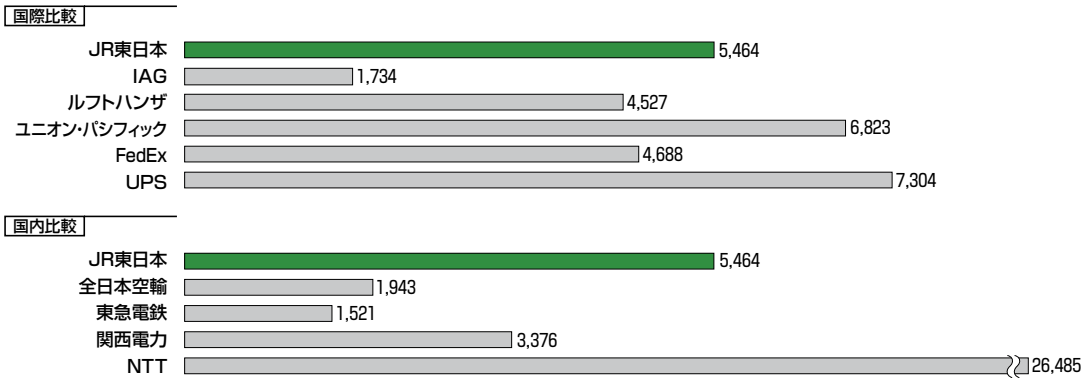
○ 営業収益(百万米ドル)



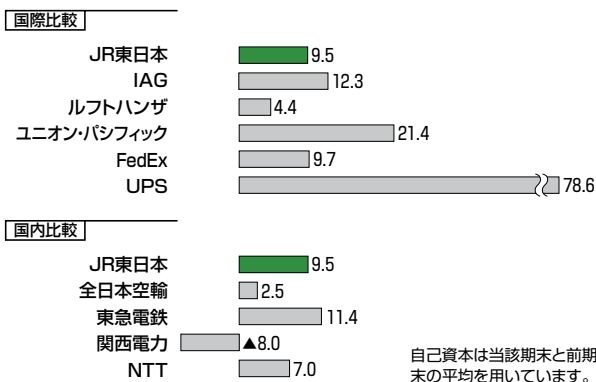
○ 当期純利益(百万米ドル)



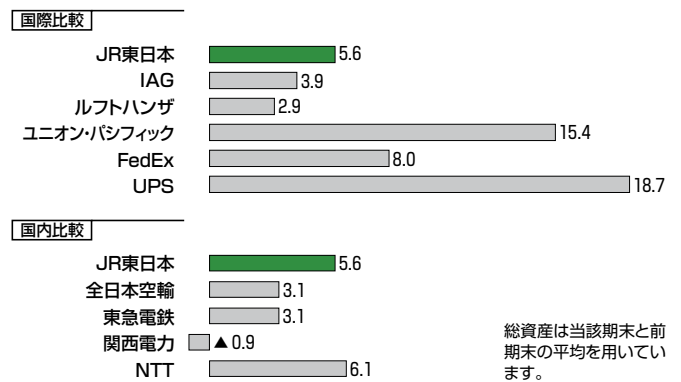
○ 営業活動によるキャッシュ・フロー(百万米ドル)



○ 自己資本当期純利益率(ROE)(%)



○ 総資産営業利益率(ROA)(%)

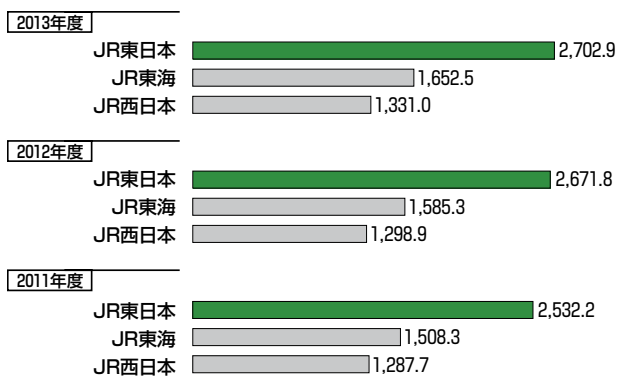


2014年3月期(IAG、ルフトハンザ、ユニオン・パシフィックおよびUPSは2013年12月期、FedExは2013年5月期)

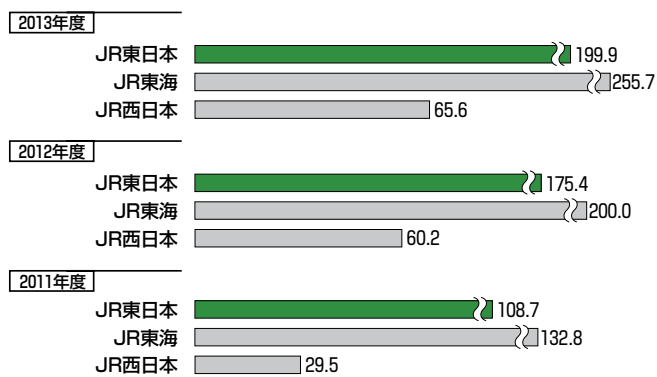
- 各社のアニュアルレポートまたは連結決算短信をもとに作成しています。
- 換算レートは2014年3月期末の実勢レート(1米ドル=103円、1英ポンド=1.66米ドル、1ユーロ=1.38米ドル)を用いています。
- IAG(International Airlines Group)は、2011年1月に英国航空とイベリア航空が経営統合して設立された航空会社です。

● JR本州3社の財務比較(連結)

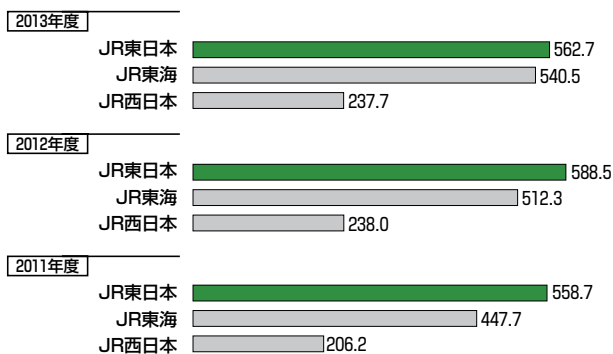
○ 営業収益(10億円)



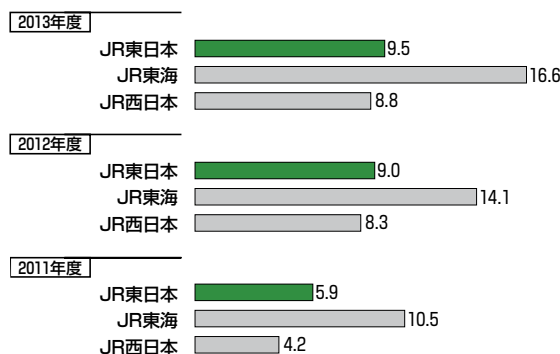
○ 当期純利益(10億円)



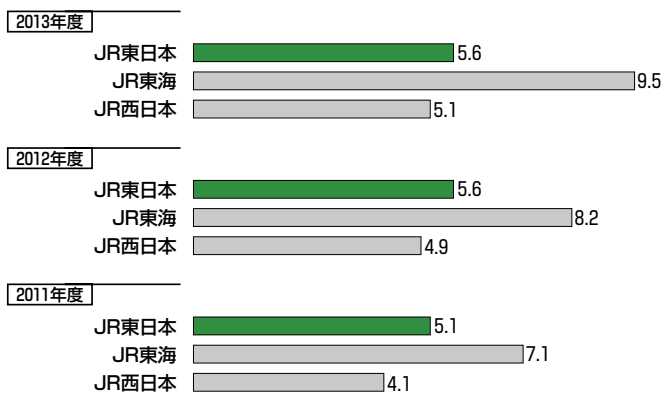
○ 営業活動によるキャッシュ・フロー(10億円)



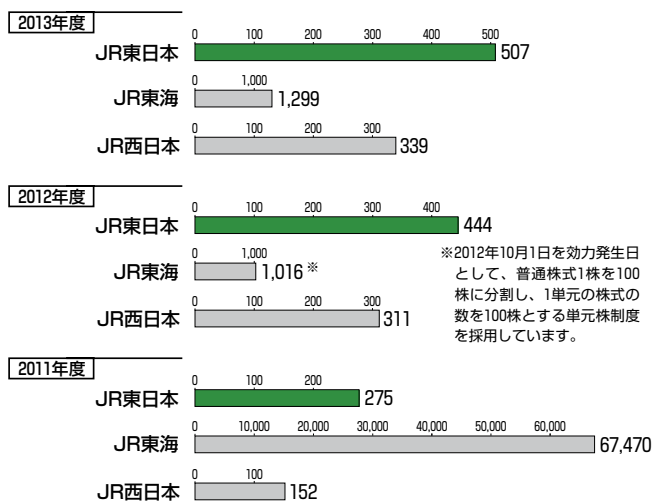
○ 自己資本当期純利益率(ROE)(%)



○ 総資産営業利益率(ROA)(%)



○ 1株当たり当期純利益(円)

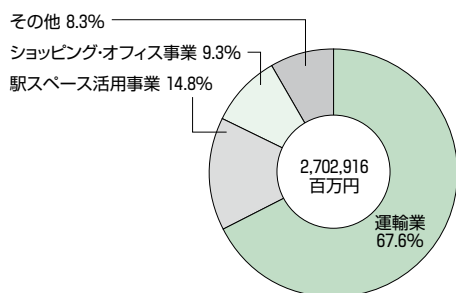


- このセクションのデータはJR東海とJR西日本の連結決算短信をもとに計算したものです。
- 総資産および自己資本は当該期末と前期末の平均を用いています。
- 1株当たり情報は普通株式の期中平均株式数をもとに算定しています。
- 表示単位未満を四捨五入しています。

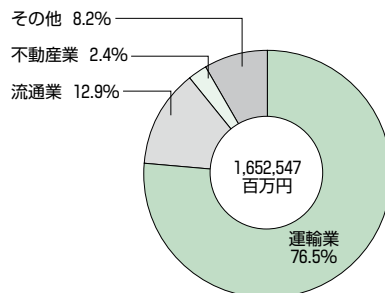
● 主要運輸事業各社の連結セグメント別営業収益

出典:各社決算短信(2014年3月期)

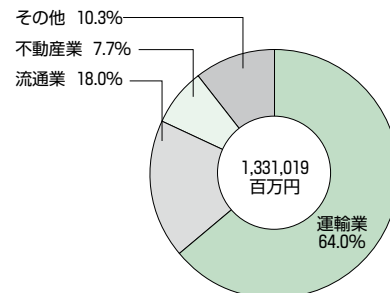
○ JR東日本



○ JR東海



○ JR西日本



設備投資

2014年度 設備投資計画概要

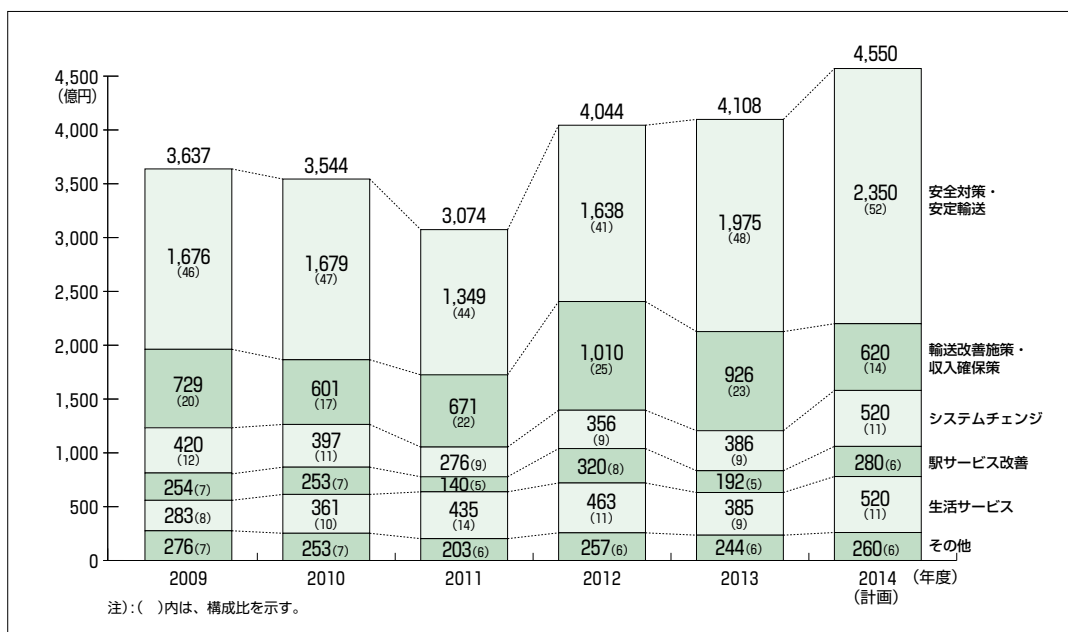
● 変わらぬ使命

○「究極の安全」に向けて ～災害に強い鉄道づくり～		
<ul style="list-style-type: none"> 大規模地震対策 高架橋柱、橋脚、盛土、レンガアーチ高架橋、 駅舎等の耐震補強 支社ビル等地震対策 新幹線 AT 保護線張替 海底地震計情報の導入に向けた環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> 山手線ホームドア整備 踏切事故対策 自然災害対策 山形・秋田新幹線降雨防災対策 常磐線利根川橋りょう取替 	
○サービス品質の改革 ～鉄道ネットワークの拡充等～		
<ul style="list-style-type: none"> 北陸新幹線金沢開業 上野東京ライン開業 横浜線用 E233 系車両投入 南武線用 E233 系車両投入 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟地区用 E129 系車両投入 分岐器不転換対策 ATOS 整備拡大・更新 エレベーター設備整備 	<ul style="list-style-type: none"> 駅トイレ整備 駅待合室・ベビー休憩室整備 異常時案内用ディスプレイ整備 駅案内用サイン整備
○地域との連携強化 ～震災からの復興、観光流動の創造と地域の活性化～		
<ul style="list-style-type: none"> 沿岸被災線区の復旧 気仙沼線 BRT による仮復旧（気仙沼駅構内乗り入れ） 現位置復旧・ルート変更 仙石線・東北本線接続線整備 新幹線リゾートトレイン「とれいゆ」導入 橋上駅舎・自由通路整備 	<ul style="list-style-type: none"> 大規模ターミナル駅開発 東京、新宿、渋谷、千葉、仙台、横浜、 品川 ほか 選ばれる沿線ブランドづくり 桜木町駅高架下開発 武蔵浦和駅高架下開発 中央ラインモール（武蔵境～東小金井間等） 子育て支援施設（亀戸 ほか） 	<ul style="list-style-type: none"> 地方中核都市の活性化 釜石駅ホテル、長野駅新駅ビル ほか

● 無限の可能性の追求

○技術革新 ～エネルギー・環境戦略の構築、ICT の活用、高速化～		
<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電設備新設 「エコステ」モデル駅整備の推進 スマートグリッド技術導入 LED 照明化 	<ul style="list-style-type: none"> 山手線内駅構内共通ネットワーク整備 スマートフォン向け情報配信 「JR 東日本アプリ」機能拡充 CBTC・ATACS 導入 	<ul style="list-style-type: none"> 線路整備モニタリング装置 技術開発
○新たな事業領域への挑戦 ～グローバル化～		
<ul style="list-style-type: none"> 鉄道車両製造事業の拡大 		
○人を伸ばし、人を活かす企業風土づくり		
<ul style="list-style-type: none"> 女性社員設備整備 研修センター・訓練センター設備整備 現場第一線における技術開発 		

施策別設備投資額の推移(単体)



安全

■ グループ安全計画2018

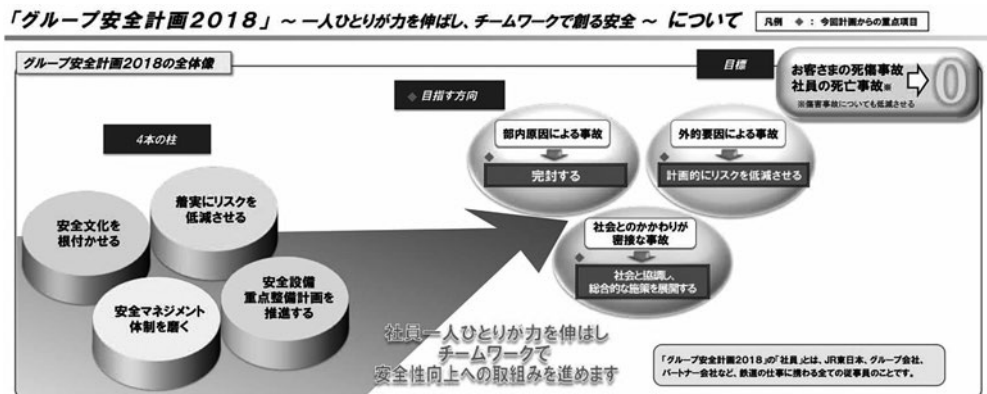
JR東日本では、会社発足以来、安全を経営の最重要課題として、過去5回の安全5ヵ年計画を実施してまいりました。

この度、2014年度からスタートした「グループ安全計画2018 ～一人ひとりが力を伸ばし、チームワークで創る安全～」を策定しました。鉄道に携わる一人ひとりが安全レベルの向上に取り組み、グループ全体で「究極の安全」に向けて挑戦してまいります。

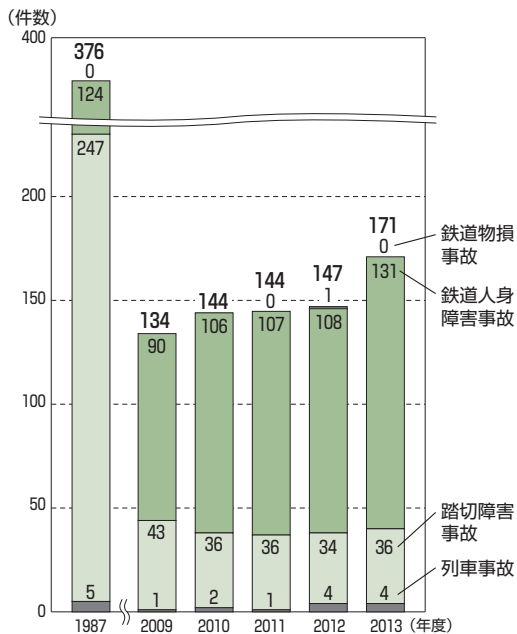
グループ安全計画2018では、「部内原因による事故は完封する」等の「目指す方向」を明確にした上で、具体的な施策を展開します。また、「着実な技術の継承」「事故の恐ろしさを深く学ぶ取組み」等、安全を担う人材育成を推進し、安全マネジメント体制のブラッシュアップを目指します。

なお、5年間の安全に関わる投資額は約1兆円を見込んでいます。

安全
安全

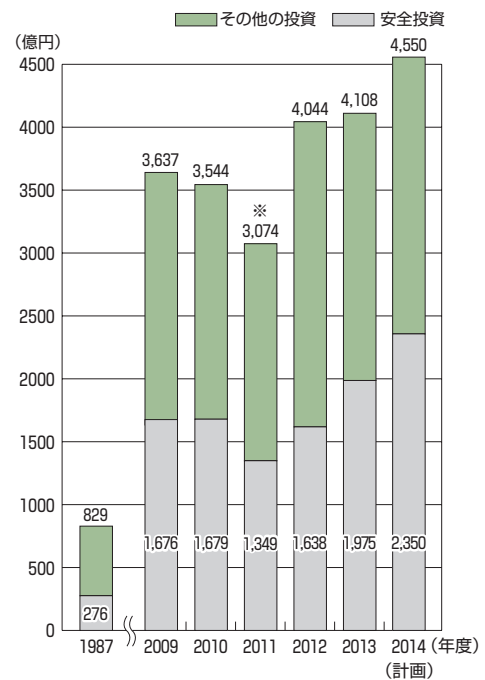


■ 鉄道運転事故件数



- 鉄道物損事故：列車または車両の運転により500万円以上の物損が生じたもの
- 鉄道人身障害事故：列車または車両の運転により人が死傷したもの
- 踏切障害事故：踏切道において、列車または車両が、歩行者や通行車両などと衝突・接触したもの
- 列車事故：列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故

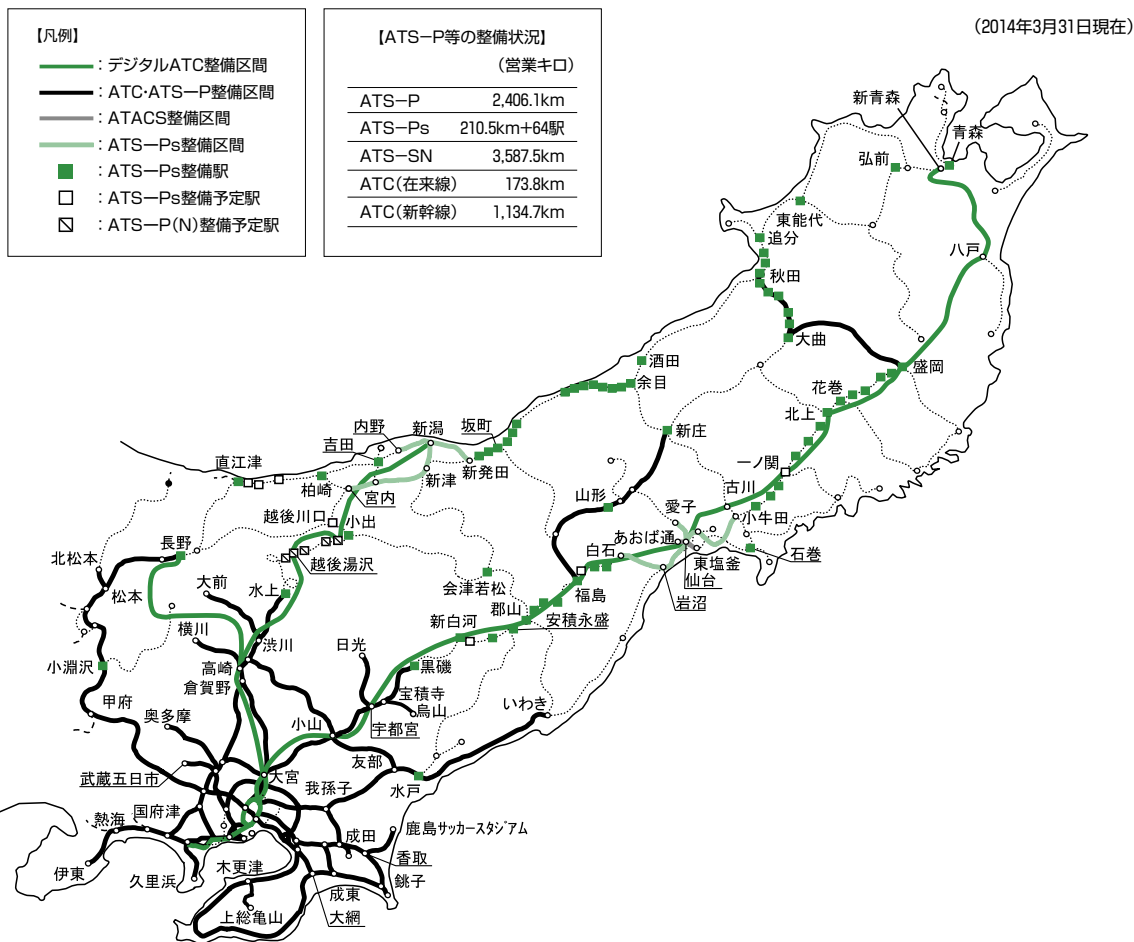
■ 安全投資額の推移



※2011年度は、東日本大震災の影響により、投資額が一時的に減少しました。

■ 列車衝突事故防止

● デジタルATC、ATS-P、ATS-PsおよびATCの設置線区



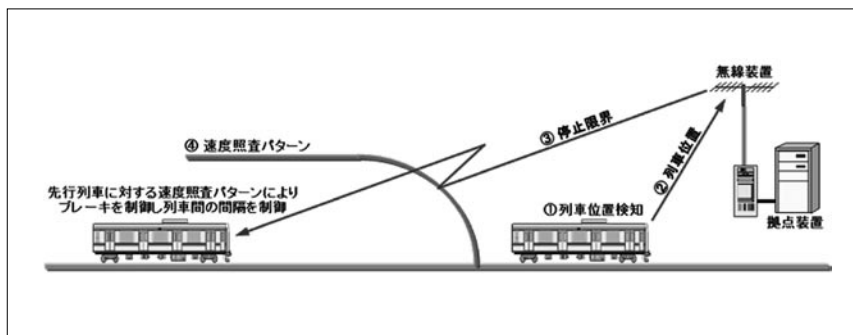
安全

● 無線を使った列車制御システム (ATACS)

列車自らが位置を検知し、無線を使って列車間隔を制御する「ATACS」を仙石線において実用化しました。ATACSの導入により、地上設備がスリム化されメンテナンスが簡素化されるとともに設備数が減ることで安定性が向上することが期

待されます。

ATACSは、2011年10月に仙石線あおば通り～東塩釜駅間に導入し、この間安定稼働しています。また、2017年秋に埼京線(池袋～大宮間)に導入する予定です。



■ 列車の運行管理システム

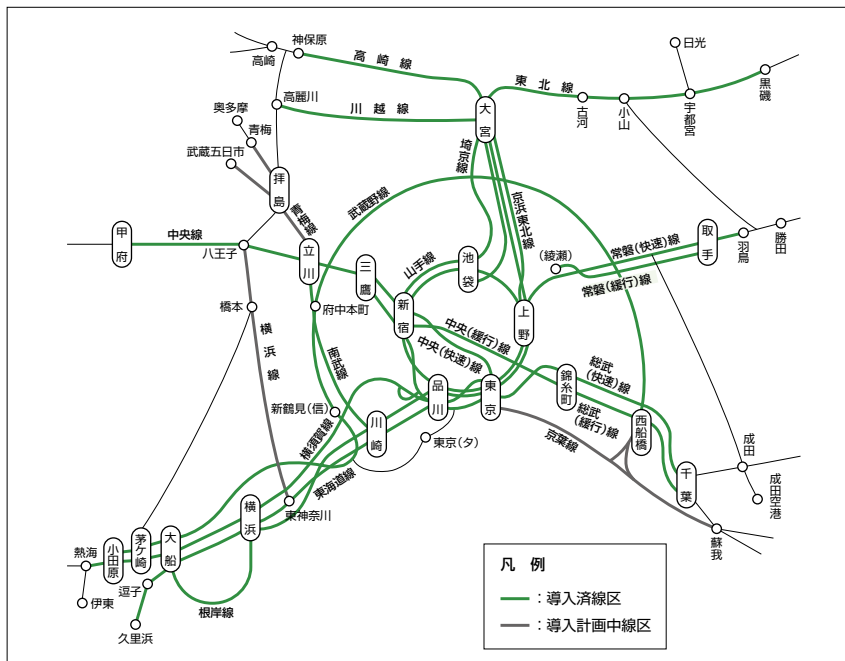
● PRCシステム導入状況

(2013年度末)

在来線システム 導入済み線区	約5,540km (うちATOS 約1,180km)	中央線(一部)、山手線、京浜東北・根岸線、総武(緩行)線、常磐線、武蔵野線、埼京線、仙石線、八高線、白新線、信越線、羽越線、花輪線など	システム 導入計画中線区	ATOS 約130km	青梅線、五日市線など
-------------------	----------------------------------	---	-----------------	----------------	------------

● 東京圏輸送管理システム (ATOS) 導入計画

(2013年度末)



安全

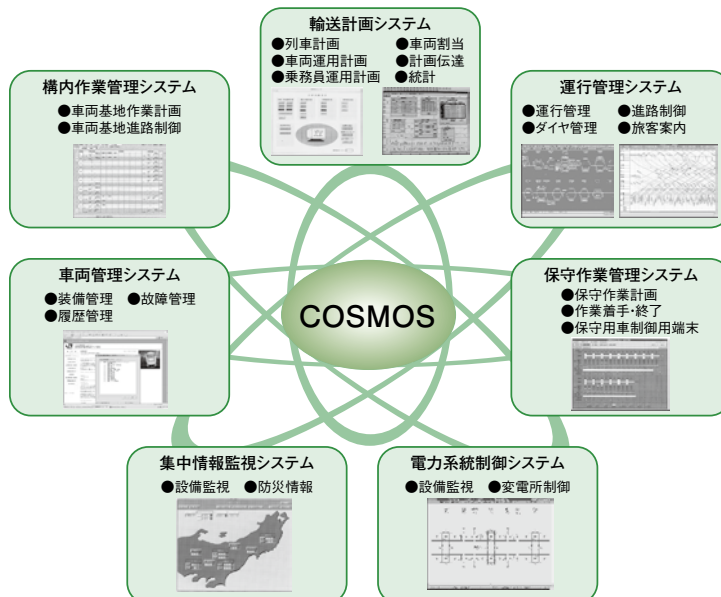
● 新幹線総合システム (COSMOS)

東北・上越新幹線では1982年の開業時から、新幹線運転管理システム「コムトラック」および、情報管理システム「スミス」を導入し、運行管理、情報伝達、設備管理等を支援してきました。

その後の新幹線輸送の多様化(列車本数の大幅な増加、車両編成の増備、新線開業、新駅設置、高速化、在来線への直通、分割・併合運転)へ対応するとともに、業務運営の抜本的な改革、省力化の推進、お客さまへの情報サービスの

充実を基本コンセプトに掲げ、新幹線にかかわるすべての業務を総合的にシステム化した新幹線総合システム「COSMOS (Computerized Safety Maintenance and Operation systems of Shinkansen)」を開発し、1995年11月から使用を開始しました。

COSMOSでは新幹線にかかわる業務を、7つのサブシステムを統合することにより構成し、計画から当日の実施、そして実績までを一元的に管理しています。



■ホームにおけるお客さまへの安全対策

ホームにおけるお客さまの安全を守るため、さまざまな対策を進めています。

●ホームドア

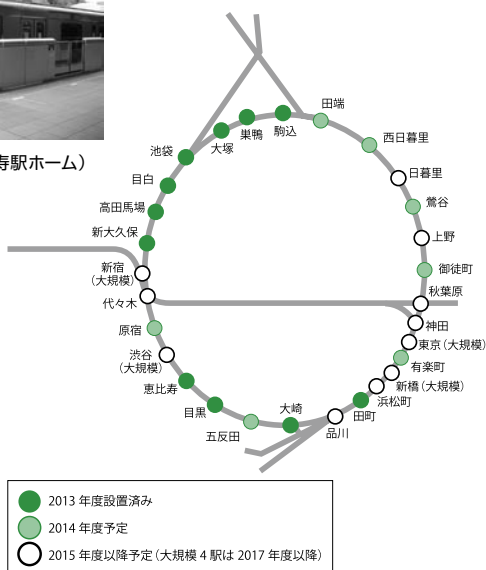
ホームでのお客さまの転落、列車との接触などの事故防止対策として、山手線へのホームドア導入に取り組んでいます。2010年度から設置を開始し、2013年度末時点で11駅に設置が完了しました。今後2015年度までに大規模改良予定駅などを除く23駅に設置する予定です。また、山手線以外の駅については、目の不自由なお客さまのご利用が多い駅など、関係機関と協議しながら設置をめざしていきます。

このほか、1日あたりの乗降人員が10万人以上の駅については、ホーム内側部分に線状突起を設けてホームの内外が分かるようにした内方線付き点状ブロックの整備も進めています。



ホームドア（恵比寿駅ホーム）

○ホームドア設置状況



●列車非常停止警報装置

ホーム柱に設置してある「非常停止ボタン」を扱うことにより、運転士・車掌・駅社員に危険を知らせます。



●ホーム検知装置

列車の最前部と最後部にセンサーを設置し、どちらかのセンサーがホームを検知していない状態では、万一誤扱いがあってもドアが開かないようにし、お客さまの転落を防止します。



●プラットホーム事故0運動

近年は、お酒に酔ったお客さまによる事故が多くなっています。これらの事故を防ぐため、ホーム上での安全について、お客さまにご協力をお願いする「プラットホーム事故0運動」を実施しています。

2013年度は鉄道23社局合同で実施しました。



●ドア挟まり防止キャンペーン

駆け込み乗車や、ドアに荷物や傘等を挟むことの危険性をお客さまにお知らせするため、「ドア挟まり防止キャンペーン」を実施しました。



●車両間の転落防止用幌

お客さまが車両間の隙間から転落することを防止するために、車両間にゴム製幌を設置しています。



●駅ホーム・コンコース用ITV

駅のホームやコンコースにカメラを設置し、ホームにおける安全性向上や駅構内のセキュリティ強化をはかっています。



■ 踏切の安全対策

当社では踏切事故をなくすため、さまざまな施策を実施しています。

今後もさらに、立体交差や踏切統廃合などによる踏切の廃止を進めるとともに、警報機・しゃ断機の設置、障害物検知装置の設置、オーバーハング型警報機、全方向踏切警報灯な

どの増設を推進していきます。

その他にも、踏切事故防止に関するキャンペーンを実施し、踏切を通行するドライバーや歩行者に対し事故防止に協力していただけるよう積極的に呼びかけを行っています。

● 踏切数

年度	1種	3種	4種	合計
1987 会社発足時※	6,263	801	1,294	8,358
2009	6,409	221	528	7,158
2010	6,350	214	519	7,083
2011	6,360	210	503	7,073
2012	6,359	209	481	7,049
2013	6,365	209	463	7,037

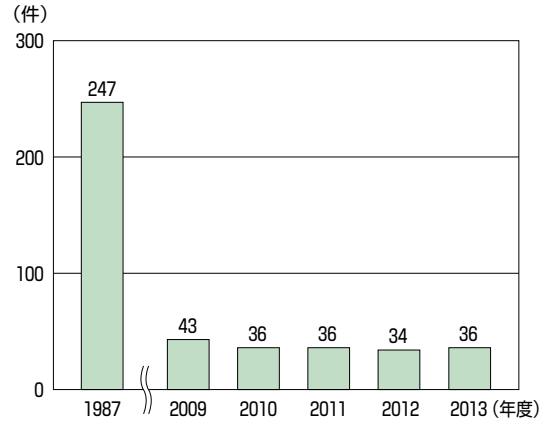
「1種」踏切しゃ断機が設置されている踏切

「3種」踏切警報機が設置されている踏切

「4種」上記以外の踏切

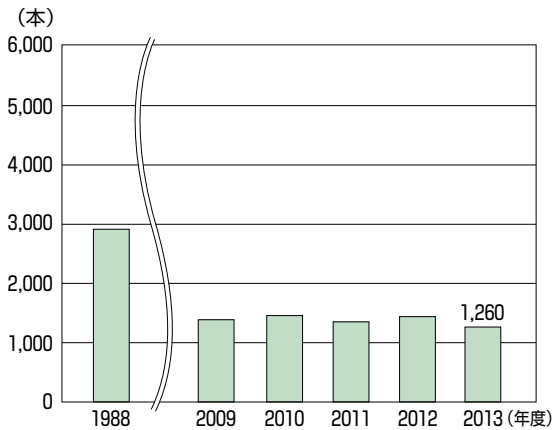
※会社発足時は4月1日、それ以外は3月31日現在

● 踏切障害事故件数



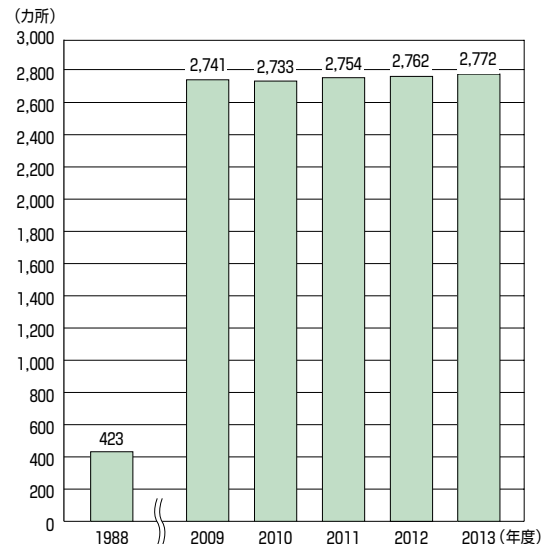
● 踏切しゃ断かん折損件数

自動車などの無謀運転によって、毎年数多くの踏切しゃ断かんが折られています。

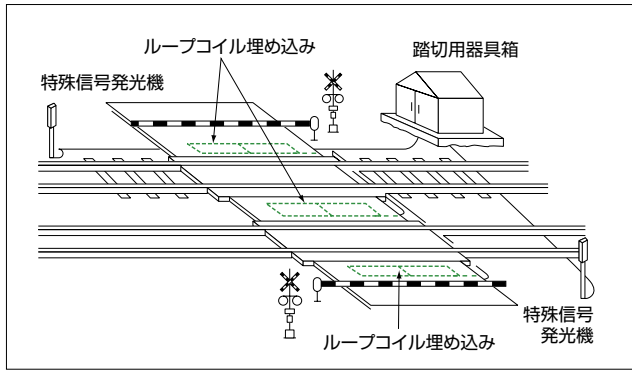


● 障害物検知装置

障害物検知装置は、踏切内で自動車などが立ち往生した場合、特殊信号の発光により異常を列車に知らせるシステムです。いわば踏切事故を防止する安全のゴールキーパーといえるものであり、当社では増設を進めています。

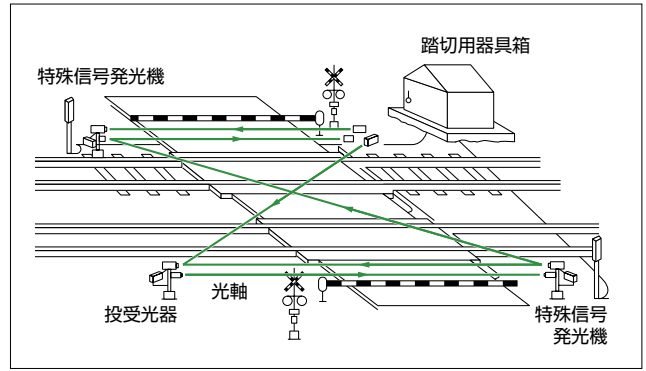


● 障害物検知装置の例



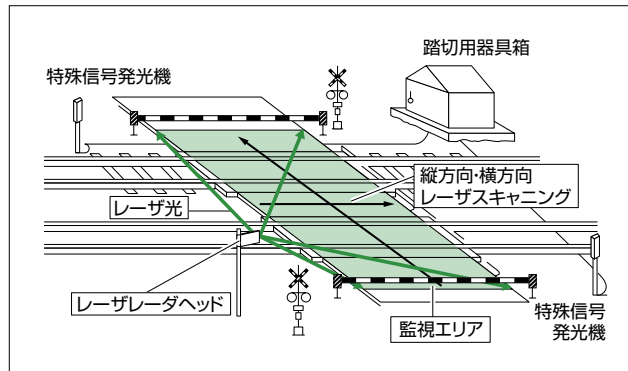
ループコイル方式

踏切道面上に埋め込んだループコイルで踏切直内の自動車を検知し、特殊信号発光機などにより列車に対し停止信号を表示します。



光方式

一定時間光軸（レーザーなど）をしゃ断することで、踏切直内の自動車などの支障物を検知し、特殊信号発光機などにより列車に対し停止信号を表示します。



三次元レーザーレーダ式

レーザー光により計測された三次元データをもとに、あらかじめ設定された監視エリアの障害物を検出し、特殊信号発光機などにより列車に対し停止信号を表示します。

● オーバーハング型警報機

警報機を道路の上方に設け、踏切の存在を目立ちやすくしています。



● 全方向踏切警報灯

360度視認できる警報灯とすることで踏切の警報を見やすくしています。



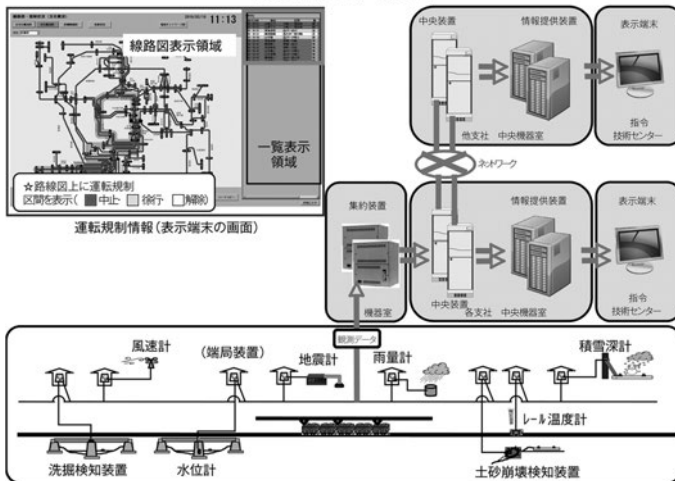
● 踏切事故0運動

踏切を通行する歩行者やドライバーにご協力をお願いする「踏切事故0運動」を実施しています。



防災対策

● 防災情報システム概要図



● 地震観測体制

○ 新幹線早期地震検知システム

新幹線では、地震計を沿線・海岸に計97カ所設置しています。地震の主要動(S波)より先に到着する初期微動(P波)を検知して、より早く列車を停止させることができます。さら

○ 新幹線地震計

設置箇所	線区等別	設置数
沿線	東北	50
	上越	22
	長野	9
	小計	81
海岸	太平洋側	9
	日本海側	7
	小計	16
内陸		30
合計		127

※2013年度未現在

● 新幹線脱線対策

○ 逸脱防止ガイドの設置

車両が脱線した場合に車両がレールから大きく逸脱することを防止。



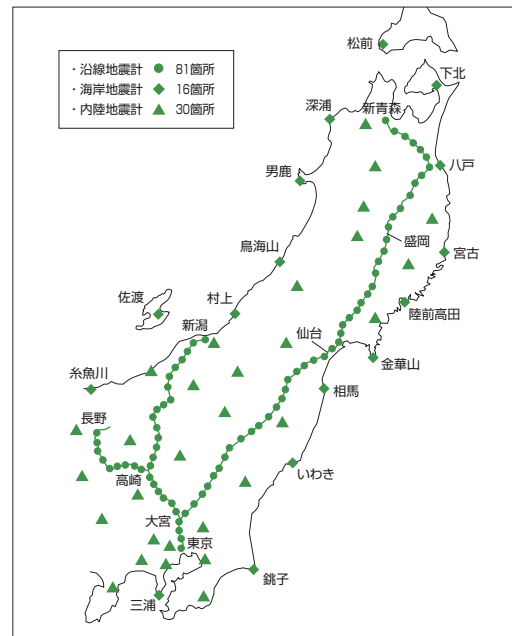
● 主な防災用気象観測機器の設置数

(2013年度末)

	新幹線	在来線	合計
雨量計設置台数	29	522	551
水位計設置台数	0	547	547
地震計設置台数	127	197	324
風速計設置台数	158	781	939

に、首都直下地震および内陸部の地震に備えて、地震計を30カ所増設することで地震観測体制の強化をはかっています。

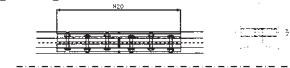
○ 新幹線地震計の設置箇所



○ 接着絶縁継目(IJ)の破断防止策

車両が脱線した場合に、車両の部材が接着絶縁継目部に当たるときの衝撃を低減し、破断を防止。2011年度までに全箇所での設置が完了。

【現行】



【改良】



● 阪神・淡路大震災による緊急耐震補強対策（せん断破壊先行型）

1995年1月17日未明に発生した阪神・淡路大震災を受けて、1995年度からラーメン高架橋柱などの「緊急耐震補強工事」に着

手し、新幹線は1998年度までに、在来線は2000年度までに、南関東・仙台地域等エリア内の補強対策を完了しました。

○ 緊急耐震補強対策

対象構造物	ラーメン高架橋等柱 開削トンネル中柱 橋りょうの落橋防止工								
対象地域	南関東地域 仙台地域 活断層に近接する地域(新幹線)								
対策数量	<table border="0"> <tr> <td>ラーメン高架橋等柱</td> <td>新幹線 約 3,100本</td> </tr> <tr> <td>開削トンネル中柱</td> <td>在来線 約 7,300本</td> </tr> <tr> <td>橋りょうの落橋防止工</td> <td>在来線 約 100本</td> </tr> <tr> <td></td> <td>在来線 約 2,600連</td> </tr> </table>	ラーメン高架橋等柱	新幹線 約 3,100本	開削トンネル中柱	在来線 約 7,300本	橋りょうの落橋防止工	在来線 約 100本		在来線 約 2,600連
ラーメン高架橋等柱	新幹線 約 3,100本								
開削トンネル中柱	在来線 約 7,300本								
橋りょうの落橋防止工	在来線 約 100本								
	在来線 約 2,600連								

○ 補強対象施設と主な補強工法

補強対象施設	主な補強工法
※ 鉄筋コンクリートの柱 ラーメン高架橋の	<p>A-A断面図</p>
中柱 開削トンネルの鉄筋 コンクリート造りの	<p>A-A断面図</p>
橋りょうの 落橋防止工	<p>桁座拡幅工 桁連結工</p>

※ラーメン高架橋：ラーメンとはドイツ語で、結合構造の意。柱と梁(はり)を一体として結合した構造で、全体に力をバランスよく分担させる構造をラーメン構造といいます。この構造形式を用いた橋りょう形式をラーメン高架橋と称します。

● 三陸南地震・新潟県中越地震による耐震補強対策（せん断破壊先行型）

2003年5月26日の三陸南地震以降、緊急耐震補強対策の対象地域(南関東・仙台地域等)外における新幹線ラーメン高架橋柱を中心に、2005年度初から工事に着手し新幹線は2007年度、在来線は他の工事等と関係する一部を除き、2008年度に完了しました。

対象構造物	対策数量
新幹線ラーメン高架橋(南関東・仙台等エリア外)	約15,400本
在来線利用高架橋※(南関東・仙台エリア)	約 5,300本
新幹線橋脚	約 2,340基
在来線橋脚(南関東・仙台エリア)	約 540基

※利用高架橋：高架下が建物等に利用されている高架橋

● 耐震補強対策（曲げ破壊先行型のうち耐震性の低い柱）

地震時のさらなる安全性向上をめざし補強対象を拡大し、2009年度から第2次耐震補強対策として、曲げ破壊先行型の高架橋柱の中で、強い地震動で被害の生じるおそれのある高架橋柱(曲げ破壊先行型のうち耐震性の低い柱)の補強に着手しており、他の工事等と関係する一部を除き、2013年度末に完了しました。

対象構造物	高架下を店舗等で利用していないラーメン高架橋柱(曲げ破壊先行型のうち耐震性の低い柱)
対象線区	南関東、仙台エリアおよび活断層近接地域内の新幹線および在来線(ピーク1時間片道列車本数10本以上の線区)
対策数量	12,200本(新幹線 約6,700本、在来線 約5,500本)
補強方法	柱に鋼板を巻き立てる補強(鋼板補強工法)など

● 首都直下地震対策等

今後発生が予想される首都直下地震に備え、盛土、切取、レンガアーチ高架橋、電化柱等の耐震補強、駅・ホームの天井・壁落下防止対策などに着手するとともに、これまで取り組んできた高架橋柱・橋脚の耐震補強を前倒しします。

また、東日本大震災を踏まえ、乗降人員3,000人/日以上の駅舎の耐震補強や今回の地震で大きな被害が発生した新幹線電化柱の耐震補強に着手しています。

○ 首都直下地震対策（南関東エリア）

対象構造物	対策数量
ラーメン高架橋(新幹線、在来線)	約6,730本
橋脚(新幹線、在来線)	約1,770基
電化柱(新幹線、在来線)※	約1,150本
駅・ホームの天井	約 290駅
駅・ホームの壁	約 40駅

山手線、中央線など9線区の対策：
盛土、切取、橋台背面盛土、脱線防止ガード、無筋コンクリート等橋脚、鉄桁、落橋防止工、トンネル、レンガアーチ高架橋

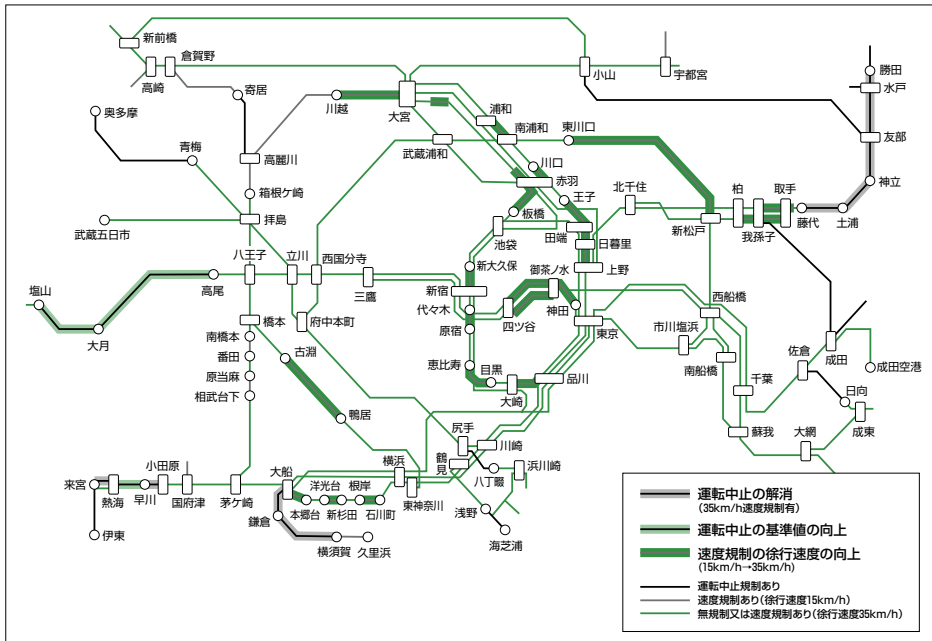
※210本の調査を含む

● 降雨防災対策

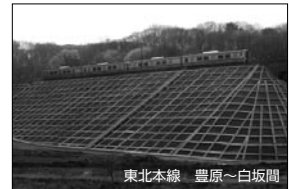
降雨による土砂崩壊災害から線路の安全を守るために全線区において計画的に沿線斜面などの防災対策を行っています。その中でも首都圏エリア、および各新幹線ルートについて

では、集中的な対策を行い、運転中止や速度規制によるダイヤの乱れを減らし、安全・安定輸送を確保していきます。

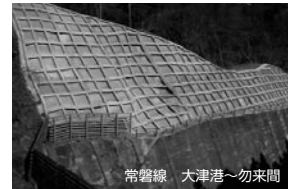
○ 東京100km圏降雨防災強化対策(2004~2008年)エリア



中央本線 日野~豊田間
切取りの面工(吹付砕工)



東北本線 豊原~白坂間
盛土のり面工(吹付砕工)



常磐線 大津港~勿来間
自然斜面防護工(吹付砕工)

安全

● 防風柵の設置

風規制による輸送影響を緩和するために、以下の区間に防風柵を設置しています。(2014年3月31日現在)

線区	区間	設置位置	使用開始
1 東海道本線	根府川橋内	両側	1991年 7月
2 常磐線	夜ノ森~大野間	片側(西側)	1996年 2月
3 川越線	指扇~南古谷間	片側(北側)	1998年 4月 2009年 6月 延長
4 羽越本線	砂越~北余目間	片側(西側)	2006年11月
5 東北本線	藤田~貝田間	片側(西側)	2006年11月
6 東北本線	栗橋~古河間	両側	2007年 3月 北側 2007年 6月 南側
7 常磐線	藤代~佐貫間	両側	2007年 3月
8 京葉線	葛西臨海公園~舞浜間	片側(南側)	2007年 3月
9 京葉線	市川塩浜~二俣新町間	片側(南側)	2007年 3月
10 京葉線	海浜幕張~検見川浜間	片側(南側)	2007年 3月
11 武蔵野線	三郷~南流山間	両側	2007年 3月 南側 2009年 6月 北側
12 京葉線	潮見~新木場間	両側	2007年 6月 南側 2012年10月 北側新設、南側延長
13 京葉線	新木場~葛西臨海公園間	両側	2007年 8月 南側 2012年10月 北側新設、南側延長
14 京葉線	二俣新町~南船橋間	片側(南側)	2007年 8月 2012年10月 延長
15 武蔵野線	南越谷~吉川間	橋りょう部(両側) 片側(北側)	2009年 3月 2010年 2月
16 武蔵野線	北朝霞~西浦和間	両側	2009年12月南側 2010年 8月北側
17 羽越本線	あつみ温泉~小波渡間	片側(西側)	2011年12月
18 内房線	佐貫町~上総湊間	片側(西側)	2012年 3月
19 京葉線	新習志野~海浜幕張間	片側(南側)	2013年12月
20 総武本線	小岩~市川間	片側(南側)	2014年 3月

● 強風警報システム

風速計で実際に観測した風速に加え、予測最大風速が規制値を超えた場合にも運転規制を行うことにより、これまで以上に安全性が確保できる強風警報システムを導入しています。

	2005年12月25日時点	2014年3月末時点
導入箇所数	6	299 (在来線全運転規制区間)

● 風速計の増設

風に対する速度規制を実施している区間について、風の観測体制を強化するために風速計を増設しています。

	風速計の設置数(風規制箇所数)	
	2005年12月25日時点	2014年3月末時点
在来線	228 (221)	781 (299)
新幹線	89 (88)	158 (97)
計	317 (309)	939 (396)

● 車両が風から受ける力をより適正に評価し 運転規制を行う手法の導入

車両に作用する風の力は常に変動しており、その力を適正に評価して、よりの確な運転規制を行い安全性を高めるための手法として

- ① 「風速計による、より適切な風観測の方法」
- ② 「線路の状況や車体形状等を加味した風に対する車両の耐力の計算方法」

について、社外有識者からのご意見を取り入れつつ、これまで研究を進めてきました。この新たな手法を以下の区間に導入しています。(2014年3月31日現在)

線区	区間	導入時期
羽越本線	小波渡~羽前水沢間	2011年12月
	羽前水沢~羽前大山間	
京葉線	新習志野~海浜幕張間	2012年 3月
	千葉みなと~蘇我間	
越後線	越後赤塚~内野間	2012年11月
	青山~関屋間	
	白山~新潟間	
大湊線 (②のみ)	野辺地~有戸間	2013年11月
	有戸~吹越間	
	吹越~陸奥横浜間	
	有畑~近川間	
	赤川~大湊間	

サービス品質

■ サービス品質について

当社では、「グループ経営構想V」において、「変わらぬ使命」の方向性の一つに「サービス品質改革」を掲げ、サービス品質の改革を改めて経営の重要な柱と位置づけました。目標として、お客さまと地域から愛される企業グループになるために、「顧客満足度 鉄道業界No.1」をめざし、部門や

系統を越えたチームワークで「サービス品質」を改革します。そのために、安定性・快適性を高め、輸送品質に磨きをかけるとともに、安心してご利用いただける鉄道づくりを推進し、お客さまに優しい鉄道サービスを徹底的に追求します。



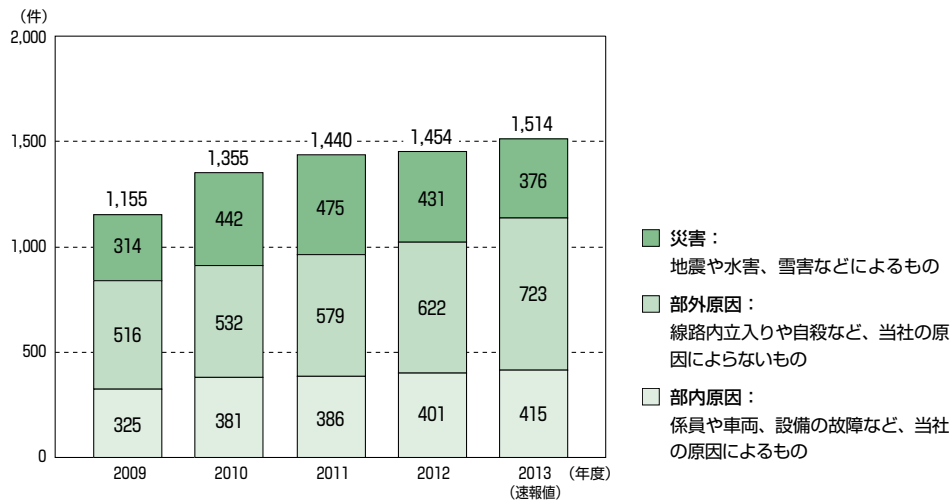
グループ事業展開
鉄道事業

■ 輸送品質の向上

● 輸送障害の発生状況

いわゆる輸送障害とは、車両や設備の故障、災害などにより列車の運休や30分以上の遅延を生じさせたものをいいます。2013年度は増加し、1,514件（対前年+60件）となりました。

輸送障害件数の推移



● 情報提供の充実

○ 駅・車内での列車運行情報の提供

輸送障害が発生した場合に、お客さまがきっぷをお買い求めになる前にお知らせするため、LED式の電光掲示板を首都圏主要線区の駅に設置し、運行情報を提供しています。また、首都圏のATOS線区内の駅では、ホーム上など改札内の電光掲示板でも運行情報を表示しています。

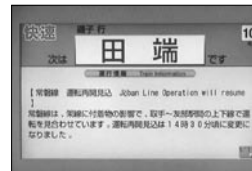
新幹線の車内のLED式電光掲示板、在来線の新型車両の液晶ディスプレイ(山手線、京浜東北線、中央快速線など)や

お客さまへの列車運行情報提供の経緯

1999年 9月～	携帯電話 iモード、J-sky、EZweb
2000年 4月～	インターネットホームページ JR東日本、駅前探険倶楽部、nifty 等
2001年11月～	固定電話 Lモード、J-web
2002年 3月～	常磐快速線LED (E231系)
2002年 4月～	山手線LCD (E231系) 中央線改札外LED (中央線28駅41改札口)
2002年12月～	新幹線車内LED
2003年 3月～	山手線・埼京線改札外LED (山手線27駅78改札口 埼京線18駅25改札口)
2004年 4月～	京浜東北線・武蔵野線改札外LED (京浜東北線29駅40改札口 武蔵野線21駅23改札口) 電話運行情報(首都圏地区)文字の音声化
2005年 2月～	首都圏主要線区改札外LED(154駅)
2007年 2月～	異常時案内用ディスプレイ
2008年 3月	インターネットホームページの多言語化(英語、ハングル、繁体字、簡体字)
2013年 6月	スマートフォンアプリでの運行情報プッシュ通知サービス
2014年 3月	JR東日本アプリ
2014年 7月	異常時案内用ディスプレイの機能改修(他の鉄道会社からの振替乗車案内)

LED式電光掲示板(東海道線、宇都宮線、高崎線、常磐線など)でも運行情報を表示しています。

また、2007年2月より、地図式表示で運行情報を表示するほか、振替乗車路線についても表示する異常時案内用ディスプレイを首都圏の主要駅の改札に設置しています(2014年3月31日現在186駅)。



E231系車内LCDによる運行情報提供(京浜東北線)



異常時案内用ディスプレイ



改札外異常時情報LED

○ ホームページ等による列車運行情報の提供

お客さまが駅においでになる前に情報をお知らせするために、インターネットのホームページや、スマートフォン等へJR東日本エリア全体の運行情報を提供しています。

■ 安心・快適な駅、車両

● バリアフリーの推進(駅における取組み)

○ エレベーター・エスカレーターの整備

バリアフリー新法(高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律)対象駅(乗降人員3,000人/日以上)等に計画的にエレベーター等の整備を行っていきます。

なお、法対象駅のうち、エレベーター等の整備により、段差が解消されている駅は2013年度末現在、約85%に達しています。

(2014年3月31日現在)

項目	設置数	
エレベーター	503駅	1,157基
エスカレーター	368駅	1,790基

注:設置されているすべての駅をカウントしています。

○ 駅のサインシステム

お客さまに安心してスムーズにご利用いただけるよう、主要駅で中国語・ハングルによる案内も一部併記するなど、駅構内の案内表示の改善に取り組んでいきます。

○ ホームページ・携帯電話での遅延証明書の掲載

列車が遅れた場合、それを証明するために、駅の改札口などで遅延証明書を発行していますが、お客さまが集中しお待たせすることがあります。これを軽減するため、2007年1月より、首都圏の主な線区については、朝の通勤・通学時間帯の列車の遅延証明書をホームページでも掲載しています。

(2014年3月31日現在)

目の不自由なお客さまのために	
視覚障害者誘導用ブロック(ホーム)	1,415駅
誘導チャイム	500駅
点字運賃表	760駅

(2014年3月31日現在)

お身体の不自由なお客さまのために	
駅の多機能トイレ	500駅
改札口拡幅(車いす用通路)	1,308駅
スロープ(段差解消)	308駅
車いす用階段昇降機(エスカル等)	24駅



改善前



改善後

● バリアフリーの推進（車両における取組み）

ご高齢のお客さまやお身体の不自由なお客さま、乳幼児をお連れのお客さま、妊娠しているお客さまなどのための優先席を普通列車の各車両に設置しています。

また、2006年12月に導入した新型車両（E233系）では、床や吊り手の色を変えるなど、優先席をわかりやすくするとともに、荷棚・吊り手の高さを5cm低くしています。



● 「声かけ・サポート」運動

安全かつ安心して駅等の当社施設をご利用いただくために、お身体の不自由なお客さまやご高齢のお客さまなど配慮の必要なお客さまを含むお困りになっているすべてのお客さまに社員がお声かけする運動を実施しています。当社社員のほかに、JR東日本グループ各社へも運動の輪を広げています。



● エスカレーターの安全対策

エスカレーターで歩行用に片側をあける習慣は、片側をあけて乗ることのできないお客さまにとって危険な事故につながる場合もありますので、みんなが安心してエスカレーターを利用できるよう「みんなであの手すりにつかまろう」等の呼びかけを実施しています。



● サービスマネージャー

駅構内を巡回し、ご高齢のお客さまや不慣れなお客さまのお手伝いや、異常時における情報提供、さまざまなご案内業務など、きめ細やかなサービスを行う「サービスマネージャー」の人員を増やしています。2014年4月1日現在で50駅に配置しています。

サービスマネージャー配置駅（50駅）

（2014年4月1日現在）

東京、有楽町、新橋、浜松町、秋葉原、品川、蒲田、恵比寿、渋谷、新宿、高田馬場、中野、池袋、上野、日暮里、北千住、松戸、柏、川崎、横浜、大船、小田原、吉祥寺、三鷹、国分寺、立川、八王子、甲府、大宮、熊谷、高崎、水戸、西船橋、千葉、舞浜、空港第2ビル、成田空港、郡山、福島、仙台、山形、盛岡、新青森、秋田、新潟、長岡、越後湯沢、長野、松本、上田

● 女性専用車

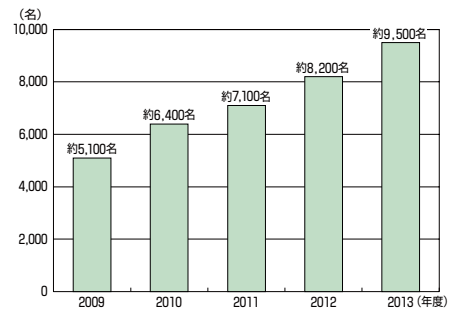
女性専用車導入の経緯	
2001年 7月	埼京線、深夜時間帯に導入
2005年 4月	埼京線、朝通勤時間帯に拡大
2005年 9月	中央快速線、朝通勤時間帯に導入
2006年 5月	常磐線各駅停車、朝通勤時間帯に導入
2006年11月	総武線各駅停車、朝通勤時間帯に導入
2010年 4月	京浜東北・根岸線、朝通勤時間帯に導入



● サービス介助士

お客さまに安心して鉄道をご利用いただくことをめざし、サービス介助士2級資格の取得を進めています。

サービス介助士2級資格の取得者数の推移



● ベビーカーキャンペーン

ベビーカーをご利用のお客さまに安全に駅や列車をご利用いただくため、ベビーカーキャンペーンを実施しています。



● 総合案内カウンター

改札口の役割を「きっぷの確認・精算を行う窓口」から「ご案内主体の窓口」へと重点を移し、お客さまのご案内を総合的に行う総合案内カウンターの整備を進めており、2014年4月1日現在では8カ所に設置されています。

● 首都圏の駅における受動喫煙防止と列車全面禁煙

当社では、社会における禁煙志向の高まりやお客さまのご意見を受け、受動喫煙の防止に取り組んできました。駅については、2009年4月および10月に首都圏の一定エリアの駅においてホーム上の喫煙所の撤去を行い、駅構内の全面禁煙を実施しました。また、お客さまからの実施駅拡大の要望を受け、2011年6月1日から駅の全面禁煙を実施するエリアを拡大しました。

施策の経緯

1987年 7月	原宿駅、目白駅、東京駅地下ホーム、上野駅地下ホームを初めて終日禁煙に。
1992年 8月	山手線各駅で「分煙化」を実施。
1993年 3月	東京近郊区間およびその他の主要駅への「分煙化」拡大。
1997年 3月	全駅において「分煙化」を実施。 分煙機器等を設置していないグリーン車における半室禁煙を解消。 普通列車を全車禁煙化。
2000年12月	灰皿のないデッキでの禁煙を明確化。
2001年12月	グリーン車を原則禁煙化。
2003年 5月	山手線内6駅で時間帯禁煙を実施。
2004年 3月	ホーム喫煙所の集約を実施。 首都圏エリアで禁煙タイムを実施。 新幹線・在来線特急の喫煙車を自由席・指定席各1両として、ほかの車両を禁煙化。
2005年12月	長野新幹線「あさま」、「成田エクスプレス」、房総特急を全面禁煙化。
2007年 3月	新幹線、特急を全面禁煙化
2009年 4月	首都圏の一定エリア内の駅を全面禁煙化。
2009年 6月	会社間を直通する一部の列車を全面禁煙化。
2009年10月	首都圏の駅の全面禁煙実施エリアを拡大。
2011年 6月	首都圏の駅の全面禁煙実施エリアを拡大。
2011年10月	新潟駅から新津駅・豊栄駅・内野駅間の駅を全面禁煙化。
2012年 3月	寝台特急「カンオペア」「北斗星」の食堂車を終日禁煙化。

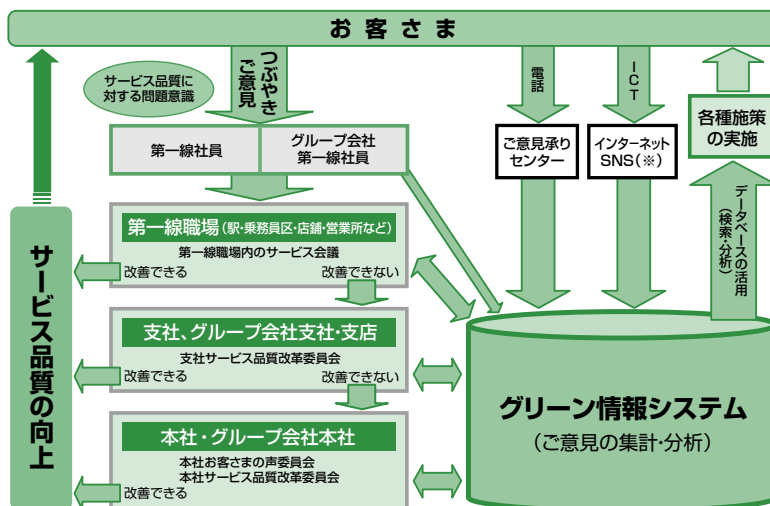
■お客様の声を原点に改善

●お客様の声の収集

○お客様の声をもとにしたサービス品質向上の流れ

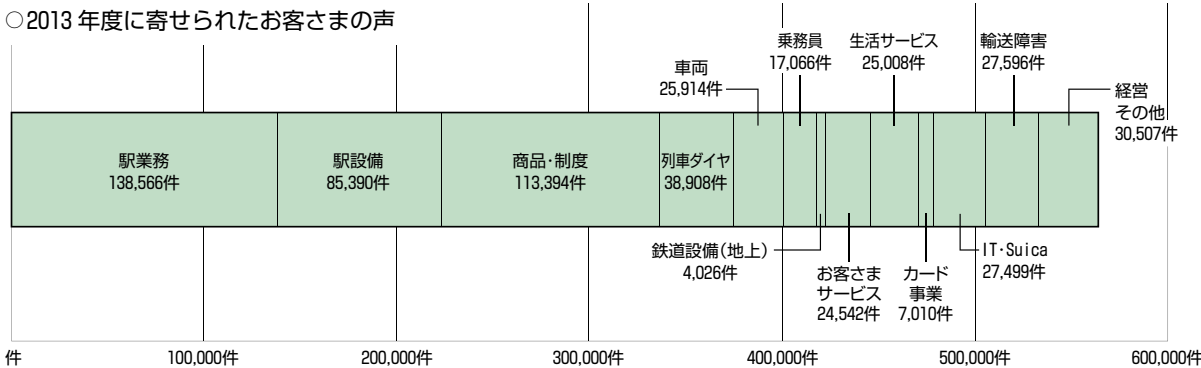
当社におけるサービス品質向上の原点は、「お客様の声」です。お客さまからいただいたご意見は、まずご意見をいただいた箇所でご改善可否を検討し改善を実施しています。

箇所単独での改善が困難な場合は、上部機関で改善策を検討します。ひとつひとつ改善しお客様のニーズに応えることにより、サービス品質の向上につなげています。



※2014年10月より運用開始

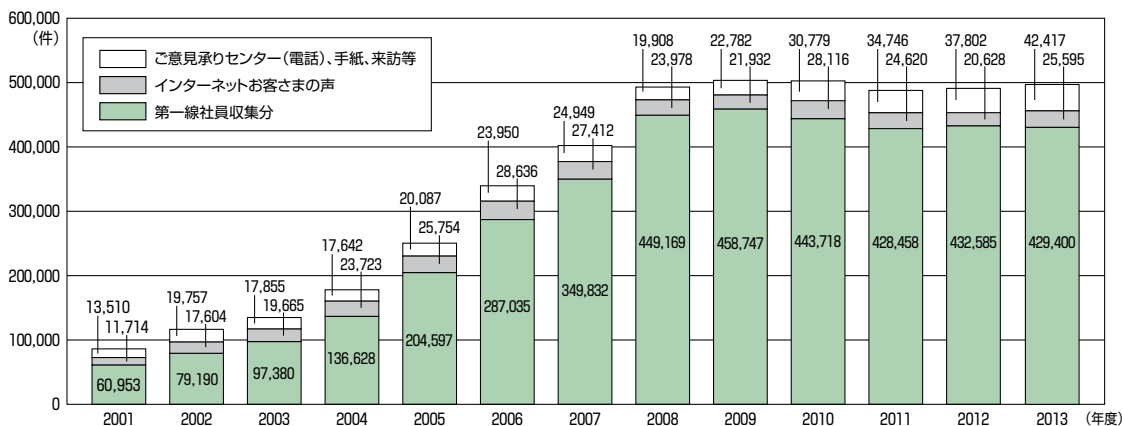
○2013年度に寄せられたお客様の声



「お客様の声」の項目別の内訳 (565,426件)

注:項目別件数は、1件の声に対して項目を複数登録できることから延べ件数となり、総件数と異なります。

○お客様の声の件数の推移 (2001年度～)



○SQ ネットワーク

お客様の声を原点に、チームワークで、迅速にサービス品質を向上することを目的として、輸送サービスに深く関わるグループ会社等と当社で「SQ (Service Quality) ネットワーク」として連携をはかっています。駅などの第一線職

場、支社、本社でグループ会社を交えた会議を開催し、お客様の声の共有化と部門や会社を超えたチームワークによる問題の解決と改善をはかり、JR東日本グループ全体でお客様満足度の向上をめざしています。

● サービス品質よくするプロジェクト

沿線モニター調査等、お客さまとの双方向コミュニケーションを拡大することで潜在的なニーズを把握し、迅速なサービス品質の改善と情報発信を行うプロジェクトです。

2013年3月の武蔵野線と埼京線から開始し、線区別の情報発信から全社的な情報発信まで、サービス品質向上に関するさまざまな情報発信を行っています。



● お客さまの声を伺う体制

当社では現場第一線社員を通じたお客さまの声の収集のほか、インターネットや電話などさまざまなツールを活用して日々ご意見・ご要望収集に努めています。こうしたお客さま

○ ホームページからのご意見・ご要望の受付

当社ホームページに投稿されたお客さまのご意見・ご要望は関係箇所へ届けられ、サービス品質向上のために活用されています。

● 電話によるお問い合わせ

○ JR東日本お問い合わせセンター

「JR東日本お問い合わせセンター」では、列車時刻、運賃・料金、お忘れ物などのさまざまなお問い合わせに電話でお答えしています。

列車時刻、運賃・料金、空席情報案内	050-2016-1600 (6:00~24:00)
お忘れ物についてのお問い合わせ	050-2016-1601 (6:00~24:00)

の声は速やかに会社全体で共有・分析され、一つひとつの改善につながっています。

○ JR東日本ご意見承りセンター

お客さまからのご意見・ご要望を承る電話窓口として、2010年6月から設置しています。

弊社に関するご意見・ご要望	050-2016-1651 (9:00~18:00 ※年末年始を除く)
---------------	--

○ JR East InfoLine (通称：インフォライン)

海外からのお客さま向けに、英語・韓国語・中国語で列車時刻、運賃・料金、きっぷの購入方法、お忘れ物などを電話で案内しています。

外国語(英語、韓国語、中国語)での お問い合わせ (JRイーストインフォライン)	050-2016-1603 (10:00~18:00 ※年末年始を除く)
--	---

■ お客さま視点で「自ら考え、自ら行動する」文化の創造

● 接遇サービス向上の取組み

お客さまの状況にあわせ、お客さまの視点で社員が自ら考え、接遇を行うことをめざした「接遇サービス向上の取組み」を実施しています。

お客さまとの双方向コミュニケーションを通じてお客さまに一步近づき、JR東日本グループが一体となって接遇サービスの向上をはかります。取組みの一環として、全系統の管理

者に対し「部門を超えたチームワークのサービス品質とマネジメント能力の向上」を目的とした研修を実施したり、各駅等において接遇サービス向上の取組みを実践するための勉強会を定期的に実施するなど、さまざまな角度から接遇サービスの向上をめざしています。併せて、社内情報誌を活用し、社員の意識向上をはかっています。

● サービス品質シンポジウム・サービス品質研究会の開催

JR東日本グループ全体で組織横断的にお客さま満足向上をめざす風土を醸成するため、「サービス品質シンポジウム」を開催しています。トップから第一線社員までグループ一丸となってサービス品質の向上に向けて議論を深めています。

また、お客さまのご期待を実現するために、現場第一線社員・管理者・支社・本社が議論する「サービス品質研究会」を開催しています。部門を越えたチームワークの取組み事例などが発表され、サービス品質向上に向けた取組み事例の共有化と社員のサービス品質に対する意識の向上をはかっています。

○ サービス品質シンポジウムのテーマ

回数	年	テーマ
第14回	2005年	お客さまのご期待を実現するために私たちは挑戦します ～トップから現場第一線までグループの全員が一丸となって取り組む～
第15回	2006年	すべてはお客さまへつながる
第16回	2007年	チームワークで取組むサービスの品質の向上
第17回	2008年	「さすが」と評価されるサービスレベルにチームワークで「挑む」
第18回	2009年	みんなで考え、みんなで実践する「お客さま満足の向上」 ～選ばれるグループを目指して～
第19回	2010年	お客さま満足向上に挑戦する文化を創る ～サービス品質向上のためお客さまに一步近づく～
第20回	2011年	「サービス品質改革元年」 ～輸送品質の向上とお客さまの声に基づく改善に挑み続ける～
第21回	2012年	サービス品質改革の実現に向けて ～「一体感のチームワーク」で具体的に実践する～
第22回	2013年	サービス品質よくするプロジェクト ～沿線別にサービス品質をみがく～
第23回	2014年	JR東日本グループ一体となって「顧客満足度鉄道業界NO.1」を達成する “Brushing up our Service Quality” ～ Acquiring No.1 customer satisfaction in the railway industry ～

車両

2014年3月末現在、東北・上越・長野新幹線用電車1,336両をはじめ、あわせて13,348両の車両を保有しています。

その車種、形式は多岐にわたり、40カ所の運転区所などにそれぞれ配置しています。

● 車両数 (2014年3月31日現在)

車種		両数
電車	新幹線	1,336
	在来線	10,926
	小計	12,262
気動車		513
電気機関車		47
ディーゼル機関車		43
蒸気機関車		4 (C58)
客車		130
貨車		349
合計		13,348

注) : E995形試験電車1両、209系試験電車6両を除きます。

■ 鉄道車両製造事業の展開

● 旧新津車両製作所の概要

(現・(株)総合車両製作所 新津事業所)

○ 概要

社員数 約330名
敷地面積 約150,000㎡
建物面積 約49,500㎡
ISO9001 1998年3月取得
ISO14001 1999年2月取得

○ 車種別車両製造実績

(2014年3月31日現在)

209系	595両
E217系	266両
E231系	1,538両
E531系	176両
E233系	1,718両
合計	4,293両

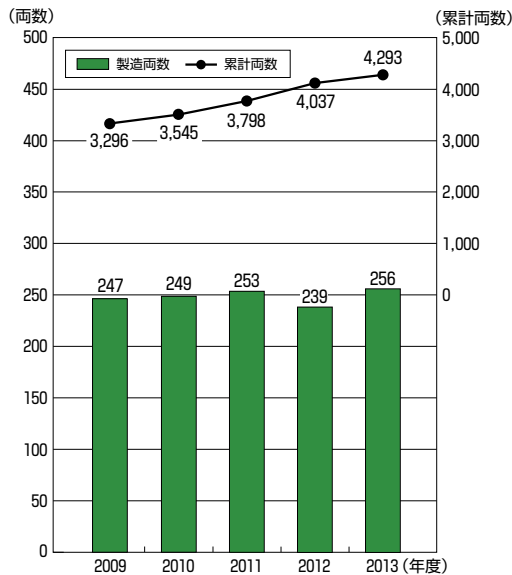
注) : 社外向け車両71両を含みます。

● (株)総合車両製作所 横浜事業所の概要

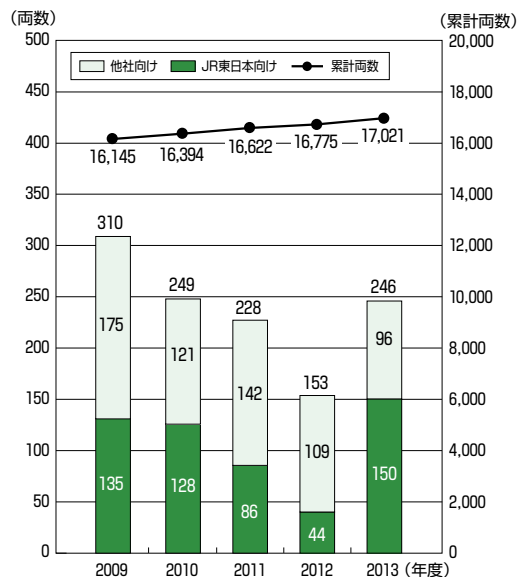
○ 近年の主な車両製造実績

JR東日本向け		新車納入先公民鉄	
E233系	E3系	東京急行電鉄	京成電鉄
E721系	E7系	京浜急行電鉄	東京都交通局
E259系	キハE130系	小田急電鉄	南海電気鉄道
E655系	キハE200形	京王電鉄	相模鉄道
E657系	HB-E300系		

○ 近年の車両製造両数の推移



○ 近年の車両製造両数の推移



■ 主な新型車両の導入線区

● JR発足後に導入された新型車両の使用状況（新幹線・特急車両）

(2014年3月31日現在)

	形式	列車名	主な運転線区と区間	両数
特急（電車）	251系	スーパービュー踊り子	東海道本線(東京・池袋・新宿～伊豆急下田)	40
	651系	スワローあかぎ、あかぎ、草津等	高崎、上越(上野～前橋・万座鹿沢口)	95
	E653系	いなほ等	白新、羽越(新潟～秋田)	72
	253系	日光・きぬがわ	山手、東北、東武(新宿～東武日光・鬼怒川温泉)	12
	E259系	成田エクスプレス	総武本線・成田線(大船・横浜・大宮・高尾・池袋・新宿～成田空港)	132
	E751系	つがる	奥羽本線(秋田～青森)	18
	255系	ビューさざなみ	内房線(東京～君津・館山)	45
		ビューわかしお	外房線(東京～上総一ノ宮・安房鴨川)	
	E257系	あずさ	中央本線(千葉・東京・新宿～松本・南小谷)	154
		かいじ	中央本線(東京・新宿～甲府・竜王)	
		さざなみ	内房線(東京～君津・館山)	95
		わかしお	外房線(東京～上総一ノ宮・安房鴨川)	
		しおさい	総武本線(東京～成東・銚子)	
		あやめ	総武本線・成田線(東京～成田・佐原)	
E351系	スーパーあずさ	中央本線(新宿～松本)	60	
E657系	スーパーひたち、フレッシュひたち	常磐線(上野～いわき)	160	
E655系	和(なごみ)		5	
特急（客車）	E26系	カシオペア	東北本線(上野～札幌)	12
新幹線	E2	はやて、とき、あさま ほか	東北・上越・長野新幹線(東京～盛岡・新潟・長野)	482
	E3	やまびこ、つばさ ほか	東北・山形新幹線(東京～盛岡・新庄)	154
	E4	Maxとき、Maxたにかがわ	上越新幹線(東京～越後湯沢・新潟)	192
	E5	はやぶさ、はやて ほか	東北新幹線(東京～仙台・新青森)	280
	E6	こまち ほか	東北・秋田新幹線(東京～秋田)	161
	E7	あさま	長野新幹線(東京～長野)	60

● JR発足後に導入された新型車両の使用状況（首都圏）

(2014年3月31日現在)

	形式	主な運転線区と区間	車両の特徴	両数
首都圏	E231系	山手線(大崎～大崎)	拡幅車	572
	E233系	京浜東北線、根岸線(大宮～大船)	拡幅車	830
	215系	東海道線(東京～小田原)ほか	2階建てグリーン車、拡幅車	40
	E217系	横須賀・総武快速線(久里浜～千葉) 成田線(千葉～成田空港) 東海道線(東京～熱海)ほか	2階建てグリーン車、拡幅車	745
	E233系	東海道線(東京～熱海)ほか	2階建てグリーン車、拡幅車	240
	209系	南武線(川崎～立川)		24
	E231系	中央・総武緩行線(三鷹～千葉)	6扉車、拡幅車	470
	209系	中央・総武緩行線(三鷹～千葉)	拡幅車	130
	E231系	中央・総武緩行線(三鷹～津田沼) 東京メトロ東西線(中野～西船橋)	地下鉄東西線乗り入れ用	70
	E231系 ※	宇都宮線、高崎線、湘南新宿ライン、東海道線(小田原・逗子・上野～黒磯・前橋)ほか	2階建てグリーン車、拡幅車	1,255
	209系	川越・八高線(川越～八王子)		24
	209系	常磐緩行線(綾瀬～取手)	地下鉄千代田線 乗り入れ用	20
	E233系	東京メトロ千代田線(綾瀬～代々木上原)		180
	E231系	常磐快速線(上野～取手) 成田線(我孫子～成田)	拡幅車	265
	E233系	中央快速線(東京～高尾)ほか 青梅線(立川～奥多摩) 五日市線(拝島～武蔵五日市)	拡幅車	688
	E233系	京葉線(東京～蘇我)ほか	拡幅車	240
	E501系	常磐線(土浦～いわき) 水戸線(小山～友部)	交直流	60
	E531系	常磐線(上野～水戸・高萩)	交直流、拡幅車	310
	E233系	高崎線(上野～高崎)ほか	拡幅車	250
	209系	総武本線、成田線、内外房線ほか(千葉～銚子、佐倉～松岸、千葉～安房鴨川)		324
E233系	川越・埼京線、りんかい線(川越～大崎～新木場)		310 2014.3.31投入完了	
E233系	横浜線(東神奈川～八王子)ほか		104 2014.3.31投入完了	

※訓練車5両を含む

● JR発足後に導入された新型電車、新型気動車の使用状況（地方ローカル線）

○ 新型電車投入状況

(2014年3月31日現在)

主な運転線区と区間	形式	両数	
東北本線	一ノ関～盛岡	30	
	黒磯～一ノ関		
常磐線	701系	76	
仙山線			
奥羽本線		116	
羽越本線			
津軽線		20	
田沢湖線			
奥羽本線		719系	24
東北本線			84
仙山線			
羽越本線		E127系	26
白新線			
信越本線	E721系	92	
越後線			
大系線	EV-E301系	2	
東北本線			
仙山線	E721系	92	
常磐線			
烏山線	EV-E301系	2	

○ 新型気動車投入状況

(2014年3月31日現在)

主な運転線区と区間	形式	両数
大湊・八戸線	キハ100系	7
釜石・山田線		17
大船渡線		23
北上線	キハ100系(ロング)	13
左沢線		
釜石・山田線	キハ110系	42
花輪線		19
磐越東線		
小海線		18
八高線		21
磐越西線		22
羽越本線		
飯山線		18
陸羽東線		
陸羽西線		40
気仙沼線		
八戸線	3	
水郡線	キハE130系	39
小海線	キハE200形	3
米坂線	キハE120系	8
大湊線等	HB-E300系	4
五能線等		
大系線等	キハE130系	2
久留里線		

■代表車両の主要諸元



愛称 はやて、やまびこ、あさま、なすの、とき、たにがわ

形式 E2系
投入 1997年3月
最高速度 275km/h
両数 482両

- 特徴
軽量、低騒音の高速走行用車両として開発。最高速度275km/hで運転し到達時間を短縮。
- サービス設備
フルリクライニング・シート、車内情報表示装置、FM・TV音声車内輻射、車いす対応腰掛け、車いす対応トイレ、多目的室、女性専用トイレ、荷物スペース



愛称 はやて、つばさ、やまびこ、なすの

形式 E3系
投入 1997年3月
最高速度 275km/h
両数 154両

- 特徴
新幹線区間と在来線区間を直通運転できる高速車両。新幹線区間では最高速度275km/hで運転し到達時間を短縮。
- サービス設備
フルリクライニング・シート、車内情報表示装置、車いす対応腰掛け、車いす対応トイレ、多目的室、FM・TV音声車内輻射



愛称 Maxとき、Maxたにがわ

形式 E4系
投入 1997年12月
最高速度 240km/h
両数 192両

- 特徴
オール2階建て構造により座席数を最大限確保し、着席サービスを向上。2本を連結した16両編成では、高速列車として世界最大の定員数1,634人。
- サービス設備
フルリクライニング・シート、車内情報表示装置、FM・TV音声車内輻射、車いす対応腰掛け、車いす対応トイレ、多目的室、売店、女性専用トイレ、車いす昇降装置



愛称 はやぶさ、はやて、やまびこ、なすの

形式 E5系
投入 2011年3月
最高速度 320km/h
両数 280両

- 特徴
国内最高速となる320km/hでの営業運転性能を有する車両として開発。
- サービス設備
可動枕つきフルリクライニング・シート、フルカラー車内情報表示装置、FM・TV音声車内輻射、改良型ハンドル形車いす対応トイレ、多目的室、女性専用トイレ・洗面所、防犯カメラ



愛称 こまち

形式 E6系
投入 2013年3月
最高速度 320km/h
両数 161両

- 特徴
新幹線区間と在来線区間を直通運転できる高速車両。新幹線区間では最高速度320km/hで運転し到達時間を短縮。
- サービス設備
可動枕つきフルリクライニング・シート、フルカラー車内情報表示装置、FM・TV音声車内輻射、改良型ハンドル形車いす対応トイレ、多目的室、洗面所、防犯カメラ



愛称 あさま

形式 E7系
投入 2014年3月
最高速度 260km/h
両数 60両

- 特徴
北陸新幹線開業に向けて開発。北陸新幹線区間の30%勾配や電源周波数 50Hz/60Hz両方に対応。
- サービス設備
可動枕つきフルリクライニング・シート、フルカラー車内情報表示装置、FM・TV音声車内輻射、改良型ハンドル形車いす対応トイレ、多目的室、女性専用トイレ・洗面所、防犯カメラ、全座席コンセント、全LED照明



愛称 カシオペア

形式 E26系
投入 1999年7月
最高速度 110km/h
両数 12両

- 特徴
新しい旅の提案として個室、食堂車、ラウンジ等の設備を整え「快適空間を実現した寝台列車」。オール2階建て車両、オール2人用個室、全室にトイレ、洗面台設置。
- サービス設備
TV(ビデオ・BS放送)、文字ニュース放送、BGM放送、トイレ、洗面台、車いす対応個室、共用シャワールーム、ミニロビー、自動販売機、食堂車、ラウンジ(インターフォン、クローク、シャワールームは一部車両に設置)



愛称 あずさ、かいじ、わかしお、さざなみ、しおさい、あやめ

形式 E257系
投入 2001年12月
最高速度 130km/h
両数 249両

- 特徴
アルミ車体。大きな窓、明るい車内で快適性を追求。空調装置を床下に搭載して車内騒音低減や低重心化をはかり、通年最適な全自動空調制御を実施。列車情報管理装置(TIMIS)の導入で主な装置との機能性向上。
- サービス設備
フルリクライニング・シート、車内情報表示装置、自動放送装置(和・英文)、車いす対応腰掛け、車いす対応トイレ、多目的室、ドア開閉音声装置



愛称 成田エクスプレス

形式 E259系
投入 2009年10月
最高速度 130km/h
両数 132両

●特徴

1991年にデビューした「253系」で築いてきた空港特急の代名詞「N'EX」のブランドイメージをベースに、ユニバーサルデザインを採用し、快適性、セキュリティをブラッシュアップ。エクステリアデザインは、赤・白・黒をベースカラーとした253系のブランドを継承。インテリアデザインは、日本の伝統紋様である市松紋様をデザインキーワードとしている。

●サービス設備

可動枕つきフルリクライニング・シート、座席コンセント、車いす対応腰掛け、車いす対応トイレ、多目的室、AED、4カ国語（日英中韓）対応大型液晶案内装置、ダイヤルロック式の錠を備えた荷物置場、防犯カメラ、車内インターネット



愛称 スーパーひたち、フレッシュひたち

形式 E657系
投入 2012年3月
最高速度 130km/h
両数 160両

●特徴

E259系の基本構造や新しい技術、サービスを取り入れ、快適な車内環境、ビジネスユースへの対応、安心してご利用いただける車内設備をコンセプトとした特急形交直流電車。エクステリアおよびインテリアデザインには借樂團の梅など沿線にちなんだ配色、柄を採用。

●サービス設備

可動枕つきフルリクライニング・シート、座席コンセント、車いす対応腰掛け、車いす対応トイレ、多目的室、AED、フルカラー大型LED車内案内表示器、防犯カメラ、車内インターネット



形式 E233系
投入 2006年12月
最高速度 120km/h
両数 2,842両

●特徴

E231系の技術を踏襲し、主要機器を二重系化し信頼性を向上。女性専用車や優先席部分の荷棚・吊り手高さの低減、優先席エリアの明確化等のユニバーサルデザインの採用、空気清浄機の設置、液晶画面やフルカラーLEDによる情報案内の充実など、アンケートやインタビューに基づくお客さまニーズを反映したデザイン。

●サービス設備

ラジオ放送車内輻射、車内情報表示装置、車いすスペース、車いす対応トイレ(近郊タイプ)



形式 E531系
投入 2005年7月
最高速度 130km/h
両数 310両

●特徴

E231系の交直流形の近郊形電車。通勤・近郊タイプでは初の130km/h運転を実施。客室床面とホームの段差縮小をはかるなどさらなるバリアフリー化を実現。

●サービス設備

ラジオ放送車内輻射、車内情報表示装置、車いすスペース、車いす対応トイレ



形式 E231系
投入 2000年3月
最高速度 120km/h
両数 2,632両（※訓練車5両含む）

●特徴

通勤・近郊タイプの基本仕様を統一し、幅広車体による混雑緩和をはかり、列車情報管理装置(TIMIS)の導入により配線の大幅削減、全自動制御による空調の最適化、出区点検の自動化等のメンテナンスフリー化を実現。

●サービス設備

ラジオ放送車内輻射、車内情報表示装置、車いすスペース、車いす対応トイレ(近郊タイプ)



形式 E721系
投入 2007年2月
最高速度 120km/h
両数 92両

●特徴

低床化により客室床面を地方線区の低いホームにあわせ、ステップのない出入口としバリアフリー化を実現。幅広車体を採用し車内はセミクロスシートで、仙台空港アクセス用車両には荷物スペースを設置。

●サービス設備

駅名表示器、車いすスペース、車いす対応トイレ



形式 キハE200形
投入 2007年7月
最高速度 100km/h
両数 3両

●特徴

発電用ディーゼルエンジンで発電した電気と蓄電池に充電した電気を効果的に利用して走行する、世界初の営業運転を行うハイブリッド車両。燃料消費量のほか、窒素酸化物と粒子状物質の排出量を低減するとともに、駅停車時はアイドリングストップによりエンジン騒音を抑制。

●サービス設備

駅名表示器、車いすスペース、車いす対応トイレ



形式 HB-E300系
投入 2010年10月
最高速度 100km/h
両数 10両

●特徴

ディーゼルハイブリッドシステムを搭載したリゾートトレイン。主に津軽・大湊線を走行する盛岡編成、五能線を走行する秋田編成、信越地区を走行する長野編成があり、それぞれ走行地域の特徴を表す外観デザイン。環境に優しく、観光地沿線走行に相応しい車内設備。

●サービス設備

フルリクライニング・シート、半個室(秋田編成)、展望室・イベントスペース、駅名表示器、液晶案内表示器、前面眺望カメラ、イベント用カメラ、車いす対応腰掛け、車いす対応トイレ、洗面台

輸送

●ダイヤ改正における主な施策

改正日	新幹線	在来線
2009. 3. 14(土)(平成 21 年)	夕時間帯の仙台行「はやて」新設 大宮～越後湯沢間 DS-ATC 化による「とき」 「たにかわ」「あさま」到達時分短縮	「はくたか」増発(2009.6～) 湘南新宿ライン等で夜間帯増発 寝台特急「はやぶさ・富士」廃止 「ムーンライトながら」「ムーンライトえちご」臨時列車化
2010. 3. 13(土)(平成 22 年)	越後湯沢～新潟間 DS-ATC 化による「とき」 到達時分短縮	「成田エクスプレス」の増発・新型車両(E259系)投入 寝台特急「北陸」・急行「能登」臨時列車化
2010. 12. 4(土)(平成 22 年)	東北新幹線八戸～新青森間開業 「はやぶさ」E5系運転開始(2011.3.5～) 300km/h 運転開始	新青森からの新たな特急体系を構築(「スーパー白鳥」「白鳥」「つがる」) 武蔵野線から大宮直通列車「しもうさ号」「むさしの号」 の新設 「水上」臨時列車化、「おはようちぎ」「ホームタウンとちぎ」廃止
2011. 3. 12(土)(平成 23 年)		南武線データイムの快速列車新設、夜間帯増発
2012. 3. 17(土)(平成 24 年)	東北新幹線 E5系追加投入 山形新幹線「つばさ」到達時分短縮	「スーパーひたち」「フレッシュひたち」に新型車両(E657系)投入 寝台特急「日本海」「きたぐに」廃止
2012. 9. 29(土)(平成 24 年)	山形新幹線「つばさ」到着時分短縮 東北新幹線 E5系追加投入 上越新幹線 輸送力増強	
2013. 3. 16(土)(平成 25 年)	東北新幹線「はやぶさ」国内最高速320km/h 運転開始 秋田新幹線「スーパーこまち」デビュー (新型車両 E6系を使用した300km/h 運転開始)	「スーパーひたち」「フレッシュひたち」を E657系に統一 「フレッシュひたち」通勤時間帯に増発 湘南新宿ライン浦和駅停車 武蔵野線平日データイム12分→10分間隔
2014. 3. 15(土)(平成 26 年)	秋田新幹線「こまち」320km/h 運転開始 長野新幹線 E7系運転開始	新たな通勤着席サービス「スワローサービス」を開始 常磐緩行線データイム12分→10分間隔 寝台特急「あけぼの」廃止

●1日当たりの列車キロの推移(ダイヤ改正時)

(単位:千キロ)

年月日	1987.4.1	2010.12.4	2011.3.12	2012.3.17	2013.3.16	2014.3.15
新幹線	55.2	101.1	104.5	104.6	104.6	104.6
在来線	563.1	607.3	607.9	594.7	597.1	594.2
(首都圏:普通列車のみ)	342.4	419.7	419.6	417.1	418.3	417.6
合計	618.3	708.4	712.4	699.3	701.8	698.8

列車キロ:本線を営業運転した列車の走行キロで、駅や区所構内の入換は含まない。

●1日当たりの車両キロの推移(ダイヤ改正時)

(単位:万キロ)

年月日	1987.4.1	2010.12.4	2011.3.12	2012.3.17	2013.3.16	2014.3.15
新幹線	66.2	119.5	122.8	122.8	125.8	117.2
在来線	423.4	504.8	505.1	497.5	499.6	492.3
(首都圏:普通列車のみ)	298.1	408.8	409.2	407.7	409.4	408.7
合計	489.7	624.3	627.9	620.3	625.4	609.5
関東大手民鉄8社平均(年度計)	26.5	—	—	—	—	—

車両キロ:列車キロに編成両数を掛けた値。

●1日当たりの列車本数(ダイヤ改正時)

(単位:本)

年月日	1986.11.1 (国鉄)	1988.3.13 (JR発足初)	2010.12.4	2011.3.12	2012.3.17	2013.3.16	2014.3.15
新幹線	159	200	322	328	327	327	328
在来線	10,257	10,975	12,377	12,404	12,430	12,457	12,445
合計	10,416	11,175	12,699	12,732	12,757	12,784	12,773

注1):旅客列車のみ(ただし回送を除く) 注2):定期列車+季節列車

● 輸送人キロ・輸送人員の推移

(単位:億人キロ、百万人)

年度		1987	2009	2010	2011	2012	2013	
輸送人キロ	新幹線	定期	1	16	16	16	17	
		定期外	120	164	159	167	184	191
		合計	121	181	176	184	201	208
	在来線	定期	586	720	720	714	716	728
		定期外	336	367	358	351	366	373
		合計	923	1,088	1,078	1,066	1,082	1,102
合計		1,044	1,269	1,255	1,250	1,283	1,311	
輸送人員	新幹線	49	88	86	87	94	98	
	在来線	5,062	6,051	6,018	6,000	6,091	6,201	
	合計	5,068	6,088	6,055	6,038	6,134	6,246	

注1):新幹線と在来線とを乗り継ぐ場合があるので、輸送人員の合計値は新幹線・在来線の単純合計値とは一致しません。

注2):表示単位未満は切り捨てです。

● 運輸収入の推移

(単位:億円)

年度		1987	2009	2010	2011	2012	2013
新幹線	定期	15	227	227	224	227	228
	定期外	3,102	4,167	4,088	4,172	4,693	4,843
	合計	3,118	4,395	4,315	4,396	4,920	5,071
在来線	定期	3,957	4,689	4,683	4,601	4,646	4,579
	定期外	6,940	7,322	7,091	6,954	7,248	7,313
	合計	10,898	12,011	11,775	11,556	11,894	11,892
小計		14,016	16,406	16,091	15,952	16,814	16,964
荷物運賃		5	2	0	0	0	0
合計		14,022	16,408	16,092	15,953	16,815	16,965

注1):表示単位未満は切り捨てです。

● 新幹線の概要

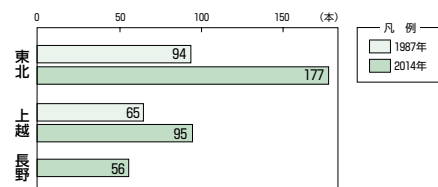
(2014年3月31日現在)

	東北新幹線	上越新幹線	長野新幹線(北陸新幹線)	山形新幹線	秋田新幹線
開業日	大宮開業 1982年6月23日 上野開業 1985年3月14日、東京開業 1991年6月20日 八戸開業 2002年12月1日 新青森開業 2010年12月4日	大宮開業 1982年11月15日	1997年10月1日	1992年7月1日 新庄開業1999年12月4日	1997年3月22日
営業キロ	東京～新青森 713.7キロ	大宮～新潟 303.6キロ (東京～新潟 333.9キロ)	高崎～長野 117.4キロ (東京～長野 222.4キロ)	東京～新庄 421.4キロ	東京～秋田 662.6キロ
駅数	23駅	9駅(大宮含まず)	5駅(高崎含まず)	10駅(在来区間)	5駅(在来区間)
最高速度	320km/h	240km/h	260km/h	275km/h (130km/h福島～新庄)	320km/h (130km/h盛岡～秋田)
運転本数	177本/日	95本/日	56本/日	33本/日	32本/日
列車キロ	7.4万キロ/日(東京～新青森)	2.5万キロ/日(大宮～新潟)	0.6万キロ/日(高崎～長野)	1.2万キロ/日(東京～新庄)	1.9万キロ/日(東京～秋田)
運転時間 (最速達:下り)	東京～新青森 2時間59分 (はやぶさ) 東京～仙台 1時間31分 (はやぶさ)	東京～新潟 1時間37分 (とき)	東京～長野1時間24分 (あさま)	東京～新庄 3時間11分 (つばさ) 東京～山形 2時間26分 (つばさ)	東京～秋田 3時間37分 (スーパーこまち)

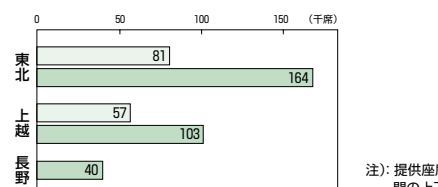
● 東北・上越・長野新幹線の列車本数と座席数(1日当たり)

JR発足時にくらべ、列車の増発やオール2階建て新幹線「Max」の投入などにより座席数は、東北新幹線で約2.0倍、上越新幹線で約1.8倍となっています。

列車本数

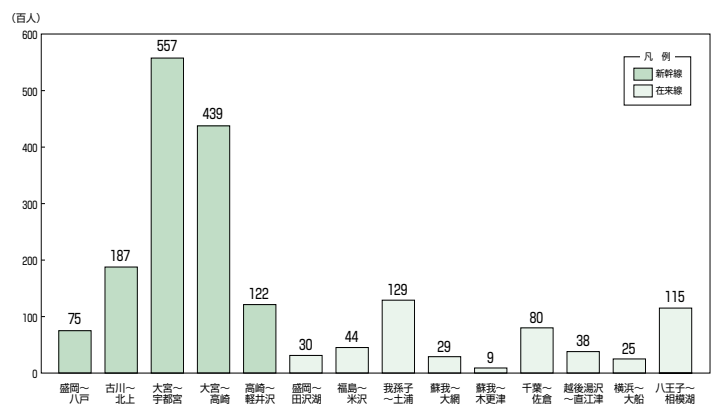


提供座席数

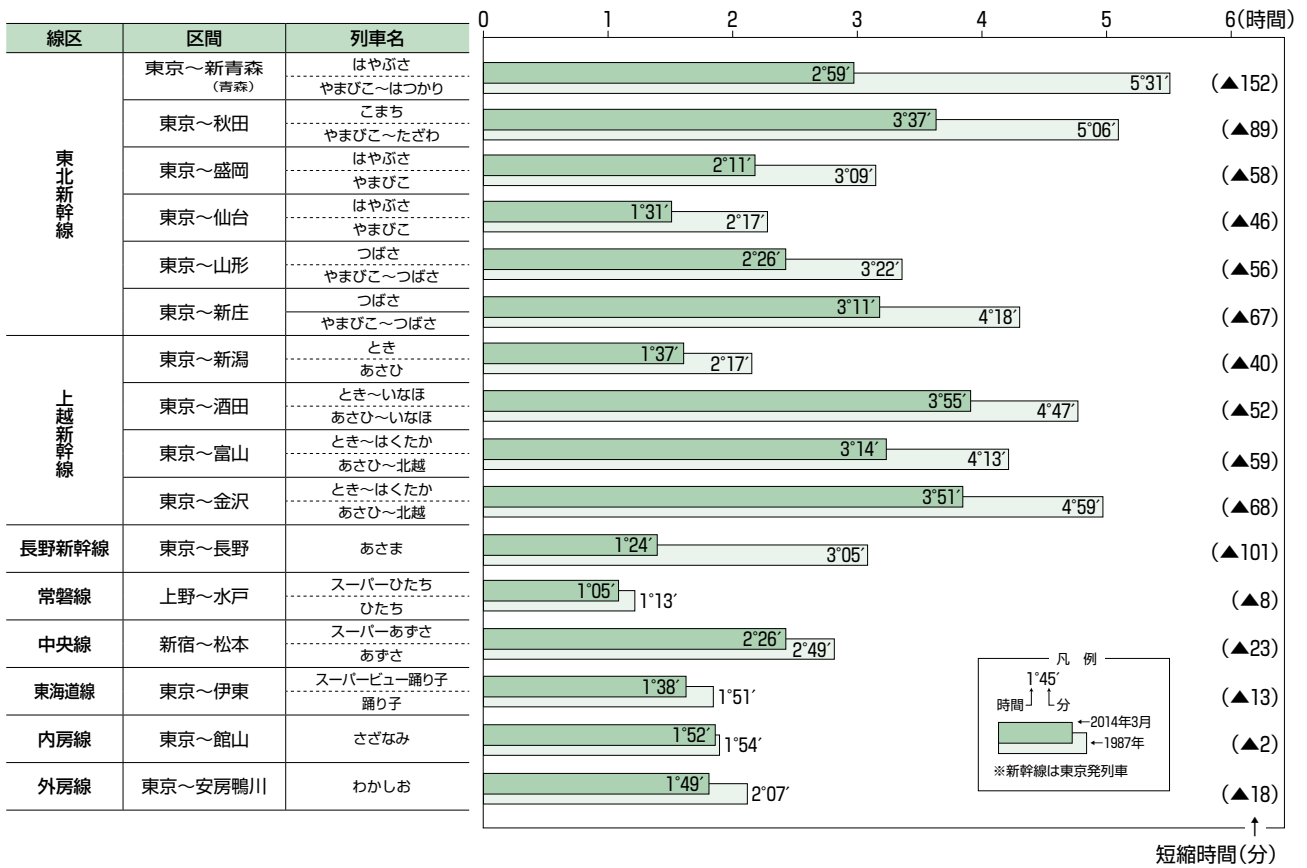


注):提供座席数は上野～大宮間の上下計を示す。

● 主要区間新幹線および特急列車輸送量(2013年度 下り1日当たり)



●主要都市までの所要時間(2014.3:下り最速達列車)



鉄道事業

●主な特急列車の最高速度・表定速度(下り最速達列車基準)

〔新幹線〕

(2014年3月31日現在)

列車名	線名	区間	最高速度	表定速度
はやぶさ	東北新幹線	東京～新青森	320	226
とき	上越新幹線	東京～新潟	240	186
あさま	長野新幹線 (北陸新幹線)	東京～長野	260	161
つばさ	山形新幹線	東京～新庄	275(130)	127
こまち	秋田新幹線	東京～秋田	320(130)	172

注)「つばさ」「こまち」の最高速度欄の()内は在来線部分を表しています。(単位:km/h)

〔在来線〕

(2014年3月31日現在)

列車名	線名	区間	最高速度	表定速度
スーパーひたち	常磐線	上野～水戸	130	109
スーパーあずさ	中央線	新宿～松本	130	93
成田エクスプレス	総武・成田線	東京～成田空港	130	90
はくたか	上越・(ほくほく)・信越線	越後湯沢～(金沢)	160	103

注1)線名、区間欄の()は、他会社線であることを示しています。(単位:km/h)
 注2)表定速度は、目的地までの所要時間に対する速度です。
 表定速度 = ((距離 "km") × 60) ÷ (所要時間 "分")

●首都圏主要線区の輸送状況（ピーク1時間）

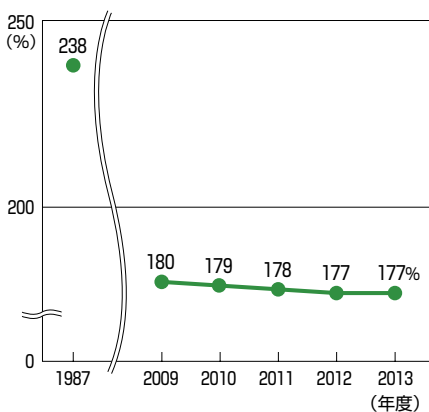
(2013年度)

線区	区間	輸送力		運転時隔	輸送量(人)	乗車効率(%)
		両×本	人			
東海道線	川崎～品川	13両×19本	35,036 ^(人)	3'00"	64,200	183
横須賀線	武蔵小杉～西大井	13両×10本	18,640	6'00"	36,000	193
山手線	外回り	上野～御徒町	11両×24本	2'20"	78,930	202
	内回り	新大久保～新宿	11両×23本		63,140	169
中央線	快速	中野～新宿	10両×30本	2'00"	86,310	194
	緩行	代々木～千駄ヶ谷	10両×23本	2'30"	31,130	91
宇都宮線	土呂～大宮	13両×14本	25,816	4'30"	43,250	168
高崎線	宮原～大宮	13両×14本	27,660	4'30"	48,100	174
京浜東北線	南行	上野～御徒町	10両×26本	2'20"	76,930	200
	北行	大井町～品川	10両×26本	2'20"	70,570	183
常磐線	中電	松戸～北千住	13両×10本	3'00"	31,080	172
	快速	松戸～北千住	15両×9本		33,350	167
	緩行	亀有～綾瀬	10両×24本	2'30"	55,140	164
総武線	快速	新小岩～錦糸町	13両×19本	3'00"	63,130	178
	緩行	錦糸町～両国	10両×26本	2'20"	76,760	199
南武線	武蔵中原～武蔵小杉	6両×25本	21,000	2'20"	40,650	194
武蔵野線	東浦和～南浦和	8両×15本	16,800	4'30"	30,830	184
横浜線	小机～新横浜	8両×19本	21,280	3'00"	38,860	183
根岸線	新杉田～磯子	10両×13本	19,240	4'30"	32,230	168
五日市線	東秋留～拜島	6両×5本	4,440	12'00"	6,600	149
青梅線	西立川～立川	6両×3本 10両×13本	21,904	3'30"	31,220	143
埼京線	板橋～池袋	10両×19本	27,720	3'00"	52,620	190
京葉線	葛西臨海公園～新木場	8両×7本 10両×15本	30,040	3'00"	51,480	171
首都圏主要線区平均						177

※運転時隔＝ピーク1時間の主な運転間隔

鉄道事業

●首都圏の朝通勤ピーク時の混雑率推移



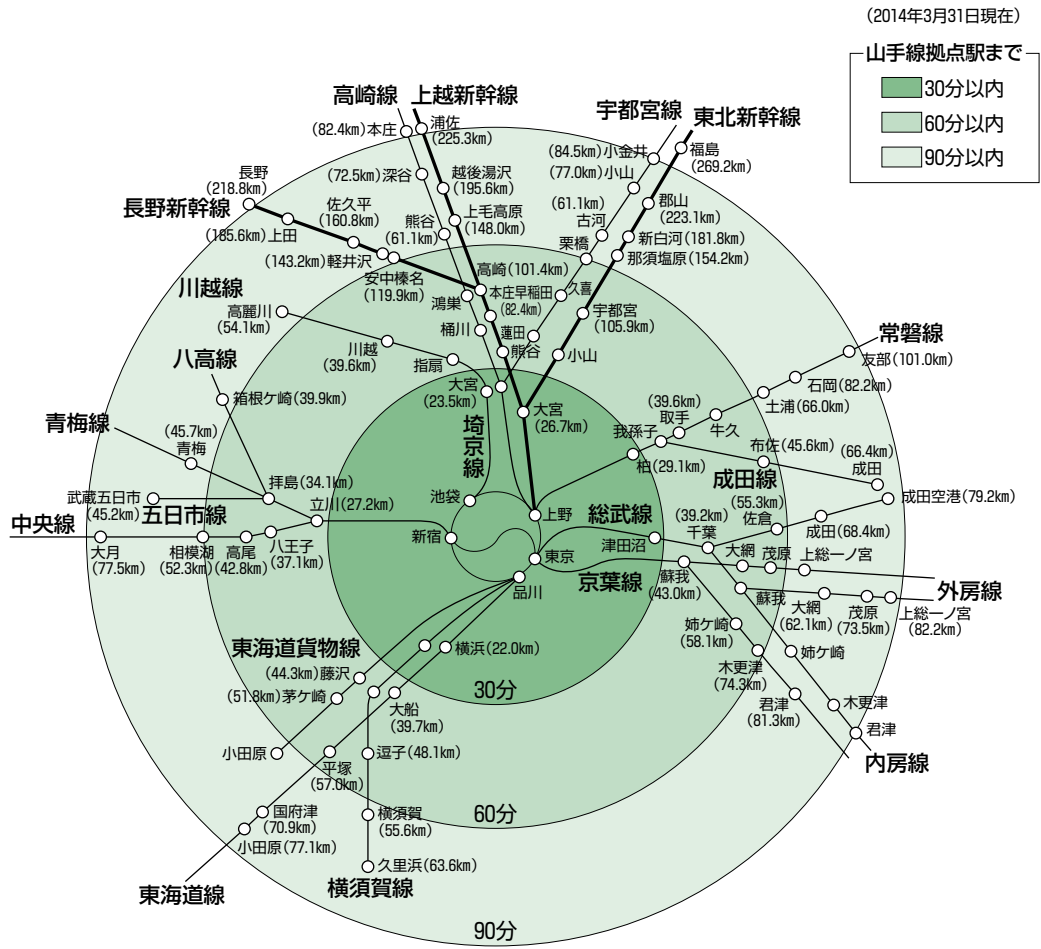
●首都圏の通勤ライナー運転線区

(2014年3月31日現在)

線名	愛称名	区間	本数		運転開始日
			1987.4	現行	
東海道線	湘南ライナー	東京(品川)↔小田原(平塚)	6	16	1986.11.1
	おはようライナー新宿	小田原→新宿	0	3	2002.12.1
	ホームライナー小田原	新宿→小田原	0	2	2002.12.1
総武線	ホームライナー千葉	東京(新宿)→千葉	0	4	1985.3.14
横須賀線	おはようライナー逗子	逗子→東京	0	1	1990.3.10
	ホームライナー逗子	東京→逗子	0	1	1990.3.10
中央線	中央ライナー	東京(新宿)↔高尾(八王子)	0	7	2001.12.1
青梅線	青梅ライナー	東京↔青梅	0	4	2001.12.1

注1)：湘南ライナー、中央ライナーおよび青梅ライナーは朝と夜運行便があります。
 注2)：湘南新宿ライナーは、2002.12.1におはようライナー新宿、ホームライナー小田原に愛称名を変更しました。
 注3)：おはよう(ホーム)ライナー高尾、おはよう(ホーム)ライナー青梅は、2001.12.1に中央ライナー、青梅ライナーに愛称名を変更しました。
 注4)：1987.4当時、宇都宮線(東北線)はホームライナー大宮5本、総武線はホームライナー津田沼5本を運転していました。

● 首都圏時間距離帯別線路網図



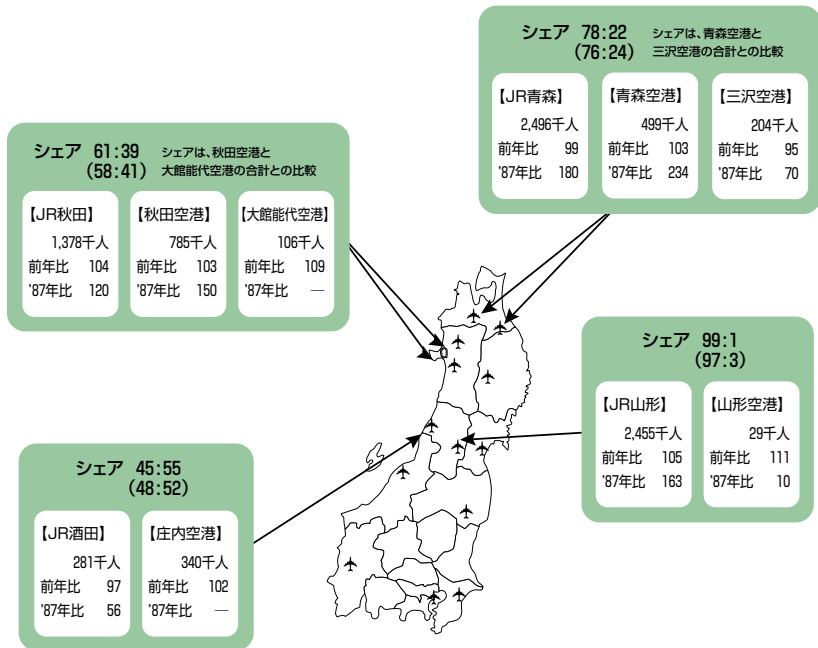
鉄道事業

注1):()内は東京、品川、新宿、池袋、上野までの営業キロを示します。
 注2): 時間は朝通勤時間帯の最速達列車の到達時間(定期券利用可能な特急、通勤ライナー、東北・上越・長野新幹線を含む)。

■ 他交通機関との比較

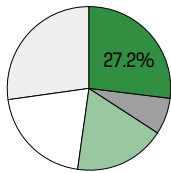
● 2013年度(東京発着)JR対航空機の輸送実績

- ・ JRは、東京・横浜・八王子・大宮各支社内発着の実績(局ブロック表より集計)
- ・ 航空機は、羽田発着の実績
- ・ JR、航空機とも上下計
- ・ シェアは、JR:航空機。()内は、2011年度の数値
- ・ 前年比、'87年比の単位は%



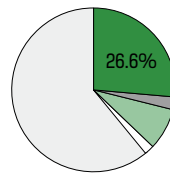
■ 国内鉄道事業におけるシェア

● 営業キロ



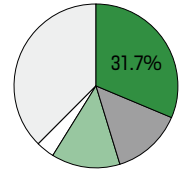
	営業キロ	
	km	%
JR東日本	7,512.6	27.2
JR東海	1,970.8	7.1
JR西日本	5,012.7	18.1
その他JR	5,628.0	20.4
私鉄等	7,518.7	27.2
合計	27,642.8	100.0

● 輸送人員



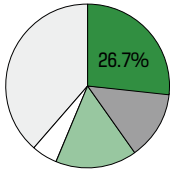
	輸送人員	
	百万人	%
JR東日本	6,038	26.6
JR東海	515	2.3
JR西日本	1,798	7.9
その他JR	483	2.1
私鉄等	13,868	61.1
合計	22,706	100.0

● 輸送人キロ



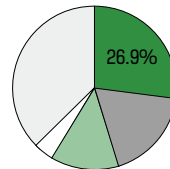
	輸送人キロ	
	百万人キロ	%
JR東日本	125,064	31.7
JR東海	53,255	13.5
JR西日本	54,118	13.7
その他JR	14,504	3.7
私鉄等	147,885	37.5
合計	394,827	100.0

● 車両キロ



	車両キロ	
	百万キロ	%
JR東日本	2,209	26.7
JR東海	1,122	13.6
JR西日本	1,320	15.9
その他JR	436	5.3
私鉄等	3,191	38.5
合計	8,279	100.0

● 旅客運輸収入



	旅客運輸収入	
	10億円	%
JR東日本	1,595	26.9
JR東海	1,108	18.7
JR西日本	758	12.8
その他JR	231	3.9
私鉄等	2,229	37.6
合計	5,922	100.0



2012年3月期または3月期末

注1): 営業キロは貨物専用線を含みません。
 注2): 車両キロは機関車、貨車を含みません。
 注3): 東京モノレールは私鉄等に含まれます。
 注4): 端数処理の関係上、合計値が合わない場合があります。
 出典: 国土交通省「平成23年度鉄道統計年報」

駅・営業

■ 駅

駅を快適な空間として、お客さまに気持ちよくご利用いただくために、さまざまな改善を行っています。

● 自動改札の導入

○ 自動改札導入のあゆみ

1990.	4	首都圏に新型の在来線自動改札システムを導入
1991.	3	ストアードフェアシステム(イオカード直接投入可能)を採用
1997.	10	新幹線自動改札システムを導入開始
2001.	11	首都圏在来線にICカード(Suica)出改札システムを導入
2002.	12	仙台エリアに在来線自動改札システムを導入
2003.	10	首都圏新幹線および仙台エリアにICカード(Suica)出改札システムを導入
2004.	4	地方拠点駅に在来線自動改札システムを導入開始
2004.	11	新潟エリアに在来線自動改札システムを導入
2006.	1	新潟エリアにICカード(Suica)出改札システムを導入

■ 活性化駅一覧

駅名	線区名	竣工年月	合築施設
穂八	大糸線	1988. 1	アートギャラリー
大川	外房線	1988. 9	公民館 図書館
院内	只見線	1988. 12	総合観光案内所 レストラン
ほっとゆだ	奥羽本線	1989. 3	郷土資料館 コミュニティホール
ゆだ高原	北上線	1989. 3	温泉会館 コンビニエンスストア
船岡	北上線	1990. 3	公民館
刈野	東北本線	1990. 8	コミュニティプラザ ガラリー
上小川	奥羽本線	1990. 10	コミュニティセンター 商工会館
越後片貝	水郡線	1990. 12	集会所 図書館
福岩	米坂線	1991. 2	ふるさと会館
塩川	青梅線	1991. 3	ギャラリー
神俣	北上線	1991. 3	集会所
鳴子温泉	磐越西線	1991. 3	コミュニティホール 集会所
下野宮	磐越東線	1991. 5	観光案内所 コミュニティルーム
須賀川	陸羽東線	1991. 12	円形劇場 観光案内センター
木造	水郡線	1992. 2	集築施設
天童	東北本線	1992. 3	観光物産館
高畠	五能線	1992. 5	コミュニティプラザ 観光案内所
かみのやま温泉	奥羽本線	1992. 9	観光物産館
上野尻	奥羽本線	1992. 10	観光物産館
舟形	奥羽本線	1992. 10	コミュニティプラザ
水郷	磐越西線	1992. 12	農協
赤湯	奥羽本線	1993. 3	物産館 診療所
山宿	成田線	1993. 5	コミュニティセンター
磐城	成田線	1993. 7	集築施設
米沢	奥羽本線	1993. 8	観光物産センター
桑川	水郡線	1993. 9	集会所 図書館
海常	水郡線	1993. 10	図書館 物産コーナー
戸狩野沢温泉	奥羽本線	1993. 11	観光案内センター 物産展示コーナー
三春	羽越本線	1993. 11	観光物産センター ガラリー レストラン
西浦	常磐線	1993. 12	多目的ホール ガラリー
富津	飯山線	1993. 12	観光案内所
大谷海岸	磐越東線	1994. 3	イベントスペース 物産館
鹿渡	水郡線	1995. 2	集会所
矢吹	内房線	1995. 3	コミュニティ施設
和田	飯山線	1995. 3	温泉コミュニティセンター
羽前	気仙沼線	1995. 10	物産館 アクアリウム
八幡	奥羽本線	1995. 10	観光物産情報館 ミニシアター
野村	東北本線	1995. 10	コミュニティプラザ
相野	内房線	1995. 12	ギャラリー
野々	米坂線	1995. 12	農協
玉川	仙石線	1996. 3	インフォメーションセンター
相野	水郡線	1996. 3	町事務室 多目的ホール
野木	北上線	1996. 6	コミュニティ施設
津軽	水郡線	1996. 9	農協
岩井	津軽線	1996. 12	観光情報センター
	内房線	1997. 3	展示室

● 駅数

(2014年4月1日現在)

駅数	1,678駅 (貨物駅5含む)
----	-----------------

● 自動改札導入状況

(2014年3月31日現在)

◇ 在来線	
●自動改札導入駅数	521駅 690改札口
●自動改札通路数	4,012通路
●自動精算機台数	938台
◇ 新幹線	
●自動改札導入駅数	41駅 66改札口
●自動改札通路数	254通路
●自動精算機台数	17台

(2014年3月31日現在)

駅名	線区名	竣工年月	合築施設
田沢	田沢湖線	1997. 3	観光情報センター
石角	田沢湖線	1997. 3	観光案内センター 図書館
磯原	田沢湖線	1997. 3	物産展示
佐久平	常磐線	1997. 8	市出張所 コミュニティホール
飯岡	長野新幹線	1997. 9	観光案内所 物産店
大曲	総武本線	1997. 10	イベントホール
常陸	奥羽本線	1997. 12	インフォメーションホール
金双	水郡線	1998. 3	集会所 オープンギャラリー
下総	羽越本線	1998. 3	コミュニティホール 図書館
陸奥	常磐線	1998. 8	コミュニティホール アートギャラリー
さくらんぼ	成田線	1998. 10	展示室
村山	五能線	1999. 2	コミュニティプラザ 展示場
大石	奥羽本線	1999. 12	図書館 観光案内 情報サービス 物産展示
新庄	奥羽本線	1999. 12	市民ホール 企画展示ギャラリー 観光案内
摺沢	奥羽本線	1999. 12	店舗(そば屋) 企画展示ギャラリー
大釜	奥羽本線	1999. 12	映画館 体験館 コミュニティホール レストラン 会議室
飯後	大船渡線	2000. 3	多目的ホール
仁賀保	田沢湖線	2000. 3	集会所
北常盤	羽越本線	2000. 3	コミュニティホール 事務室
左沢	総武本線	2000. 12	コミュニティ施設
七日町	羽越本線	2001. 6	多目的ホール 観光センター
南三原	奥羽本線	2001. 12	コミュニティホール 展示室
古和	左沢線	2002. 2	展望コーナー
羽後	左沢線	2002. 2	交流センター
森宮	只見線	2002. 7	店舗(喫茶店) 物産コーナー
金ヶ崎	内房線	2003. 2	多目的ホール 旅客トイレ
滑河	奥羽本線	2003. 2	ふれあい交流室 観光情報ホール 売店
八街	青梅線	2003. 2	コミュニティセンター
西若	奥羽本線	2004. 2	公衆トイレ
富津	飯山線	2004. 3	交流室 展示室
千倉	東北本線	2005. 2	観光情報ホール 農協 売店
遊佐	成田線	2005. 2	多目的ホール
神宮	総武本線	2005. 3	コミュニティスペース
浪後	只見線	2005. 11	展示ホール
佐野	青梅線	2006. 4	ギャラリー 店舗(そば屋)
八幡	東北本線	2006. 5	店舗(喫茶店)
野村	内房線	2007. 8	観光案内所 待合室 会議室
野々	羽越本線	2008. 2	複合交通センター 観光案内所 多目的交流研修室
野木	奥羽本線	2008. 7	交流センター
野々	田沢湖線	2009. 3	市民交流センター 旅客通路 旅客多機能トイレ
野々	奥羽本線	2010. 3	地域交流センター 多目的ホール
野々	成田線	2011. 3	観光交流センター 旅客トイレ
野々	水郡線	2011. 7	観光案内所 旅客トイレ 待合所
野々	八高線	2012. 11	コミュニティホール
野々	奥羽線	2013. 1	展示コーナー
野々	五能線	2013. 11	展示コーナー
野々	水郡線	2014. 3	情報発信スペース

■ 駅名改称一覧

(2014年3月31日現在)

期日	線名	旧駅名	新駅名	記事
1988. 3. 13	東北本線	二枚橋	花巻空港	
		岩手松尾	松尾八幡平	
	花輪線	龍ヶ森	安比高原	
1990. 3. 10	仙山線	面白山	面白山高原	
	総武本線	越中島	越中島貨物	貨物駅
1990.12. 1	日光線	下野大沢 (しもずけおおさわ)	下野大沢 (しもつげおおさわ)	
	烏山線	下野花岡 (しもずけはなおか)	下野花岡 (しもつげはなおか)	
1991. 3. 16	奥羽本線	糠ノ目	高畠	
		大鱈	大鱈温泉	
1991. 6. 20	北上線	陸中大石	ゆだ錦秋湖	
		陸中川尻	ほっとゆだ	
		岩手湯田	ゆだ高原	
1991.12. 1	吾妻線	長野原	長野原草津口	
		川原湯	川原湯温泉	
1992. 3. 14	京葉線	千葉港	千葉みなと	
1992. 7. 1	奥羽本線	上ノ山	かみのやま温泉	
		北上ノ山	茂吉記念館前	
1993. 4. 1	中央本線	石和	石和温泉	
		勝沼	勝沼ぶどう郷	
		初鹿野	甲斐大和	
		別田	春日居町	

期日	線名	旧駅名	新駅名	記事
1994. 3. 12	鹿島線	北鹿島	鹿島サッカースタジアム	
1994.12. 3	常磐線	平	いわき	
	山田線	浪板	浪板海岸	
1995.12. 1	花輪線	陸中花輪	鹿角花輪	
		湯瀬	湯瀬温泉	
1997. 3. 22	陸羽東線	気仙沼線	大谷	大谷海岸
		上岩出山	西大崎	
		西岩出山	上野目	
		川渡	川渡温泉	
		東鳴子	鳴子御殿湯	
		鳴子	鳴子温泉	
1999.12. 4	奥羽本線	蟹沢	さくらんぼ東根	
		楯岡	村山	
2000.12. 2	陸羽東線	羽前向町	最上	
		羽前赤倉	赤倉温泉	
		瀬見	瀬見温泉	
2002.12. 1	五能線	陸奥黒崎	白神岳登山口	
2002.12. 1	八戸線	種差	種差海岸	
2004. 3. 13	常磐線	川尻	十王	

■ 新駅の設置

● 新駅設置の状況

(2014年3月31日現在)

年度	駅名	駅数
1987	古淵、青山	2
1988	玉戸、大和、逢隈、東照宮、美里、新木場、葛西臨海公園、舞浜、新浦安、市川塩浜、二俣新町、北上尾	12
1989	万石浦、くりこま高原、八丁堀、越中島、瀬見	5
1990	ガーラ湯沢、葛岡、さつき野、成田空港	4
1991	小野上温泉	1
1992	空港第2ビル	1
1995	井川さくら、有備館	2
1997	八王子みなみ野、今井、佐久平、あきた白神、安中榛名、軽井沢、上田、上越国際スキー場前、ひたち野うしく、紫波中央、東松戸	11
1998	前橋大島	1

年度	駅名	駅数
1999	あおば通	1
2000	さいたま新都心	1
2001	国府多賀城、岩槻みなと、ウェスバ椿山	3
2002	いわて沼宮内、二戸	2
2003	本庄早稲田、小鶴新田	2
2004	高崎問屋町、内野西が丘	2
2006	東北福祉大前、太子堂、平田	3
2007	越谷レイクタウン	1
2008	西府、西大宮	2
2010	七戸十和田	1
2011	吉川美南	1

■ 営業諸元

● みどりの窓口設置駅数の推移

(2014年3月31日現在)

年度	2009	2010	2011	2012	2013
駅数	677	671	608	592	574

● 発売機設置台数

(2014年3月31日現在)

	駅数	台数
自動券売機	1,001	2,068
指定席券売機	464	1,153
多機能券売機	479	983

● 旅客運賃改定の変遷

運賃改定日	改定率(%)	記事	最低運賃(円)
1966. 3. 5	32.3		20
1968. 4. 1	5.4	定期運賃のみ改定	20
1969. 5. 10	15.9		30
1974. 10. 1	23.2		30
1976. 11. 6	50.4		60
1978. 7. 8	16.4	料金のみ改定(1978.10) 通学定期割引率修正(1979.1)	80
1979. 5. 20	8.8		100
1980. 4. 20	4.5		100
1981. 4. 20	9.7	通学定期割引率修正(1981.7)	110
1982. 4. 20	6.1	通学定期割引率修正(1982.9)	120
1984. 4. 20	8.2		130(120)
1985. 4. 20	4.4	通学定期割引率修正(1985.9)	140(120)
1986. 9. 1	4.8		140(120)
1989. 4. 1	2.9	消費税導入にともなう運賃・ 料金改定	140(120)
1997. 4. 1	1.9	消費税率変更にともなう運賃・ 料金改定	140(130)
2014. 4. 1	2.9	消費税率変更にともなう運賃・ 料金改定およびIC運賃の導入	きっぷ140(140) IC 144(133)

注)：最低運賃欄の()内は、電車特定区間の運賃です。

● さまざまな自動券売機類



● 料金改定の変遷 (主なもの)

お客さまにわかりやすく、利用しやすい料金体系に改定することで、通勤・通学を含め気軽に特急列車やグリーン車をご利用いただけるようにしました。

料金改定日	改定内容	料金額
2001. 12. 1	首都圏のB特急料金を改定	自由席(50キロまで) 500円 指定席(50キロまで) 1,010円
2002. 12. 1	東日本管内のB特急料金を改定	自由席(50キロまで) 500円 (100キロまで) 900円 (150キロまで) 1,300円 指定席(50キロまで) 1,010円 (100キロまで) 1,410円 (150キロまで) 1,810円
	東日本管内の特急・急行のグリーン料金(A)を改定	(100キロまで) 1,000円 (200キロまで) 2,000円 (300キロまで) 3,000円 (301キロ以上) 4,000円
2004. 10. 16	首都圏の普通列車に特定のグリーン料金(B)を設定	平日料金 事前料金(50キロまで) 750円 (51キロ以上) 950円 車内料金(50キロまで) 1,000円 (51キロ以上) 1,200円
		ホリデー料金 事前料金(50キロまで) 550円 (51キロ以上) 750円 車内料金(50キロまで) 800円 (51キロ以上) 1,000円
2005. 12. 10	成田エクスプレスのグリーン料金を改定	(200キロまで) 2,000円
	成田エクスプレス、スーパービュー踊り子の個室・グリーン料金を改定	1室あたり 6,000円 ※不足人員分は小児運賃・特急料金を受取しない
2010. 12. 4	東日本管内の特急・急行のグリーン料金(A)を改定	(400キロまで) 4,000円
		(500キロまで) 4,000円
		(600キロまで) 4,000円
		(700キロまで) 4,000円
		(701キロ以上) 5,000円
2012. 3. 17	「なすの」のグランクラス料金を設定	(100キロまで) 4,000円
		(200キロまで) 5,000円
		(300キロまで) 6,000円
		(400キロまで) 7,000円
		(500キロまで) 7,000円
		(600キロまで) 7,000円
		(700キロまで) 7,000円
(701キロ以上) 8,000円		

※料金については改定または設定当時のもの

■ インターネットサービスポータルサイト「えきねっと」

「えきねっと」は、(株)JR東日本ネットステーションが運営しているJR東日本のインターネットサービスポータルサイトです。「えきねっと会員」になることで、パソコンや携帯電話・スマートフォンからJR券申込サービスを利用でき、指定席、自由席に加え、乗車券も予約が可能で、きっぷの受取りは、申込み時に登録したクレジットカードと申込み時に付与され

る予約番号だけで可能です。リアルタイムで最新の情報をご案内できるインターネットのメリットを活かし、時期・区間・列車ごとのご利用状況に応じた柔軟な割引商品を提供しています。

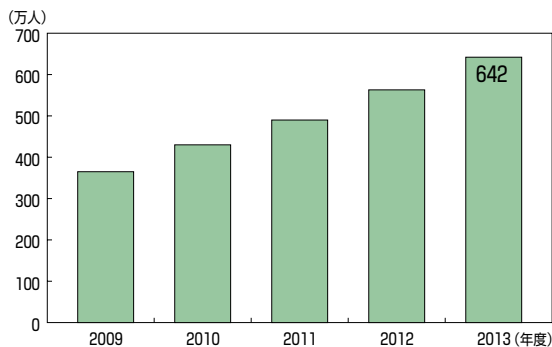
会員数は2014年7月末時点で約669万人です。

※詳しくは〔www.eki-net.com〕



「えきねっと」ホームページ(2014年9月現在)

○ えきねっと会員数の推移



● 予約サービス

JR券申込サービス	
パソコン・スマートフォンからのJR券申込	・全国の新幹線や特急列車等の指定席・自由席・乗車券が申込みできます。またスマートフォンでは、「成田エクスプレス」「あかぎ」のえきねっとチケットレスサービスの申込みができます。
携帯電話からのJR券申込	・東北・秋田・山形・上越・長野・東海道・山陽の各新幹線と特急「あすさ」「かいじ」「ひたち」「成田エクスプレス」の指定席・自由席および「成田エクスプレス」「あかぎ」のえきねっとチケットレスサービスの申込みができます。
その他の予約サービス	
国内ツアー予約	・最短で出発の2日前まで、JR東日本が企画・実施する「びゅう国内ツアー」が予約できます。
JTB旅館・ホテル予約	・JTBが取り扱う全国の旅館・ホテルの宿泊予約ができます。
JAL・ANA国内航空券予約	・JAL・ANA国内線の航空券が空席照会から予約できます。予約した航空券はオンライン決済、チケットレスで利用できます。
駅レンタカー予約	・東日本・北海道エリアの駅レンタカーをクーポンレスで予約できます。

● 案内サービス

案内サービス	
列車運行情報	・JR東日本管内の在来線および東北・秋田・山形・上越・長野新幹線の運転情報をお知らせします。
乗換・運賃案内	・出発地と目的地、出発日時もしくは到着日時の入力から列車や航空機を利用した乗換情報と運賃・料金をご案内します。また、えきねっと、モバイルSuica特急券を利用した場合のおトクな運賃・料金もご案内します。
JR東日本 駅の時刻表	・路線や駅名で検索したJR東日本管内の各駅の時刻表をご案内します。
おトくなきっぷ	・JR東日本で取り扱っているおトくなきっぷをご希望の検索条件から調べることができます。
旅どきnet	・季節感あふれる東日本エリアの旅情報をはじめ、各種キャンペーンやイベント、旅行プランなどを紹介します。
JR東日本の各駅情報	・JR東日本管内の主な駅の構内図やバリアフリー設備等の設置情報、駅ビルなどの店舗や駅での各種サービスの情報をご案内します。

■ 販売戦略

● 主な企画商品一覧

(2014年9月現在)

設定区間	主な企画商品
首都圏～東北地方間	週末バス、首都圏週末フリー乗車券、新幹線回数券
首都圏～上信越間	週末バス、新幹線回数券、あずさ回数券
首都圏～北陸間	北陸フリー乗車券、北陸回数券
首都圏近郊	休日おでかけバス、都区内バス、東京フリーきっぷ、ひたち回数券、南伊豆フリー乗車券、南房総フリー乗車券
東北各地間	小さな旅ホリデー・バス、東北ローカル線バス
その他季節限定	大人の休日倶楽部バス

● 主な企画商品発売実績

商品名	発売開始年度	発売実績(枚)				
		2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
青春18きっぷ	1982	281,456	238,954	242,666	256,786	277,953
フルムーン夫婦グリーンバス	1981	10,047	11,501	10,968	12,378	12,440
大人の休日倶楽部バス	2001	485,767	338,035	305,640	348,062	239,422
三連休乗車券	2000	83,295	60,309	50,158	60,780	65,032
休日おでかけバス	1991	1,202,689	1,115,009	997,762	911,208	1,025,724
週末バス	2000	497,971	488,510	429,391	468,797	377,129

注):2010年度までは「大人の休日倶楽部会員バス」という名称。「大人の休日倶楽部バス」は、2011年度からの名称。
「三連休バス」は2010年7月より「スリーデーバス」にリニューアル。その後2013年7月より「三連休乗車券」にリニューアル。
「ホリデー・バス」は2012年3月11日まで。2012年3月17日からは「休日おでかけバス」にリニューアル。
「土・日きっぷ」は2010年度から「ウィークエンドバス」にリニューアル。その後2013年度からは、「週末バス」にリニューアル。

● 新幹線通勤・通学定期券 (FREX・FREXパル) 発売実績

○ FREX (枚/月)

※発売開始は1984年度

年度	2009	2010	2011	2012	2013
東北新幹線	14,284	13,884	14,315	14,675	15,751
上越新幹線	8,412	8,404	8,335	8,338	8,966
長野新幹線	1,632	1,666	1,674	1,641	1,733
計	24,329	23,955	24,324	24,653	26,450

○ FREXパル (枚/月)

※発売開始は1986年度

年度	2009	2010	2011	2012	2013
東北新幹線	1,465	1,442	1,242	1,352	1,504
上越新幹線	906	875	853	841	950
長野新幹線	293	297	295	306	338
計	2,664	2,613	2,391	2,499	2,791

注):3カ月定期は1カ月当たりの延べ枚数に換算しています。

● ジャパン・レール・パス取扱実績 (当社分)

年度	2009	2010	2011	2012	2013
普通車用取扱実績(枚)	208,747	206,670	105,586	194,708	258,849
グリーン車用取扱実績(枚)	17,007	16,566	9,733	16,738	24,683
合計(枚)	225,754	223,236	115,319	211,446	283,532

● JR EAST PASS取扱実績

年度	2009	2010	2011	2012	2013
普通車用取扱実績(枚)	31,579	37,460	14,383	29,254	24,258
グリーン車用取扱実績(枚)	1,040	1,359	749	1,188	247
合計(枚)	32,619	38,819	15,132	30,442	24,505

注1):1998年2月1日より有効となるものから取扱開始。注2):2003年10月1日より国内発売開始。注3):「JR EAST PASS SPECIAL」の実績も含む。注4):グリーン車用は2013年6月30日で発売終了。

● Suica&N' EX取扱実績

年度	2009	2010	2011	2012	2013
普通車用(枚)	140,334	175,334	107,253	202,878	295,084
グリーン車用(枚)	1,147	2,317	2,016	3,574	4,793

注1):普通車用は2007年3月28日より発売開始。グリーン車用は2009年3月28日より発売開始。
注2):2014年3月31日で発売終了。

● Suica&Monorail取扱実績

年度	2011	2012	2013
片道(枚)	2,252	2,742	4,312
往復(枚)	4,620	7,731	10,732
合計(枚)	6,872	10,473	15,044

注1):2010年度実績は1,504枚(2011年2月1日より発売開始)注2):2014年3月31日で発売終了。

● JR Kanto Area Pass取扱実績

年度	2011	2012	2013
発売枚数(枚)	4,553	24,254	54,902

※2011年12月1日に発売開始

●「大人の休日倶楽部」「JR東日本ジパング倶楽部」

○「大人の休日倶楽部」「JR東日本ジパング倶楽部」のあゆみ

1985年 5月10日	ジパング倶楽部事務局設立
1988年 9月 1日	ジパング倶楽部6社に分割。各会社ごとに事務局を設置し、会員管理業務を開始
1994年 4月 1日	「ビュー・ジパング倶楽部カード」の会員募集開始
1994年 8月20日	JR東日本独自の会員誌「ジパング旅仲間」を発行
2001年 7月13日	新ブランド商品「大人の休日」スタート
2002年 3月 1日	「大人の休日」専用ホームページ開設
2005年 6月 1日	「大人の休日倶楽部ジパング」スタート
2005年10月 1日	「大人の休日倶楽部ミドル」スタート
2006年 6月 1日	「大人の休日倶楽部」割引エリアをJR北海道線まで拡大
2007年 6月 1日	「大人の休日サロン」開設
2008年 4月 1日	「大人の休日倶楽部プレミアムメンバーズサービス」スタート
2009年 2月13日	「大人の休日倶楽部」会員100万人達成
2012年 3月 2日	「大人の休日倶楽部メールマガジン」スタート
2012年 5月31日	「大人の休日倶楽部」会員150万人達成

●「レール&レンタカーきっぷ」

2012年10月より駅レンタカーの予約方法は「インターネット・電話予約」のみになりました。また11月より発売期限もレンタカー出発の1時間前までとなり、駅レンタカーの料金体系も「6時間」「12時間」「24時間」単位とさらに利用しやすくなりました。

○「レール&レンタカーきっぷ」のあゆみ

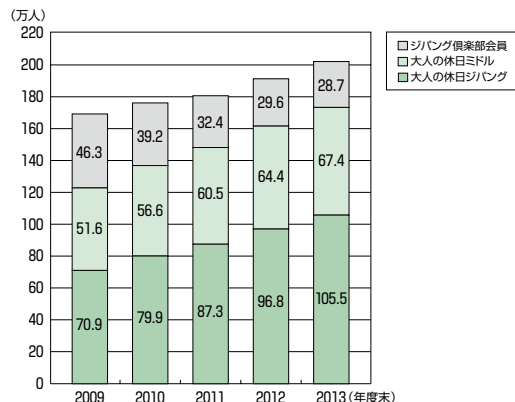
年月	内容
1995年 4月	SDクラス発売開始(1500cc・1日乗り放題6,800円(税別))
1996年 4月	SWクラス発売開始(ワンボックスワゴン車・1日乗り放題12,000円(税別))
1997年 4月	SSクラス発売開始(1000cc～1300cc・1日乗り放題5,500円(税別))
1998年 7月	SBクラス発売開始(1800cc・1日乗り放題8,500円(税別))
1999年 6月	SKクラス発売開始(軽自動車クラス・1日乗り放題4,500円(税別))
2003年 4月	駅レンタカー料金改定(一部クラスを除き時間制料金の値下げ) 時間制のM-Vクラス(ミニバン)新設 カーナビ料金の値下げ(1日1,000円→1レンタル300円)
2003年 10月	カーナビ標準装備と無料化、時間制のSAクラス廃止
2004年 4月	SMクラス発売開始(ミニバン車・1日乗り放題8,920円(税込))
2006年 3月	時間制のRVクラス廃止
2007年 4月	各クラス禁煙車発売開始
2008年 4月	時間制のHDクラス廃止
2009年 4月	ETC車載器全車標準装備
2010年 10月	インターネット予約開始 (インターネット予約の場合、窓口予約より500円割引(24時間ごと)) 料金体系を24時間制・免責補償込に統一 (車種を、K・S・A・B・MV・WAクラスの6車種に)
2012年 10月	駅レンタカーの予約方法をインターネット・電話予約に統一
2012年 11月	・レンタカーの発売期限が出発の「3時間前」⇒「1時間前」 ・料金体系「24時間」⇒「6時間」・「12時間」・「24時間」 ・ハイブリットクラス(H1・H2・H3)を新設。6車種⇒9車種

○台数実績(ジェイアール東日本レンタリース(株)管内)

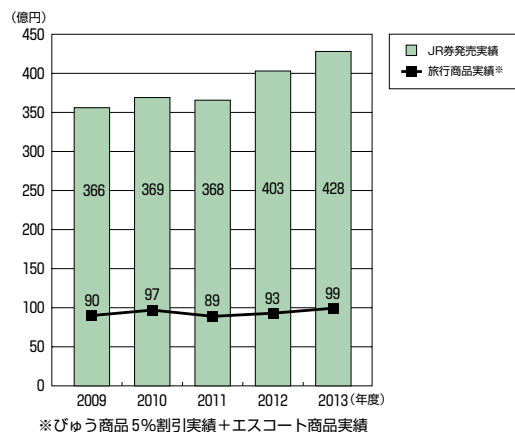
(単位:台)

年度	2009	2010	2011	2012	2013
レール&レンタカー利用件数	115,666	107,060	103,361	113,318	116,132

○会員数の推移



○商品発売実績の推移



価格表

・Kクラス(軽自動車)	24時間 6,580円
・Sクラス(フィット、ヴィッツなど)	24時間 7,400円
・Aクラス(カローラなど)	24時間 10,360円
・Bクラス(シルフィなど)	24時間 12,420円
・MVクラス(ウィッシュなど)	24時間 12,420円
・WAクラス(ステップワゴンなど)	24時間 20,620円
・HIクラス(アクアなど)	24時間 10,260円
・H2クラス(プリウス1500cc)	24時間 11,340円
・H3クラス(プリウス1800cc)	24時間 12,960円

● デスティネーションキャンペーン (DC)

JRグループと地方自治体・地元観光開発者と旅行会社が一体になって地域（おもに県単位）の観光開発とそれらの集中宣伝や受入れ態勢準備を行い、旅客誘致・JR利用促進を図ろうとする大型観光キャンペーンです。1978年11月からの「きらめく紀州路」（和歌山県）から始まりました。

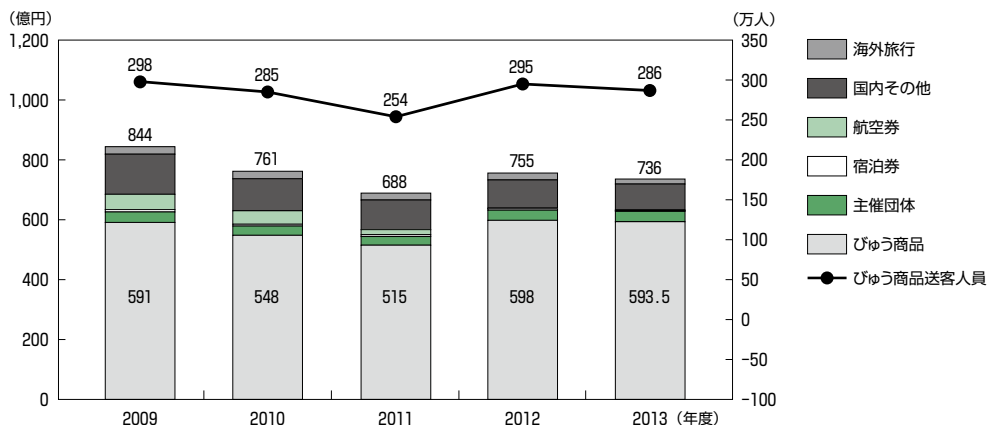
名称	期間
青森DC	2011年4月～7月
群馬DC	2011年7月～9月
いわてDC	2012年4月～6月
仙台・宮城DC	2013年4月～6月
秋田DC	2013年10月～12月
新潟DC	2014年4月～6月
山形DC	2014年6月14日～9月13日
福島DC	2015年4月～6月
青森県・函館DC(仮)	2016年7月～9月

○ 主なリゾートトレイン

列車名	運転区間	乗車人員(2013年度)
リゾートしらかみ(1997.4～)	秋田～青森・弘前	約 17.7万人
SLばんえつ物語(1999.4～)	新潟～会津若松	約 4.2万人
きらきらうえつ(2001.11～)	新潟～酒田・象潟	約 2.4万人
リゾートみのり(2008.10～)	仙台・小牛田～新庄	約 2.6万人
リゾートビューふるさと(2010.10～)	長野・松本～南小谷	約 1.8万人
リゾートあすなろ(2010.12～)	新青森～蟹田・大湊	約 1.3万人
POKÉMON with YOUトレイン(2012.12～)	一ノ関～気仙沼	約 0.9万人

■ 旅行商品

● びゅう商品販売と旅行商品収入の推移



● 2013年度びゅう商品方面別送客人員



● びゅうプラザの店舗数推移

年度	2009	2010	2011	2012	2013
箇所数	135	136	136	126	116

※年度末時点での箇所数

線路・土木構造物

列車の高速化に対応して、線路を強化しています。レールは断面の大きな50Nや60kgレールに、マクラギは木マクラギからPCマクラギ(コンクリート)に取り替えてきました。また、線路設備の保守・点検作業も従来の人力中心からマルチプルタイタンパ、レール削正車、高速軌道検測車など機械化の導入を進め、一層の効率化をはかっています。

● レール重量別本線軌道延長

(2014年3月31日現在)(単位:km)

60kg以上	50kg以上～60kg未満	40kg以上～50kg未満	40kg未満	合計	
4,103	7,078	355	21	在来線9,437	11,557
35.5%	61.2%	3.1%	0.2%	新幹線2,120	

※新幹線・在来線の本線のみを対象

● 高架橋延長キロおよび立体交差箇所数

(2014年3月31日現在)

高架橋延長キロ	立体交差箇所	
678km	ご線道路橋 2,375カ所	合計 9,374カ所
	架道橋 6,999カ所	

● 省力化軌道延長キロ

(2014年3月31日現在)

延長キロ	導入線区
251km	山手線 中央快速線(東京～三鷹) 京浜東北線(川崎)～東京(川口)など

● ロングレール延長キロ(在来線の本線)

(単位:km)

年度	2009	2010	2011	2012	2013
ロングレール延長	5,583	5,401	5,414	5,467	5,485
ロングレール化率	58%	57%	57%	58%	58%

● PCマクラギ化率(在来線の本線)

年度	2009	2010	2011	2012	2013
PCマクラギ化率	70%	69%	70%	70%	71%

● トンネルおよび橋りょう数

(2014年3月31日現在)

トンネル	1,272(927km)
橋りょう	14,787(415km)

※トンネル数は坑口の合計

● 除雪用軌道モーターカー数

(2014年3月31日現在)

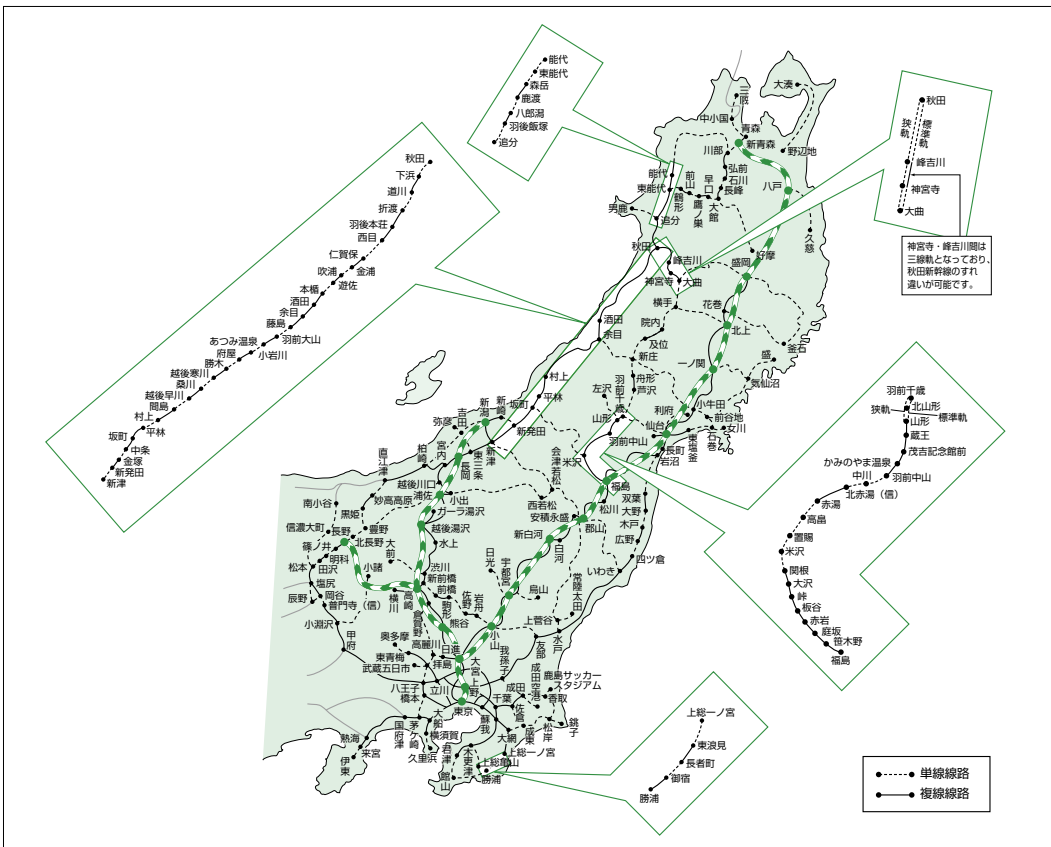
軌道モーターカー(除雪装置付き)	投排雪保守用車		
	ラッセル	ロータリー	
在来線	16	113	27
新幹線	5	7	4

● 複線化率

(2014年3月31日現在)

	新幹線	在来線	合計
複線化キロ	1,135km	2,519km	3,654km
複線化率	100%	40%	49%

● 単線・複線別線路網図



● 保守用機械

(2014年3月31日現在)



09-475型 在40台、幹1台

マルチプルタイタンバ

線路のレールには、列車の荷重が繰り返しかかりますが、それによって徐々に生じた線路の縦、横方向の凹凸を、まっすぐに直す大型機械が「マルチプルタイタンバ」です。

マルチプルタイタンバには、ハイテク装置が装備されているとともに、オペレーターが常時地上に降りて作業を行わなくても良いように、各種安全装置が装備されています。

また、分岐器部の複雑な箇所を保守する分岐器用のマルチプルタイタンバもあります。

(オーストリア、スイスから導入)



KSP-2002型 37台

バラストレギュレータ

マルチプルタイタンバのつき固め作業後の道床整理作業を行う機械で、従来人手で行っていた道床のかき上げ、締め固め、整理を1台で行うことができます。

(オーストリアから導入)



RR16M6B型 在6台、幹5台

レール削正車

線路のレールは、列車の車輪と直接接触することから、レール表面に微小な凹凸が生じたり、レール溶接部に微小な凹凸が発生したりします。これまでは、レールを交換することにより対応してきましたが、最近の研究により、レール表面の疲労層と呼ばれる部分を除去することにより、交換周期の延伸ができることがわかりました。そこで、レール表面を削り取ることができる大型機械の「レール削正車」を導入し、列車頻度の高い首都圏を中心として運用しています。

(スイス・アメリカから導入)



MCR-600 在113台、幹7台

軌道モーターカー (ロータリー)

降雪地区で活躍するのがこの軌道モーターカー (ロータリー) であり、降雪後の雪を線路外に排雪するラッセル装置および雪を遠くへ飛ばすロータリー装置が装備されています。また、線路外に積もった雪を切り落とす段切装置が備えられています。

(国産)

● 検査用機械



1台

新幹線電気・軌道総合検測車 (East i)

新幹線の軌道や電気設備を定期的(10日に1回)に検査する車両です。6両編成のEast iは、営業列車と同じ最高速度275km/hの高速走行で軌道の変位や乗り心地、トオリ線の摩擦などの測定や信号設備の機能確認を行うことができます。

(国産)



1台

建築限界測定車

1937年に製作された旧建築限界測定車(オラン車)に代わるものとして開発されました。旧型車が矢羽で限界支障の有無を確認するのみであったのに対して、新型車は、光を照射し支障物までの距離を連続的に、かつ高速に測定します。

1998年度から運用を開始し、当社管内全線を1台で定期的に測定しています。

(国産)



2台

在来線電気・軌道総合検測車 (East i-E、East i-D)

在来線の軌道や電気設備を定期的に検査する車両で、電車タイプ(East i-E)と気動車タイプ(East i-D)の2編成があります。電車タイプ(East i-E)は130km/h、気動車タイプ(East i-D)は110km/hでの検測が可能で、軌道の変位や、前方画像データなどの測定ができます。

(国産)



2台

トンネル覆工表面撮影車

トンネル覆工表面撮影車は、トンネルの覆工表面の状態を、レーザー光を用いた計測システムにより画像のデータとして撮影し記録します。測定した画像データは解析処理を行うことにより、精度の高いトンネル覆工の展開図を作成することができます。

(国産)



在5台、幹1台

レール探傷・摩耗測定車 (N-RIC)

レール内部の傷や表面の摩耗量を超音波や光を利用して走行しながら測定します。

(国産)



1台

線路下空洞探査車

線路下空洞探査車は、レーザーを用いて線路下の地中の状態を探査する装置です。探査したデータを解析することにより空洞の有無を判定することが可能となり、路盤盤没による重大事故を未然に防止することができます。

(国産)



GA-100型 39台

新幹線確認車

新幹線の列車が安全に運行できるよう、初列車が運行される前に、毎日線路の確認を行っています。これを行うのが確認車です。新型確認車は、画像処理装置を搭載し、線路内の支障物を漏れなく検知することができます。

(国産)



4台

トンネル覆工検査車

トンネル覆工検査車は、トンネル覆工コンクリート内部の状況を立体的に把握できるマルチパス方式のレーダーを搭載した検査車です。トンネル覆工表面撮影車の測定データから得られるトンネル覆工展開画像と組み合わせ使用することによって、トンネル検査の精度向上等がはかれます。

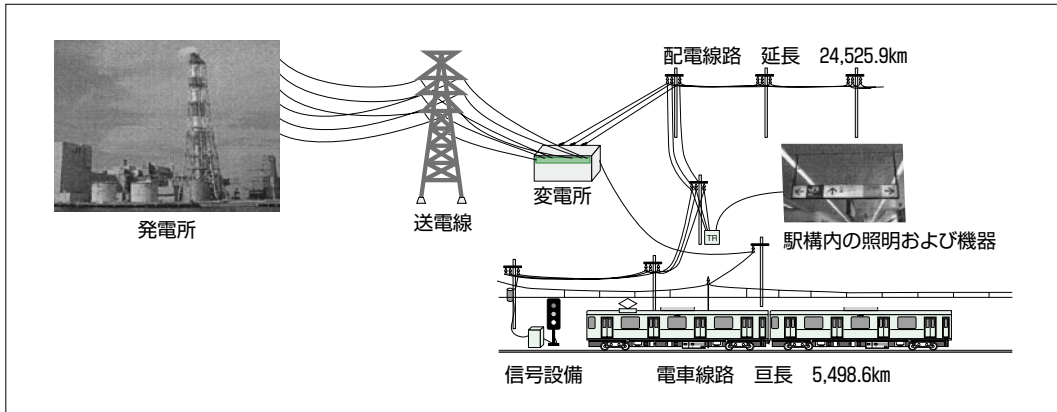
(国産)

電力

鉄道輸送を支えている電力設備には、発電・送電設備、変電設備、電車線路設備、照明設備などがあります。

2014年3月末の電化キロは5,498.6km、電化率は全営業キロの73.2%となっています。

また、毎日の保守・点検整備には万全を期し、最新の技術を導入して、設備の監視や制御を行っています。



鉄道事業

● 自営発電所数

(4カ所、認可出力1,104,000kW)

(2014年3月31日現在)

種類	川崎発電所	信濃川発電所		
		千手発電所	小千谷発電所	小千谷第二発電所
認可出力(kW)	655,000	120,000	123,000	206,000
発電機数	4ユニット5台	5台	5台	2台

● 送電線路巨長

(2014年3月31日現在)

電圧(kV)	架空送電(km)	地中送電(km)	計(km)
275	34.4	1.7	36.1
154	247.2	49.9	297.1
66	429.0	353.1	782.1
22	—	171.4	171.4
合計	710.6	576.1	1,286.7

● 配電線路延長

(2014年3月31日現在)

線種	延長(km)
ケーブルまたは絶縁電線	24,348.8
裸電線	177.1
合計	24,525.9

● 変電所数

(2014年3月31日現在)

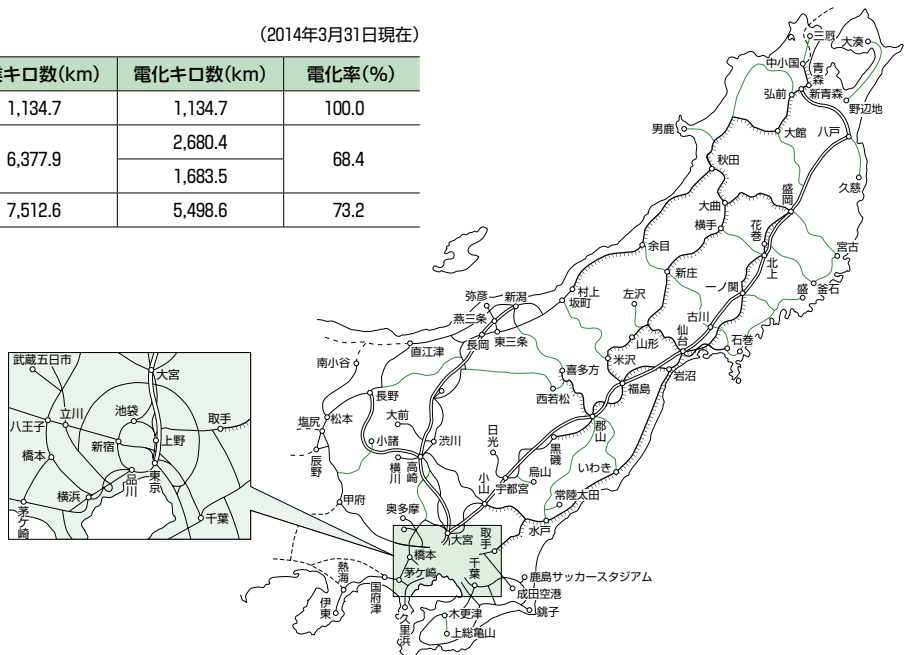
線種	箇所数
給電用変電所等	18
運転用変電所	338
合計	355

● 電化の現状

(2014年3月31日現在)

電化種別		記号	営業キロ数(km)	電化キロ数(km)	電化率(%)
新幹線	交流	====	1,134.7	1,134.7	100.0
	直流	=====	6,377.9	2,680.4	68.4
在来線	交流	TTTTTTTT		1,683.5	
合計			7,512.6	5,498.6	73.2

※ — は非電化



● 保守用機械

○ 軌陸型架線作業車（在来線）

在来線架線設備のメンテナンスのために開発された軌道・陸路の兼用車です。踏切等から線路に入り、車体を昇降回転し、載線レール上を鉄輪走行します。

また、上下に昇降できるデッキをもっており、梯子作業に比べ安全性の向上がはかれます。

架線作業車には広範囲作業車、バケット作業車等の種類があります。



広範囲作業車



バケット作業車

○ マルチメンテナンスワゴン（新幹線）

新幹線の架線を構成しているトロッコ線、ちょう架線、がいし、架線金具の調整、支持物取替等の修繕を行う際に用います。

機能として「架線支持ブーム」「エレベーター機能を持ち回転する広い作業台」「クレーン」により作業性の向上をはかった改良型です。



マルチメンテナンスワゴン

○ バケットワゴン（新幹線・在来線）

新幹線と在来線の2種類があり、高所設備の点検、検査に用います。多関節をもったブームとバケット内の操作パネルで電線や支持物を自在によけながら高所（15m）にある設備まで近づくことができます。



バケットワゴン(新幹線)

■ 自営電力

当社の自営電力は、信濃川水系に千手、小千谷、小千谷第二の3カ所の水力発電所と、川崎に火力発電所を有しており、発電容量は1,104,000kWです。これらの発電所で発生した電気は1,286.7kmの送電線路と18カ所の給電用変電所・開閉所を経て、首都圏の運転用変電所等へ供給しています。

当社の2013年度総使用電力量は約58.6億kWhで、このうち自営電力として約33.1億kWh(56.5%)を供給しました。水力発電

は、発電時に二酸化炭素（CO₂）を排出しないクリーンなエネルギーです。

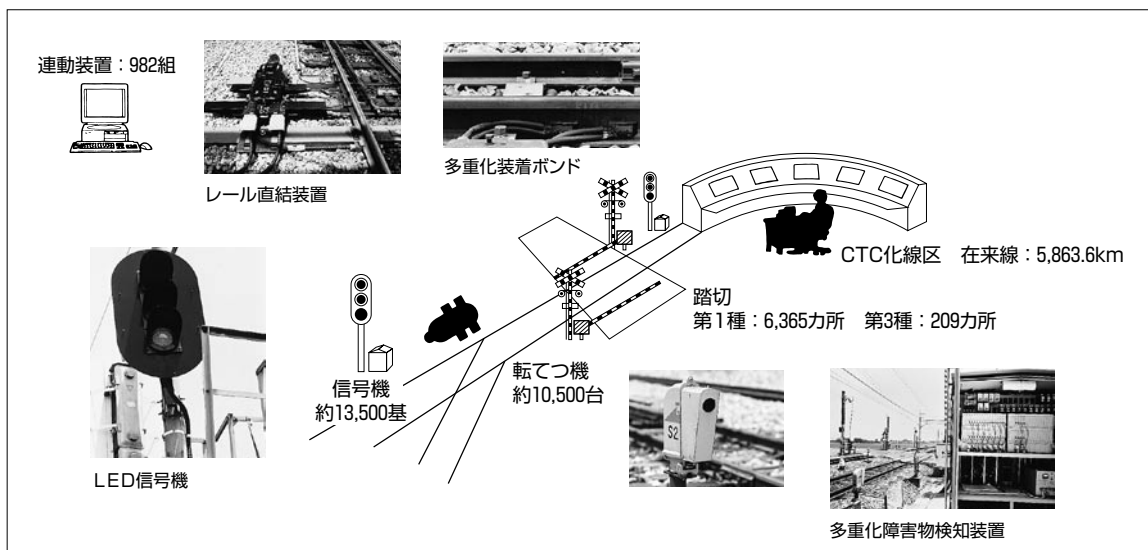
また、川崎火力発電所では設備更新の際に、効率の良い「複合サイクル発電設備」を導入したり、燃料を石油から天然ガスに変更するなど、CO₂排出量の削減に取り組んでおります。

2013年度使用電力	億kWh	%
火 力	20.9	35.7
水 力	12.2	20.8
自営電力計	33.1	56.5
購入電力	25.5	43.5
合 計	58.6	100.0

信号通信

● 信号設備

(2014年3月31日現在)



● 信号保安設備の現状

(2014年3月31日現在)

線区	区間	キロ数(km)	
CTC化線区	新幹線	東北、上越、長野	1,134.7
	在来線	吾妻線ほか59線区	5,476.4
	電子閉そく	五能線ほか3線区	387.2
	計	—	6,998.3

線区	区間	キロ数(km)	
ATS線区	吾妻線ほか64線区	6,204.1	
ATC化線区	新幹線	東北、上越、長野	1,134.7
	在来線	山手線ほか7線区	173.8
	計	—	1,308.5

注：営業キロで表記しています。

線区	区間	キロ数(km)	
PRC化線区	新幹線	東北、上越、長野	1,134.7
	在来線	吾妻線ほか56線区	5,165.0
	計	—	6,299.7

● 運転方式別営業キロ

(単位：km) (2014年3月31日現在)

	ATC方式	閉そく方式					合計
		自動	特殊自動	連査	タブレット	スタッフ	
在来線	173.8	4,234.5	1,801.5	102.1	27.6	38.4	6,377.9
新幹線	1,134.7	—	—	—	—	—	1,134.7
合計	1,308.5	4,234.5	1,801.5	102.1	27.6	38.4	7,512.6

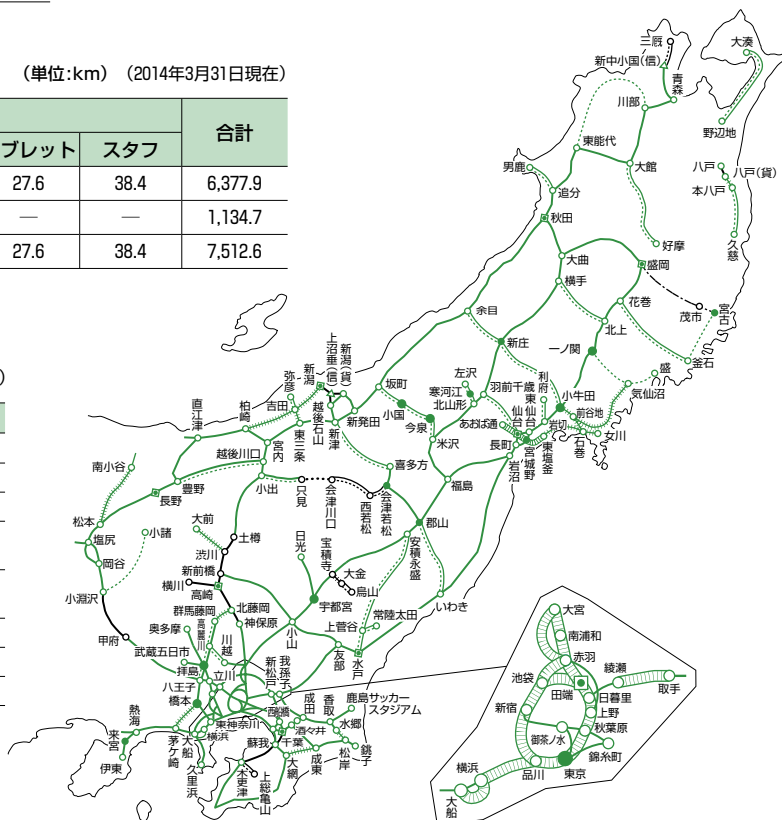
● 運転方式一覧図

凡例

(2014年3月31日現在)

運転方式		CTC区間	非CTC区間
ATC方式			
閉そく方式	自動閉そく方式		
	自動閉そく(特殊)		
	特殊自動閉そく式(軌道回路検知式)		
	特殊自動閉そく式(電子符号照査式)		
非自動閉そく方式	連査閉そく式		
	タブレット閉そく式		
	スタッフ閉そく式		

- JR支社(CTCセンター設置)
- CTCセンター所在駅
- △ 信号場、操車場
- ※ 新幹線はCTC(ATC方式)



■通信ネットワーク




安全・正確な列車運行を維持し、また経営情報を的確に把握するため、鉄道電話、指令FAX、IPネットワークなどの自営通信網を整備しています。これらは、光ファイバケーブルなどの伝送路、電話交換機あるいは通信搬送装置などで構成されています。

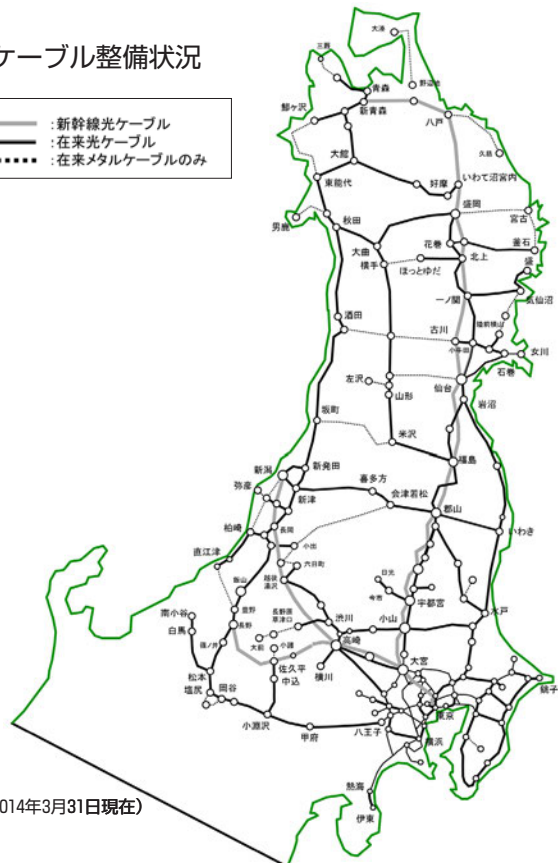
●主要通信設備概数

(2014年3月31日現在)

設備名称	数量
通信ケーブル	21,512.8km
光ファイバケーブル	8,467.9km
電話交換機	279組

●光ケーブル整備状況

	:新幹線光ケーブル
	:在来光ケーブル
	:在来メタルケーブルのみ



(2014年3月31日現在)

■衛星通信無線

大規模な災害などで、地上の通信回線が使用不能になったときの連絡用や、三浦海岸地震計のバックアップ回線用として、通信衛星および地球局を使用しています。



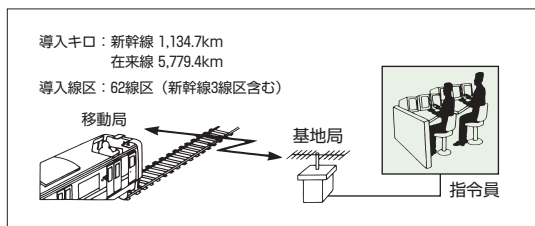
衛星用パラボラアンテナ

■列車無線

列車無線装置は、地上の指令員と走行中の列車の乗務員が直接通話できる装置です。これにより、正確な運行指示を与えるとともに、遅延情報、接続情報などの提供を行っています。





●列車無線設備

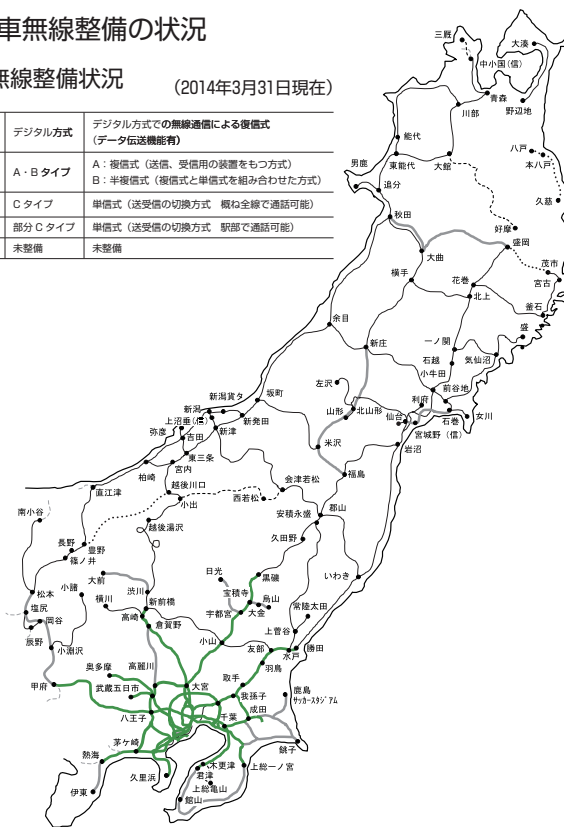
(2014年3月31日現在)



●列車無線整備の状況

列車無線整備状況 (2014年3月31日現在)

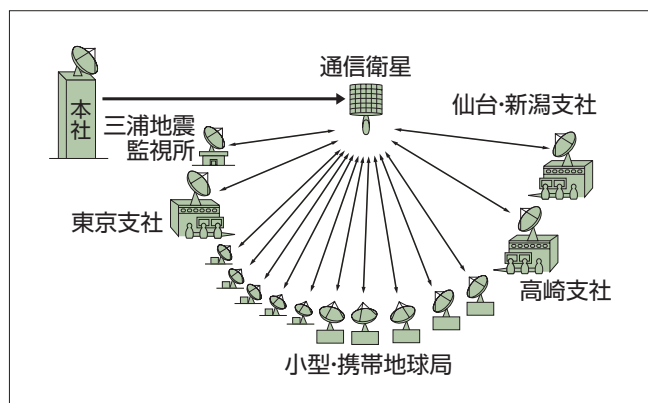
デジタル方式	デジタル方式での無線通信による復信式 (データ伝送機能有)
	A: 複信式 (送信、受信用の装置をもつ方式) B: 半複信式 (複信式と単信式を組み合わせた方式)
	Cタイプ 単信式 (送受信の切換方式 概ね全線で通話可能)
	部分Cタイプ 単信式 (送受信の切換方式 駅間で通話可能)
	未整備



鉄道事業

また、衛星通信回線の有効利用として、テレビ会議用にも使用しています。

●災害連絡用衛星通信システム



バス事業

○高速バス

東京・仙台を中心として、エリア内外を結ぶ広範囲な高速バスネットワークを構築しています。ゆったりとした車内空間と充実した装備、リーズナブルな料金がお客さまに評判です。

○貸切バス

東日本エリアをワイドにネットワーク。快適な車内装備ときめ細やかなサービスで、お客さまの楽しい旅のプランをお手伝いします。

○一般路線バス

通勤、通学、買い物の気軽な足、地域に密着した身近な交通機関として人々の暮らしや生活を支えています。

(2014年3月31日現在)

	ジェイアールバス関東株		ジェイアールバス東北株	
高速路線	営業キロ	4,873.02km	営業キロ	1,812.27km
	車両数	255台	車両数	105台
	輸送人員	3,770千人	輸送人員	1,177千人
一般路線	営業キロ	1,014.30km	営業キロ	644.69km
	車両数	115台	車両数	61台
	輸送人員	4,734千人	輸送人員	1,132千人
貸切	車両数	45台	車両数	62台
	輸送人員	307千人	輸送人員	429千人
合計	営業キロ	5,887.32km	営業キロ	2,456.96km
	車両数	415台	車両数	228台
	輸送人員	8,811千人	輸送人員	2,738千人

モノレール鉄道業

●東京モノレールの概要

(2014年3月31日現在)

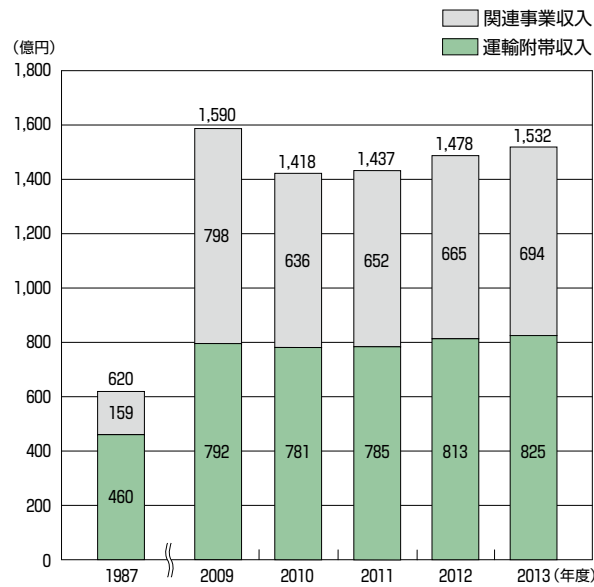
営業キロ	17.8km(羽田空港第2ビル～浜松町)
最高速度	80km/h
運転時間	普通 24分
	区間快速 21分
	空港快速 19分
列車運転本数	平日534本(うち快速217本)/日
	土休日506本(うち快速273本)/日

列車キロ	平日	9,338.3km/日	
	土休日	8,885.4km/日	
車両キロ	平日	56,029.8km/日	
	土休日	53,312.4km/日	
輸送力	ピーク (1時間片道)	平日	10,512人
		平日	311,856人
	終日	平日	295,504人
		土休日	295,504人

事業展開

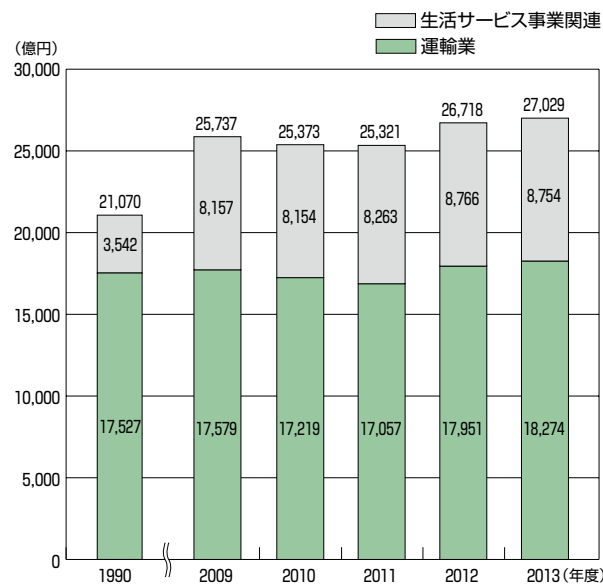
JR東日本の生活サービス事業にかかわる収入は、単体ベースでは約1,532億円で当社の営業収益全体の約7.9%を占めています。ただし、当社グループの生活サービス事業は主にグループ会社で営んでおり、連結ベースでの生活サービス事業関係セグメントの営業収益は約8,754億円、全体の約32%にのびます。生活サービス事業は今後もグループの総合力を発揮し、JR東日本グループの柱のひとつとしてさらに積極的に展開していきます。

● 運輸附帯収入および関連事業収入（直営店舗を除く）



※表示単位未満は切り捨て

● JR東日本グループ連結売上高（外部売上高）



※表示単位未満は切り捨て

※2001年度よりセグメントの変更を実施。また、生活サービス事業関連には、生活サービス事業以外（カード事業、建設コンサルタント、設備保守、清掃整備、情報、財務、人材サービスなど）を含む

駅スペース活用事業（小売・飲食業）

1日1,710万人のお客さまが移動し交流する「駅」は、JR東日本グループの最大の経営資源です。この「駅」を利用されるお客さまに便利で快適なサービスを提供するため、小売、飲食などさまざまな店舗を営業しています。また、お客さまの多様なニーズにお応えするため、駅構内の新規開発や新業態店舗の展開に積極的に取り組んでいます。

■ステーションルネッサンスの推進

駅の可能性を100%引き出すとともにお客さまの利便性の向上をめざした21世紀の新しい駅づくり「ステーションルネッサンス」を実現します。具体的には、バリアフリー設備（エスカレーター、エレベーターなど）やコンコース拡幅、案内サイン

改良等の駅設備改良工事にあわせ、各駅における最適な事業配置をゼロから構築、既存設備の徹底的な見直しにより、新たな事業スペースを創出しつつ、地域に密着した駅づくりなど、「駅を変える」ためのさまざまな取組みを進めています。

●ステーションルネッサンス

ステーションルネッサンスによる大規模開発の第1号が上野駅です。1932年完成の駅舎をお客さまの視点で全面的に見直し、歴史的な建造物は残しながら、快適で利用しやすい駅づくりを行いました。2005年3月に開業したecute（エキュー

ト）大宮は、「駅構内開発小売業」という新たなビジネスモデルで、新たな価値創造と徹底した顧客志向の深度化をはかりました。

駅名	店舗面積	開業日	開発概要
上野	5,900m ² (アトレ上野分)	2002. 2.22	(1) 人にやさしい駅づくりと駅の魅力向上 ①エレベーター9基(1基改修)、エスカレーター24基設置 ②当社初の「ベビー休憩室(授乳室)」を設置 ③トイレの改装、多機能トイレの新設、女性用パウダールームの新設 ④インフォメーションセンターの新設 ⑤中央改札前の大空間「グランドコンコース」を整備 (2) 情報発信スペース「Break」の設置 駅および駅周辺を案内する「ステーションコンシェルジュ」を設置 (3) 「Breakステーションギャラリー」新設と芸術作品の再配置 ①東京芸術大学の協力のもとで美術展を開催 ②平山郁夫画伯作の芸術作品を中央改札付近に集約 (4) 54店舗からなるショップストリート「アトレ上野」を展開
大宮	4,900m ² (2,300m ² エキュート大宮分、2,600m ² ルミネ大宮増床分)	2005. 3.5	(1) 駅構内開発小売業の展開 ①鉄道施設を含めた駅の環境計画から商業施設のMD、取引先選定、売場マネジメント、販売促進を一貫して行う新しいビジネスモデルを展開 ②エキナカにマッチした新ブランド、新業態28店を含む68店舗(開業時)を導入 ③Suica決済の導入と統一システムによる営業データ収集 ④清掃等のメンテナンスの一元的管理 (2) 「わかりやすく、利用しやすい」駅空間づくり ①すべてのホームにエスカレーター、エレベーターの設置 ②案内サインの整備、改札口周りのデザイン統一化 ③トイレ増設および、多機能トイレ・女性用パウダールームの新設 (3) ルミネ大宮の増床、リニューアルの実施 ファッション性、専門性を重視した、幅広い業種で提案性の高いショップを新たに導入
西船橋	2,130m ²	2005. 3.25	(1) 線路上空に人工地盤を建設、武蔵野線乗換コンコースの新設によりゆとりある快適な移動空間を創出 (2) エレベーター5基、エスカレーター(上下)12基を増設 (3) 多機能トイレを駅改札内に新設、心地よい快適で清潔な環境を整備 (4) ショッピングセンター的な運営手法を導入した商業施設「Dila西船橋」を展開(22店舗)
品川	1,600m ² (エキュート品川分)	2005. 10.1	(1) 線路上空に人工地盤(3層)を新設し、新幹線および在来線の乗換アクセス向上のためのコンコース整備ならびに店舗スペースを拡大 (2) 明るい駅空間の提供 ①トイレの増開設 ②連絡通路のリニューアル (3) 「エキュート品川」を展開(46店舗)
大船	1,585m ² (1,390m ² Dila大船分、195m ² ルミネ大船増床分)	2006. 2.2	(1) お客さまの利便性向上のため、北口に改札口を新設、あわせて南北改札を結ぶ連絡通路を新設 (2) すべてのホームにエスカレーター、エレベーターを設置。また、多機能トイレも駅改札内に新設 (3) ショッピングセンター的な運営手法を導入した商業施設「Dila大船」を展開(26店舗) (4) ルミネ大船の増床(11店舗)
拝島	660m ²	2007. 8.24	(1) 南北自由通路の新設にあわせ駅舎の橋上化 ①各ホームにエスカレーター(計6基)、エレベーター(計3基)の設置 (2) 混雑緩和のための改札内コンコース通路幅の拡幅 ③わかりやすい案内サインの整備、多機能トイレの設置 (2) 「Dila拝島」の展開(8店舗)
立川	4,300m ² (エキュート立川分)	2007. 10.5	(1) 「わかりやすく利用しやすい駅」づくり、「地域の皆さまに親しまれる駅空間」づくり ①線路上空に人工地盤(3層)を新設し、ゆとりのある空間を創出 ②新コンコースへのエスカレーター(6基)の整備 ③お客さま用トイレ(1カ所)、多機能トイレ(1カ所)の増設、 女性用パウダールームの設置(1カ所) ④新しい「びゅうプラザ」の整備 (2) 「エキュート立川」の展開(94店舗) 駅直結型の「保育施設」「ベビー休憩室」の展開 (3) ホテルメッツ立川の展開
三鷹	1,380m ² (Dila三鷹分)	2007. 12.16	(1) 人工地盤(2層)を新設し、各ホームにエレベーター1基(計3基)、エスカレーター各2基(計6基)を設置 (2) 駅案内サインの整備などにより、お客さまにわかりやすく使いやすい駅づくり、店舗部分とあわせて明るく開放感のある空間の創出 (3) 「Dila三鷹」の展開(26店舗) (4) 駅設備改良・みどりの窓口・びゅうプラザの改良
田端	1,760m ²	2008. 7.30	(1) バリアフリー設備の整備 エスカレーター4基、エレベーター2基 (2) トイレ改修 (3) アトレヴィ田端の展開(13店舗) (4) エキナカ店舗の展開(4店舗)
巣鴨	1,910m ²	2010. 3.25	(1) 分散配置されている駅業務施設を一部新設人工地盤上に2層構造として集約し、コンコースの美化により駅イメージを改良 (2) 旅客トイレ改修、サイン整備などにより、お客さまにわかりやすい駅づくり (3) アトレヴィ巣鴨(22店舗)、構内営業店舗(3店舗)の展開

●「Dila」「ecute」の展開

駅の魅力向上とさらなる高収益化をめざし、駅をご利用になられるお客さまのニーズや駅の立地にあわせて「Dila」や

「ecute」等のブランドで、エキナカ商業施設を展開しています。

○ Dila

(2014年8月1日現在)

名称	店舗数	開業日	備考
Dila上野	5	3F改札外 2001.12.7 1F 2002.3.14	そば、洋食、イタリアンなど
Dila仙台	16	2001.12.1	スイーツ、喫茶、リラクゼーションなど
Dila津田沼	19	2011.3.20	コンビニ、スイーツ、喫茶、ベーカリー、そば・うどん、惣菜など
Dila大崎	8	2002.12.1	コンビニ、そば、喫茶など
Dila阿佐ヶ谷	13	2011.12.13	コンビニ、スイーツ、喫茶、ベーカリー、惣菜など
Dila西荻窪	10	2003.11.30	コンビニ、スイーツ、ベーカリー、惣菜など
Dila蘇我	6	2004.8.29	コンビニ、ハンバーガー、雑貨など
Dila西船橋	29	2005.3.25	コンビニ、スイーツ、喫茶、書店、雑貨、リラクゼーションなど
Dila大宮	15	2005.11.1	コンビニ、スイーツ、そば、喫茶、雑貨、土産など
Dila大船	30	2006.2.2	コンビニ、そば、スイーツ、喫茶、書店、惣菜など
Dila高円寺	3	2006.3.15	スイーツ、喫茶、ベーカリーなど
Dila拜島	8	2007.8.24	コンビニ、スイーツ、書店、ドラッグストアなど
Dila三鷹	28	2007.12.16	コンビニ、スイーツ、ベーカリー、中華、惣菜、リラクゼーションなど
Dila小山	6	2012.12.15	コンビニ、書店、喫茶など

注)：店舗数には、宝くじ含む。ATM除く。

○ ecute

(2014年4月1日現在)

名称	店舗面積	開業日	業種構成
ecute大宮	約2,300m ²	2005.3.5	惣菜、和洋菓子、雑貨、飲食、サービスなど(78ショップ)
ecute品川	約1,600m ²	2005.10.1	惣菜、和洋菓子、雑貨、飲食、サービスなど(52ショップ)
ecute立川	約4,300m ²	2007.10.5	惣菜、和洋菓子、雑貨、飲食、サービス、保育園、複合クリニックなど(92ショップ)
ecute日暮里	約380m ²	2009.6.20	惣菜、和洋菓子、雑貨、飲食など(18ショップ)
ecute東京	約730m ²	2010.3.28	惣菜、和洋菓子、雑貨、飲食など(32ショップ)
ecute上野	約4,800m ²	2011.3.31	惣菜、和洋菓子、雑貨、飲食、サービスなど(76ショップ)
ecute品川 South	約1,800m ²	2011.5.16	惣菜、和洋菓子、雑貨、飲食など(39ショップ)
ecute赤羽	約1,600m ²	2011.9.23	惣菜、和洋菓子、雑貨、飲食、アパレルなど(53ショップ)



ecute大宮

●今後の開発予定駅

日暮里、柏、川崎、船橋、熱海など

●主要店舗一覧

(2014年3月末日)

業種	店舗名	店舗数	運営会社	店舗概要
小売	KIOSK	362	(株)JR東日本リテールネット等	駅でおなじみの売店
	NEWDAYS	508		JR東日本グループが展開するコンビニエンスストア
	ブックエクスプレス	20		新刊やビジネス書をはじめ、立地条件やお客さまのニーズに合わせた本格書店
飲食	駅そば (いろいろ庵きらく等)	165	(株)日本レストランエンタプライズ	自社工場で製造されたオリジナル種を使用した駅そば店 ※いろいろ庵きらく、そばいち、あじさい、大江戸そば等のブランドで首都圏を中心に展開しております。
	駅弁売店 (駅弁屋祭等)	84		定番駅弁から新作駅弁まで地域の魅力が詰まった名物駅弁を取り揃えた駅弁専門店 ※「駅弁屋祭」「駅弁屋旨門」など一部店舗では、日本各地の駅弁を幅広く取り揃え毎日が駅弁祭りのような品揃えしております。
	ベックスコーヒーショップ	82	ジェイアール東日本フードビジネス(株)等	香り高いコーヒーとこだわりの手作りサンドイッチでおもてなしする「駅カフェ」
	ベッカーズ	21		バラエティ豊かなこだわりのハンバーガーを提供するハンバーガーレストランチェーン
	ほんのり屋	10		こだわりの米、海苔、塩、食材を使用した「おむすび」専門店
	ハニーズバー	37		はちみつやフルーツを使った駅のジューススタンド
サービス	QBハウス	19	(株)JR東日本リテールネット	駅の需要に合わせたクイック対応のヘアカット専門店

●主要駅における駅構内店舗数

(2014年3月末日現在)

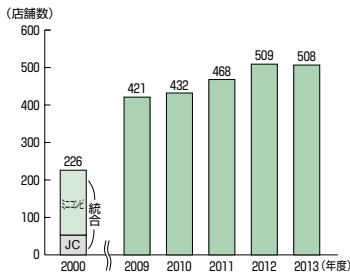
駅名	小売店舗	飲食店舗	その他店舗	合計
東京	71	6	11	88
新宿	35	7	13	55
上野	36	15	11	62
大宮	42	13	8	63
仙台	66	26	13	105

※自販機、ロッカー除く

※その他店舗…QBハウス、ミスターミニット、ビューアルutte等

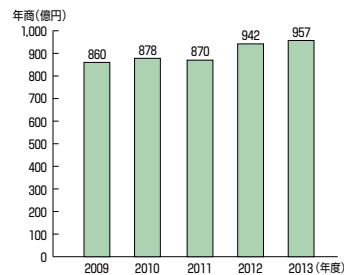
● コンビニエンスストア事業の展開

○ NEWDAYS 店舗数の推移



※(株)JR東日本リテールネット運営店舗のみ

○ NEWDAYS の売上推移



※(株)JR東日本リテールネット運営店舗のみ

● 飲料事業の展開

(株)JR東日本ウォータービジネスは、グループ向け清涼飲料の卸売事業、エキナカを中心とする飲料自販機事業、谷川連峰の湧水を活用したオリジナル商品開発事業に取り組んでいます。また、デジタルサイネージを搭載した次世代自販機を開発・設置するとともに、各地の優れた果物を使用した地産飲料を地元飲料メーカーと共同開発し、首都圏で販売すること等により地域の活性化にも取り組んでいます。

店舗名	2009年度末	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末
自販機	9,400	9,980	9,970	10,000	10,000
再掲 次世代自販機	0	50	340	500	500

● グループ外企業のノウハウの活用

構内営業店舗は原則としてグループ会社が営業していますが、多様化するお客さまのニーズへの対応と、グループ会社

によるノウハウの吸収を目的として、グループ外企業と連携した店舗展開も行っています。

(2014年3月末日現在)

店舗名	会社	店舗数	営業開始	概要
ユニクロ	JR東日本、 JR東日本リテールネット、 ファーストリテイリング	16店舗 (東京、品川、上野など)	2000.10	シーズンごとのキャンペーン商品を中心に販売
さめきうどん NRE&めりけんや	JR東日本、NRE、 JR四国、めりけんや	4店舗 (恵比寿、新橋、関内、武蔵小杉)	2002.8	美味しくヘルシーなさめきうどんを駅構内に導入し、プームの火付け役となった
野菜を食べるカレー camp express	NRE、バックパッカーズ	6店舗 (池袋、品川など)	2010.8	新鮮野菜を使ったアウトドア感たっぷりのカレー店

● グループ会社による業態開発・商品開発の取組み例

グループ会社ではこれまで蓄積したノウハウを活用し、積極的に業態開発、商品開発を行っており、その数も年々増えつつあります。

○ 業態開発

(2014年3月末日現在)

店舗名	会社	店舗数	開業日	店舗概要
親父の製麺所	㈱日本レストラン エンタプライズ	4店舗 (浜松町、大崎、田端、秋葉原)	2010.3	本場香川から直送の麺を使用したNREオリジナルさめきうどん店
Tokyo Food Bar		2店舗 (秋葉原、成田空港)	2010.4	「スマートスタイル」をコンセプトとしたフードコート&カフェ
博多らーめん四神		4店舗 (亀戸、金町、有楽町、TX守谷)	2011.9	早い、旨い、安いを追求するエキナカの博多ラーメン店
プレミィ・コロミィ	㈱JR東日本 リテールネット	11店舗 (東京、恵比寿、上野、横浜など)	2007.6	オリジナル雑貨や輸入雑貨、洋服などを展開するJリテールの雑貨店
ドリップマニア	ジェイアール東日本 フードビジネス(株)	3店舗 (東京、横浜など)	2007.10	ハンドドリップで一杯ずつ丁寧に淹れる“品質と鮮度”にこだわったコーヒーショップ
ハニーズバー		37店舗 (東京、新宿、池袋、など)	2007.7	はちみつやフルーツ、野菜、ミルクなどをベースにしたジュースを提供するジューススタンド

○ 商品開発

(2014年3月末日現在)

商品名	会社	発売開始	概要
純米大吟醸酒 「大人の休日」	㈱ジェイアール 東日本商事	2002.4	銘酒「久保田」を手掛ける朝日酒造とのタイアップによる限定製造の純米大吟醸酒
東京弁当	㈱日本レストラン エンタプライズ	2002.10	東京の老舗の味を詰め込んだ日本を代表するこだわりの駅弁
東北復興弁当	㈱日本レストラン エンタプライズ	2011.10	東日本大震災からの復興に向けて頑張っている東北六県のおいしい味をお届けする駅弁
Panest	㈱JR東日本 リテールネット	2006.7	最上級のパン(Pan+est)を目指したJリテールオリジナルの菓子パンシリーズ
朝の茶事	㈱JR東日本 ウォータービジネス	2007.5	JR東日本グループがもつエキナカのデータと、伊藤園がもつ技術を活かして共同開発した緑茶
FROM AQUA	㈱JR東日本 ウォータービジネス	2007.7	谷川岳直下の上越新幹線のトンネル内で取水される天然水を活用したミネラルウォーター
Eki Rich	㈱JR東日本 リテールネット	2009.11	「いつもの駅で、リッチなデザートを味わってほしい」という想いから生まれたエキナカスイーツ

ショッピング・オフィス事業

■ ショッピング事業

ショッピングセンターはグループ23社151カ所(2014年10月1日現在)で運営しています。お客さまのニーズや地域性に合わせた売場づくりを進めています。

● ショッピングセンター一覧

(2014年10月1日現在)

会社名	名称	所在駅	開業日	フロア構成	
㈱鉄道会館	グラングルメ	東京	1952. 9. 1	B1-3F	
	グランアージュ	東京	2001.12. 3	B1-2F	
	グランルーフ グランルーフフロント	東京	2013. 9.20	B1-3F	
	KITTE GRANCHE(JP タワー)	東京	2013. 3.21	B1	
㈱アトレ	アトレ恵比寿	恵比寿	1997.10. 1	1F-7F	
	アトレ目黒1	目黒	1967.11.25	B1-6F	
	アトレ目黒2	目黒	2002. 4. 2	1F-2F	
	アトレ吉祥寺	吉祥寺	1969.12. 3	B1-2F	
	アトレ川崎	川崎	1958.12. 1	B1-8F	
	アトレ大森1	大森	1984. 9.14	B1-6F	
	アトレ大森2	大森	1984. 9.14	B1-6F	
	アトレ大井町1	大井町	1993. 3.11	1F-6F	
	アトレ大井町2	大井町	2011. 3. 3	2F-3F	
	アトレ品川	品川	2004. 3. 3	2F-4F	
	アトレ秋葉原1	秋葉原	2010.11.19	1F-6F	
	アトレ秋葉原2	秋葉原	2005. 6. 2	2F-6F	
	アトレ上野	上野	2002. 2.22	B1-2F	
	アトレ松戸	松戸	1977. 4. 2	1F-8F	
	ボックスヒル取手	取手	1988. 9.21	1F-5F	
	アトレ亀戸	亀戸	1978.10.12	B1-7F	
	アトレ新浦安	新浦安	1993. 2.26	1F-2F	
	アトレ四谷	四ツ谷	1990. 9.28	1F-2F	
	アトレヴィ信濃町	信濃町	1993. 2.26	1F-2F	
	アトレヴィ五反田	五反田	2008. 3.14	1F-5F	
	アトレヴィ田端	田端	2008. 7.30	1F-3F	
	アトレヴィ巣鴨	巣鴨	2010. 3.25	1F-5F	
	アトレヴィ三鷹	三鷹	1999.10.29	1F-5F	
	アトレヴィ東中野	東中野	2012. 8.31	1F-5F	
	アトレヴィ大塚	大塚	2013. 9.12	B1-4F	
	ベルチ土浦	土浦	2009. 7.24	B1-5F	
	㈱ルミネ	ルミネ大宮1	大宮	1967.10. 3	B1-6F
		ルミネ大宮2	大宮	1982. 6.19	1F-5F
		ルミネ北千住	北千住	1985. 3.27	B1-9F
		ルミネ新宿1	新宿	1976. 3.10	B2-8F
		ルミネ新宿2	新宿	1987.10.22	1F-7F
		ルミネエスト新宿	新宿	1964. 5.20	B2-8F
ルミネ立川		立川	1982.10. 2	B1-9F	
ルミネ横浜		横浜	1980.11. 7	B2-9F	
ルミネ町田		町田	1999. 9.22	1F-10F	
ルミネ荻窪		荻窪	1981. 9.30	B1-6F	
ルミネ藤沢		藤沢	1987. 2. 1	1F・3F・4F	
ルミネ川越		川越	2004. 2.19	1F-4F	
ルミネ・ザ・キッチン品川		品川	1999.10.20	1F-2F	
ルミネ大船		大船	1992. 9.18	3F-6F	
ルミネマン渋谷		渋谷	2009. 8.26	1F-3F	
ルミネ池袋		池袋	1992. 6.10	B1-10F	
ルミネ有楽町1	有楽町	2011.10.28	B1-8F		

会社名	名称	所在駅	開業日	フロア構成
㈱ルミネ	ルミネ有楽町2	有楽町	2011.10.28	B2-4F
	ルミネストリート	有楽町	2011.10.28	1F
㈱横浜ステーションビル	シアルプラット東神奈川	東神奈川	2009.10. 7	1F-6F
	シアル鶴見	鶴見	2012.11. 1	1F-6F
	シアル桜木町	桜木町	2014. 7.16	1F-2F
	ブチール港南台	港南台	2007. 3.28	1F-2F
	エキスト鹿島田	鹿島田	2004. 7.28	1F-3F
	エキスト保土ヶ谷	保土ヶ谷	1998.11.18	1F-2F
湘南ステーションビル㈱	ラスカ茅ヶ崎	茅ヶ崎	1985. 4.19	1F-6F
	ラスカ平塚	平塚	1973. 6.26	B1-7F
	ラスカ平塚南館	平塚	2003.12.12	1F-4F
	ラスカ小田原	小田原	2005. 6.25	1F-5F
㈱JR中央ラインモール	nonowa 西国分寺	西国分寺	2012. 9.13	1F-2F
	nonowa 武蔵境	武蔵境	2013. 5.29	1F
	nonowa 東小金井	東小金井	2014. 1.27	1F
ジェイアール東日本商業開発㈱	GRANDUO立川	立川	1999. 4.18	1F-8F
	GRANDUO蒲田東館	蒲田	2008. 4.16	B1-6F
	GRANDUO蒲田西館	蒲田	2008. 4.16	B1-9F
JR東京西駅ビル開発㈱	セレオ国分寺	国分寺	1989. 3. 1	B1-9F
	セレオ八王子北館	八王子	2012.10.25	B1-10F
	セレオ八王子南館	八王子	2010.11.11	1F-5F
	セレオ相模原	相模原	1997.11. 1	1F-4F
	西八王子ロンロン	西八王子	1997. 2.14	1F-2F
	セレオ武蔵小金井	武蔵小金井	2009. 9.17	1F-4F
	甲府エクラン	甲府	1985.10. 6	1F-5F
宇都宮ステーション開発㈱	バセオ	宇都宮	1974.11. 1	1F-2F
	バル小山	小山	1978. 7.16	1F-3F
	バル古河	古河	1987. 3.28	1F-3F
高崎ターミナルビル㈱	高崎モントレー	高崎	1982. 4.14	1F-5F・7F
	アズ熊谷	熊谷	1987. 4.24	1F-6F
	イーサイト上尾	上尾	2010. 3.14	2F
	イーサイト高崎	高崎	2010.12.12	1F-3F
水戸ステーション開発㈱	イーサイト籠原	籠原	2011. 3.20	1F-3F
	エクセル	水戸	1985. 3.24	1F-7F
	エクセルみなみ	水戸	2011. 5.25	3F-6F
㈱錦糸町ステーションビル	いわき駅ビル	いわき	2009. 6.19	1F-4F
	テルミナ	錦糸町	1961.11.28	B1-7F
	テルミナ2	錦糸町	1980. 5.30	1F
㈱千葉ステーションビル	テルミナ3	錦糸町	2003. 7.23	1F-6F
	ペリエ千葉	千葉	1963. 4.28	B1-1F
	ペリエ稲毛	稲毛	1981. 5.29	1F
	ペリエ西千葉	西千葉	1982. 4.23	1F
	ペリエ検見川浜	検見川浜	1999. 7. 2	1F
	ペリエ稲毛海岸	稲毛海岸	1996.10.18	1F
	アルカード茂原	茂原	1990. 7. 7	1F
	四街道駅ビル	四街道	2002.12.20	1F-4F

生活サービス事業

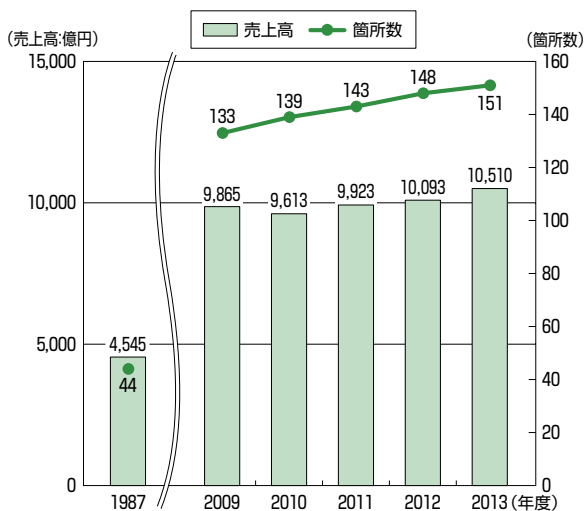
● ショッピングセンター一覧

(2014年10月1日現在)

会社名	名称	所在駅	開業日	フロア構成
㈱千葉ステーションビル	ペリエ津田沼	津田沼	2005.11.12	1F-4F
	ペリエ海浜幕張	海浜幕張	2013. 3. 1	1F
㈱JR東日本青森商業開発	A-FACTORY	青森	2010.12. 4	1F-2F
	ラビナ	青森	1986. 5.23	1F-5F
	あおもり旬味館	新青森	2010.12. 4	1F
	アブリース	弘前	1982. 4.23	1F-4F
㈱ステーションビル MIDORI	MIDORI 長野	長野	1985. 4. 6	B1-5F
	MIDORI 松本	松本	1978. 7.22	1F-4F
仙台ターミナルビル㈱	エスバル仙台	仙台	1978. 3.18	B1-3F
	エスバルII	仙台	2008. 6.18	2F
	エスバル福島	福島	1988. 6.10	1F-5F
	エスバル郡山	郡山	1982. 7.15	1F-3F
	エスバル山形	山形	1993.11.27	1F-5F
盛岡ターミナルビル㈱	フェザン	盛岡	1981. 4.10	B1-3F
秋田ステーションビル㈱	アルス	秋田	1986. 7. 4	B1-2F
	トビコ	秋田	1961. 9. 2	1F-3F
㈱JR東日本リテールネット	リエール藤沢	藤沢	1997. 2. 7	1F-3F
㈱ジェイアール東日本都市開発	小岩ポポ	小岩	1972. 7.15	B1-1F
	シャボール市川	市川	1972. 9.14	B1-1F
	シャボール本八幡	本八幡	1972.10.12	1F-2F
	シャボール船橋	船橋	1972.11.14	B1-1F
	ビーンズ戸田公園	戸田公園	1991.11.22	1F-2F
	ビーンズ戸田	戸田	1995. 4.15	1F
	ビーンズ武蔵浦和	武蔵浦和	1987. 6. 8	1F-2F
	ビーンズ与野本町	与野本町	1989. 3. 8	1F
	ビーンズ西川口	西川口	2007. 5.18	1F-5F
	ビーンズ中山	中山	1985.11.22	1F-4F
	ビーンズ武蔵中原	武蔵中原	2000. 9. 8	1F-2F
	ビーンズ武蔵新城	武蔵新城	1996.12. 6	1F

会社名	名称	所在駅	開業日	フロア構成
㈱ジェイアール東日本都市開発	アルカード新杉田	新杉田	1989. 7.20	1F-2F
	ビーンズ保土ヶ谷西館	保土ヶ谷	1991. 5. 1	1F-3F
	ビーンズ保土ヶ谷東館	保土ヶ谷	1999. 4.21	1F-3F
	アルカード赤羽	赤羽	2000. 4.26	1F
	ビーンズ亀有	亀有	1996.11.27	1F
	阿佐ヶ谷ダイヤ街	阿佐ヶ谷	1967. 3.17	1F-2F
	ビーンズアネックス東大宮	東大宮	1996. 7.10	1F-3F
	ビーンズアネックス白岡	白岡	1998.10. 2	1F-3F
	ビーンズアネックス新秋津	新秋津	2012.11. 1	1F-2F
	ビーンズアネックス大口	大口	2013.10.25	1F-2F
	宮原駅ビル	宮原	2003. 6.27	1F-4F
	味の食彩館みぞのくち	武蔵溝ノ口	2000. 5.29	1F-5F
	味の食彩館はしもと	橋本	2003. 3. 6	2F-5F
	味の食彩館ふちのべ	湘野辺	2005.12.20	1F-2F
	味の食彩館のぼりと	登戸	2006.12. 1	1F-3F
	牛久アステア	牛久	1996. 3.15	1F-2F
スキップ北小金	北小金	2000. 4.19	1F-3F	
スキップ南柏	南柏	1999. 3.27	1F-3F	
JR東日本東北総合サービス㈱	古川駅食品館ピボット	古川	1990. 7.15	1F
	郡山駅食品館ピボット	郡山	1991. 5.17	1F
	福島駅西口パワーシティピボット	福島	1997. 4.18	1F
	会津若松駅食品館ピボット	会津若松	2000.11.29	1F
㈱ジャスター	シーガルタウン	本八戸	1984. 7.14	1F
㈱トッキー	CoCoLo本館	新潟	1982.11.13	2F-3F
	CoCoLo東・フードコート・中央	新潟	1999. 7.27	1F
	CoCoLo南館	新潟	2009. 2.20	1F-3F
	CoCoLo万代	新潟	2000.12.22	B1-1F
	CoCoLo西館	新潟	2013. 4. 8	1F-3F
	CoCoLo長岡	長岡	1980. 7. 3	1F-2F
CoCoLo湯沢・がんぎどおり	越後湯沢	1984.12.23	2F	

● JR東日本グループショッピングセンター売上高と箇所数の推移



● 駅ビルポータルサイト「駅パラ」

(<http://www.ekipara.com>)

JR東日本グループの駅ビルや駅のショップ情報をインターネットを通じてご案内しています。お客さまのニーズに対応したコンテンツを発信しています。



● 駅ビル運営会社の再編

営業力強化、経営の効率化などを目的として、2002年4月時点で56社あった運営会社を見直し、ルミネ、アトレ、エスパ

ル(仙台ターミナルビル)のフラッグシップ3社を中心とした事業再編(合併)を推進しています。

(2014年4月現在)

年月日	再編会社	再編後	運営会社数
2002年 7月 1日	千葉ステーションビル+総武ステーション開発	→ 千葉ステーションビル	55社
2003年 4月 1日	ルミネ+ルミネ荻窪	→ ルミネ	51社
	仙台ターミナルビル+福島ステーション開発	→ 仙台ターミナルビル	
	水戸ステーション開発+土浦ステーション開発	→ 水戸ステーション開発	
	長野ステーションビル+松本ステーションビル	→ ステーションビルMIDORI	
2004年 4月 1日	東京圏駅ビル開発 ^{※2} +亀戸ステーションビル+目黒ステーションビル	→ 東京圏駅ビル開発 ^{※2}	46社
	仙台ターミナルビル+郡山ステーションビル	→ 仙台ターミナルビル	
	宇都宮ステーション開発+小山ステーション開発	→ 宇都宮ステーション開発	
	秋田ステーションデパート+秋田ターミナルビル	→ 秋田ステーションビル	
2004年10月 1日	仙台ターミナルビル+山形ターミナルビル	→ 仙台ターミナルビル	44社
	トッキー+越後ステーション開発	→ トッキー	
2005年 4月 1日	東京圏駅ビル開発 ^{※2} +大森プリモ+秋葉原	→ 東京圏駅ビル開発 ^{※2}	38社
	平塚ステーションビル+ルミネ茅ヶ崎+アボンデ	→ 湘南ステーションビル	
	盛岡ターミナルビル+青森ステーション開発	→ 盛岡ターミナルビル	
	高崎ターミナルビル+熊谷ステーション開発	→ 高崎ターミナルビル	
2006年 4月 1日	ルミネ+新宿ステーションビルディング	→ ルミネ	35社
	八王子ターミナルビル+国分寺ターミナルビル+甲府ステーションビル	→ 八王子ターミナルビル ^{※1}	
2007年 4月 1日	ジェイアール東日本商業開発+蒲田ステーションビル	→ ジェイアール東日本商業開発	33社
	東京圏駅ビル開発 ^{※2} +吉祥寺ロンロン	→ 東京圏駅ビル開発 ^{※2}	
2008年10月31日	いわき中央ステーションビル解散		32社
2009年 4月 1日	支社別グループ会社再編		27社
2009年 7月 1日	ジェイアール東日本都市開発+ジェイアール東日本住宅開発	→ ジェイアール東日本都市開発	26社
2009年 7月24日	ベルチ土浦 (JR東日本) 開業		27社
2009年10月 1日	アトレ+川崎ステーションビル+ボックスビル	→ アトレ	25社
	ルミネ+池袋ターミナルビル	→ ルミネ	
2010年 4月 1日	池袋ターミナルビル (東武百貨店部分)	→ ジェイアール東日本ビルディング	25社
	JR東日本青森商業開発設立		
2010年 5月27日	JR東日本青森商業開発設立		26社
2011年 4月 1日	JR東日本青森商業開発+弘前ステーションビル (盛岡ターミナルビル「ラピナ」「あおもり旬味館」を吸収)	→ JR東日本青森商業開発	25社
2011年10月 1日	ステーションビルMIDORI+しなのエンタープライズ	→ ステーションビルMIDORI	24社

※1 社名変更により現在は「JR東京西駅ビル開発」 ※2 社名変更により現在は「アトレ」

■ オフィス事業

立地の特性や駅直結の利便性を活かしたオフィス事業を展開しています。

● 主なオフィスビル一覧

(2014年4月現在)

ビル名	最寄駅	規模	賃貸可能面積 (当社所有部分のみ記載)	開業年月
藤沢ルミネプラザ	藤沢	地上9階	5,933㎡	1987. 2
保土ヶ谷アーバンI	保土ヶ谷	地上7階、地下1階	3,436㎡	1991. 5
JR大宮西口ビル	大宮	地上5階	2,484㎡	1992. 3
JR八丁堀ビル	八丁堀	地上8階	956㎡	1992. 4
メトロポリタンプラザビル	池袋	地上22階、地下4階	17,650㎡	1992. 6
JR信濃町ビル	信濃町	地上6階、地下2階	7,666㎡	1993. 2
JRT3ビル西国分寺	西国分寺	地上4階	1,517㎡	1993. 4
JR大宮西口ビルII	大宮	高架下1階	544㎡	1994. 7
赤羽バルロード	赤羽	地上11階、地下2階	410㎡	1995.11
アルカイースト	錦糸町	地上19階、地下3階	5,511㎡	1997. 6
本社ビル	新宿	地上28階、地下4階	11,953㎡	1997. 9
JR恵比寿ビル	恵比寿	地上14階、塔屋1階	16,333㎡	1997.10
ビーンズアネックス西国分寺	西国分寺	地上3階、地下1階	692㎡	2000. 4
横浜支社ビル	横浜	地上7階	2,443㎡	2000. 8
JR東急目黒ビル	目黒	地上17階、地下4階	10,404㎡	2002. 4
JR品川イーストビル	品川	地上20階、地下3階	27,998㎡	2004. 3
東京ビルディング	東京	地上33階、地下4階	13,182㎡	2005.10
サビアタワー	東京	地上35階、地下4階	31,689㎡	2007. 3
グラントウキョウノースタワー	東京	地上43階、地下4階	15,314㎡	2007.10
グラントウキョウサウスタワー	東京	地上42階、地下4階	49,418㎡	2007.10
JPタワー	東京	地上38階、地下4階	7,363㎡	2012. 5
JR南新宿ビル	新宿	地上18階、地下4階	29,360㎡	2012. 7
JR神田万世橋	秋葉原	地上20階、地下2階	15,320㎡	2013. 1
JR大塚南口ビル	大塚	地上12階、地下1階	6,022㎡	2013. 8

その他

ホテル業

ホテル業は「JR東日本ホテルズ」として各ブランド別にホテル数45、客室数6,594室(2014年10月現在)で展開しています。

●メトロポリタンホテルズ

駅に近く、ビジネスや観光の拠点にフットワーク抜群のシティホテルです。宿泊をはじめ、レストラン、宴会など充実の機能と洗練されたサービスでホテルライフをサポートします。首都圏や県庁所在地、新幹線停車駅を中心に10ホテルを展開しています。

○メトロポリタンホテルズ一覧

(2014年10月現在)

ホテル名	駅名	客室数(室)	開業日
ホテルメトロポリタン丸の内	東京	343	2007. 5.24
ホテルメトロポリタン	池袋	807	1985. 6. 2
ホテルメトロポリタン エドモント イーストウイング	飯田橋	445 220	1985. 6.30 2003. 3.27
ホテルメトロポリタン高崎	高崎	141	1982. 4.14
ホテルメトロポリタン長野	長野	235	1996.11.24
ホテルメトロポリタン仙台	仙台	295	1988. 7.11
ホテルメトロポリタン山形	山形	116	1993.11.27
ホテルメトロポリタン盛岡	盛岡	190	1981. 4.10
ホテルメトロポリタン盛岡 ニューウイング	盛岡	121	1996. 5. 8
ホテルメトロポリタン秋田	秋田	115	1986. 7. 4

●ファミリーオ／フォルクローロ

大自然の中でゆったり過ごす自然志向のホテル「ファミリーオ」。駅、または駅の周辺を拠点にする行動的な旅にぴったりのホテル「フォルクローロ」。

○ファミリーオ／フォルクローロ一覧

(2014年10月現在)

ホテル名	駅名	客室数(室)	開業日
ファミリーオ館山	館山	31	1998. 4.24
ファミリーオ新治	上毛高原	30	1998. 4.17
ファミリーオ佐渡相川	—	30	1999. 6. 9
フォルクローロ高島	高島	26	1997.10. 8
フォルクローロいわて東和	土沢	35	1998. 3.28
フォルクローロ遠野	遠野	18	1995. 7. 7
フォルクローロ角館	角館	26	1997. 3.22
フォルクローロ大湊	大湊	53	1998. 7.10

●その他

(2014年10月現在)

ホテル名	駅名	客室数(室)	開業日	特徴
ホテル ニューグランド®	元町・中華街(みなとみらい線)	249	1927.12. 1	山下公園と海を臨む横浜を代表するクラシックホテル。
シーサイド ホテル芝弥生	浜松町	155	1982. 3. 1	都会のオアシス浜離宮の緑に囲まれ、東京湾を臨むロケーションに優れたホテル。
ホテル ドリームゲート舞浜	舞浜	80	2004. 2.29	JR京葉線舞浜駅に隣接。東京ディズニーリゾート®の玄関口に立つファミリー・小グループ向けのホテル。

※ホテルニューグランドはアソシエイト加盟

●東京ステーションホテル

国の重要文化財である駅舎の格調と重厚感、現代の機能性を備えた唯一無二のホテルです。

ホテル名	駅名	客室数(室)	開業日
東京ステーションホテル	東京	150	2012.10. 3

●ホテルメッツ

駅に近く、ビジネスや観光の拠点に適した宿泊が主体のホテルです。リーズナブルな料金でシティホテルなみのサービス、居住性の客室が魅力のホテルです。

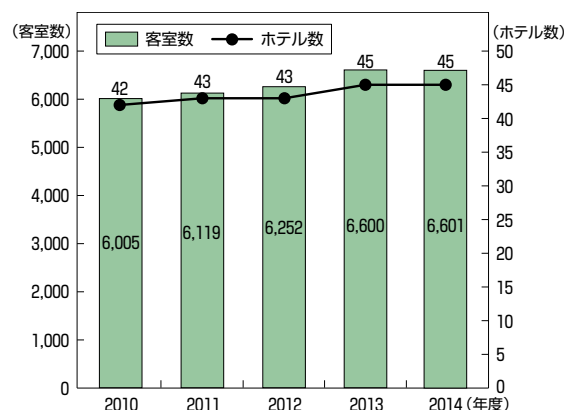
○ホテルメッツ一覧

(2014年10月現在)

ホテル名	駅名	客室数(室)	開業日
ホテルメッツ渋谷	渋谷	194	2001.11.28
ホテルメッツ目白	目白	95	2003.10. 1
ホテルメッツ駒込	駒込	152	2009. 9.28
ホテルメッツ田端	田端	98	1998. 2. 1
ホテルメッツ高円寺	高円寺	110	2007. 3. 6
ホテルメッツ武蔵境	武蔵境	92	1994. 7.11
ホテルメッツ国分寺	国分寺	75	1996. 5.24
ホテルメッツ久米川	久米川(西武新宿線)	47	1994. 5.24
ホテルメッツ立川	立川	129	2008.10. 7
ホテルメッツ赤羽	赤羽	120	2005. 5. 9
ホテルメッツ浦和	浦和	62	1996.11.21
ホテルメッツ川崎	川崎	153	1997. 4.21
ホテルメッツ溝ノ口	武蔵溝ノ口	100	2000. 4.25
ホテルメッツかまくら大船	大船	153	2002. 4.27
ホテルメッツ津田沼	津田沼	81	1998.11.28
ホテルメッツ水戸	水戸	102	1997. 3.14
ホテルメッツ長岡	長岡	122	1999. 7.21
ホテルメッツ新潟	新潟	197	2013. 4. 8
ホテルメッツ福島	福島	129	2006. 2.20
ホテルメッツ北上	北上	121	1999. 7.20
ホテルメッツ八戸	八戸	82	2002.11.21
ホテルメッツ横浜鶴見	鶴見	111	2010.10.22
ホテル アール・メッツ宇都宮	宇都宮	158	2012. 3.27

●JR東日本ホテルズのホテル数、客室数の推移

(2014年10月現在)



■ 広告業

広告業は、多くのお客さまに利用されている駅構内や列車を広告スペースとして活用することで、JR東日本単体の生活サービス事業における全収入の約2割の収入を得ています。既存の広告媒体の販売促進だけでなく、トレインチャンネル、

J・ADビジョンといったデジタルサイネージの積極的な導入など新しい広告商品の開発にも取り組んでいきます。

また今後は、エキナカ開発の計画段階からランドデザインに組み込むなど、広告媒体価値の最大化に取り組めます。

● 大手9社媒体別売上高（2013年1月～12月）

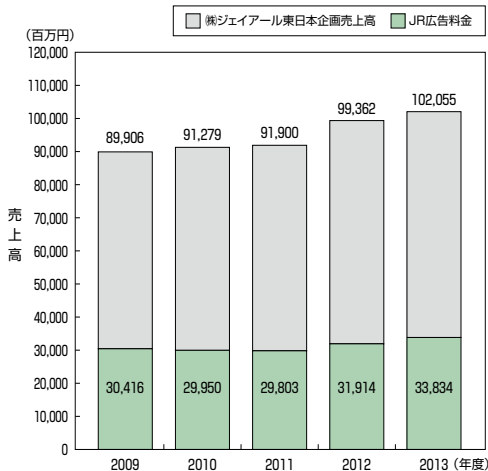
(株)ジェイアール東日本企画は、JR東日本の広範な鉄道網を中心とした交通広告に強みを持ち、広告業界で第5位の売上高をあげています。

(単位：百万円)

	総売上		新聞		雑誌		ラジオ		テレビ		その他	
	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比
電通	1,482,122	104.8	113,756	102.2	34,160	92.5	15,234	93.3	689,366	103.7	629,603	107.7
博報堂	617,290	100.4	39,367	89.6	16,599	103.2	7,722	87.5	293,982	99.1	259,620	104.2
ADK	296,065	97.6	20,536	97.8	14,167	101.3	3,066	99.7	136,207	95.9	122,085	99.0
大広	117,514	95.3	13,069	95.3	2,277	97.7	2,855	96.3	54,922	93.7	44,390	97.0
JR東日本企画	100,094	101.6	2,684	104.1	1,463	102.2	418	86.9	7,478	101.4	88,051	101.6
東急エージェンシー	96,205	98.2	4,259	85.8	1,847	87.0	1,204	94.0	27,804	94.1	61,091	101.6
読売広告社	76,835	100.2	6,821	84.6	1,617	113.6	1,276	100.9	26,036	95.6	41,077	106.1
デルフィス	44,638	97.9	2,325	110.7	1,689	281.5	556	98.2	11,652	82.1	28,416	100.9
朝日広告社	38,730	92.1	15,044	91.0	1,904	81.3	598	115.9	8,110	98.0	13,074	90.9
9社計	2,869,493	101.9	217,861	97.2	75,723	98.0	32,929	93.3	1,255,557	100.5	1,287,407	104.6
9社計2012年	2,816,605	104.4	224,251	102.2	77,230	98.7	35,294	95.5	1,249,005	104.1	1,230,810	105.8

※出典：「広告と経済」No.1476(2014年2月21日発行)

● (株)ジェイアール東日本企画 売上高と JR広告料金の推移



● 新規広告媒体の開発

○ トレインチャンネル

7線区 約22,000面	
2002年 4月	山手線に新型車両(E231系)登場、放映開始
2006年12月	中央線快速に新型車両(E233系)登場、放映開始
2007年12月	京浜東北線・根岸線に新型車両(E233系)登場、放映開始
2009年10月	成田エクスプレスに新型車両(E259系)登場、放映開始
2010年 7月	京葉線に新型車両(E233系)登場、放映開始
2013年 6月	埼京線・川越線に新型車両(E233系)登場、放映開始
2014年 2月	横浜線に新型車両(E233系)登場、放映開始

これまでの導入実績

線区等	車両	導入時期
山手線	E231系	2002年 4月
中央線	E233系	2006年12月
京浜東北線・根岸線	E233系	2007年12月
成田エクスプレス	E259系	2009年10月
京葉線	E233系	2010年 7月
埼京線	E233系	2013年 6月
横浜線	E233系	2014年 2月



トレインチャンネル
(京浜東北線)

○ J・ADビジョン (2014年4月現在)

45駅 381面
(内 首都圏 20駅 324面)



J・ADビジョン(品川駅)

■ 住宅分譲事業

● 主な宅地・戸建住宅分譲

(2014年8月現在)

名称	所在地	最寄駅	開発面積	事業規模	販売時期
バストラルびゅう桂台	山梨県大月市	中央本線 猿橋	約 73ha	994区画	1997.10～
びゅうフォレスト喜連川	栃木県さくら市	宇都宮線 氏家	約 39ha	532区画	1999.10～
びゅうヴェルジェ安中榛名	群馬県安中市	長野新幹線 安中榛名	約 49ha	601区画	2003.10～

■ スポーツ・レジャー事業

● スポーツ・健康事業

健康な都市生活の応援のために、「JEXER」(ジェクサー)を統一ブランドとするスポーツクラブ事業、「Relaxe」(リラクゼ)ブランドのリラクゼーションサービス事業(リフレクソロジー等)などを展開しています。

Jexer

ジェクサー・フィットネスクラブ

四谷、戸田公園、大井町、大宮、赤羽、上野、池袋、東神奈川、亀戸、新宿、大塚

Fitness Lounge

THE JEXER TOKYO

ジェクサー・リフレッシュスタジオ/フィットネスガーデンsopra

蒲田、武蔵小金井、西川口、秋葉原、川口

ジェクサー・ライトジム

保土ヶ谷

ジェクサー・ストレッチメイト

大宮、上野

ジェクサー・フットサルクラブ

大井町、立川、大宮、相模原、蒲田、八王子

ジェクサー・テニススクール

戸田公園、大宮、大井町

ジェクサー・加圧ステーション

八王子

ジェクサー・ゴルフカレッジ

秋葉原、亀戸、錦糸町、上野、赤羽、大塚

ジェクサー・プラチナジム

南浦和、武蔵境

RelaXE

リラクゼーションスポット・リラクゼ

錦糸町、東京、西船橋、北千住、稲毛、三鷹、大宮、国分寺、川崎、津田沼、駒込、大船、秋葉原、上野、御徒町、大井町、西国分寺、目白鶴見、大塚、東小金井

● ジェクサー・フィットネスクラブ主要施設概要

(2014年3月現在)

クラブ名	最寄駅	施設面積	開業日	トレーニングジム	スタジオ	プール	スパ	ゴルフレンジ	その他
ジェクサー・フィットネスクラブ四谷	四ツ谷駅	1,293.85m ²	1979年 7月 9日	○	1面	25m×6コース、ジャグジー、サウナ	ドライサウナ	×	
ジェクサー・フィットネスクラブ戸田公園	戸田公園駅	3,486m ²	1990年12月 5日	○	3面	25m×4コース、15m×4コース、ジャグジー	サウナ等温浴施設	×	テニスコート2面
ジェクサー・フィットネスクラブ大井町	大井町駅	3,492.19m ²	1993年 3月11日	○	2面	25m×5コース、ダイビングスクール、ジャグジー、スチームサウナ	サウナ等温浴施設	×	
ジェクサー・フィットネスクラブ大宮	大宮駅	4,737.63m ²	2003年 3月10日	○	3面	25m×6コース、20m×4コース、マッサージプール、屋外ジャグジー	サウナ等温浴施設	2打席	アリーナ、エステ
ジェクサー・フィットネスクラブ赤羽	赤羽駅	4,723.3m ²	2005年 7月11日	○	3面	25m×6コース、20m×4コース、マッサージプール、屋外ジャグジー	サウナ等温浴施設	4打席	スカッシュコート2面
ジェクサー・フィットネス&スパ上野	上野駅	5,564m ²	2006年 7月19日	○	3面	25m×5コース、ウォーキング&マッサージプール、ジャグジー	サウナ等温浴施設	4打席	
ジェクサー・フィットネスクラブメトロポリタン池袋	池袋駅	1,178.9m ²	2008年 4月 1日	○	1面	18m×2コース、ジャグジー	スチームサウナ	×	
ジェクサー・リフレッシュスタジオsopraグランデュオ蒲田	蒲田駅	285.63m ²	2008年 4月16日	×	1面	×	×	×	
ジェクサー・フィットネスガーデンsopraリア川口	川口駅	762m ²	2008年12月 1日	○	1面	×	サウナ	×	
ジェクサー・リフレッシュスタジオsopraセレオ武蔵小金井	武蔵小金井駅	349.33m ²	2009年 9月17日	×	1面	×	×	×	
ジェクサー・フィットネスクラブ東神奈川	東神奈川駅	3,102.66m ²	2009年10月20日	○	2面	25m×7コース、ジャグジー	サウナ等温浴施設	×	
ジェクサー・リフレッシュスタジオsopraビーンズ西川口	西川口駅	343.47m ²	2010年 4月16日	×	1面	×	×	×	
ジェクサー・リフレッシュスタジオsopraアトレ秋葉原1	秋葉原駅	606.79m ²	2010年11月19日	×	1面	×	×	6打席	リラクゼーション施設併設
ジェクサー・フィットネス&スパ亀戸	亀戸駅	2,488.55m ²	2011年11月16日	○	2面	25m×4コース、マッサージプール	サウナ等温浴施設	7打席	
ジェクサー・フィットネス&スパ新宿	新宿駅	4,472.26m ²	2012年 7月13日	○	4面	25m×5コース、マッサージプール	サウナ等温浴施設	×	
Fitness Lounge THE JEXER TOKYO	東京駅	542.17m ²	2012年10月 3日	○	×	×	サウナ等温浴施設	×	エステ施設併設
ジェクサー・フィットネス&スパ大塚	大塚駅	2,652.92m ²	2013年 9月12日	○	2面	×	サウナ等温浴施設	6打席	エステ

● リラクゼ主要施設概要

(2014年3月現在)

	リラクゼ錦糸町	リラクゼ東京	リラクゼ西船橋	リラクゼ北千住	リラクゼ稲毛	リラクゼ三鷹	リラクゼ大宮
場 所	テルミナ 4階	PCP丸の内ビル グランアージュ 地下1階	ディラ西船橋 3階	ルミネ北千住 7階	ペリエ稲毛 1階	ディラ三鷹 4階	ルミネ大宮1 3階
床面積	99.66㎡	98.0㎡	99.86㎡	64.63㎡	69.3㎡	78.8㎡	87.0㎡
開業日	2002年4月4日開業	2003年10月14日開業	2005年1月15日開業	2006年4月27日開業	2007年4月3日開業	2007年12月16日開業	2008年9月12日開業

	リラクゼ国分寺	リラクゼ川崎	リラクゼ津田沼	リラクゼ駒込	リラクゼ大船	リラクゼ秋葉原	リラクゼ上野 (リフレッシュアトリエ)
場 所	セレオ国分寺 4階	アトレ川崎 2階	ホテルメッツ津田沼 3階	ホテルメッツ駒込 1階	ルミネ大船 4階	アトレ秋葉原1 5階	エキキュート上野
床面積	90.4㎡	85.1㎡	94.2㎡	80.94㎡	86.15㎡	147.9㎡	105.53㎡
開業日	2008年9月25日開業	2008年11月14日開業	2008年12月10日開業	2009年9月11日開業	2010年3月5日開業	2010年11月19日開業	2011年3月31日開業

	リラクゼ御徒町	リラクゼ大井町	リラクゼメイト 西国分寺	リラクゼ目白	リラクゼ鶴見	リラクゼ大塚	リラクゼ東小金井
場 所	JR御徒町駅構内	アトレ大井町 6階	nonowa西国分寺	J R目白駅構内	シアル鶴見 4階	アトレヴィ大塚 4階	nonowa東小金井
床面積	74㎡	85.48㎡	19.93㎡	171.2㎡	93.79㎡	84.3㎡	46.35㎡
開業日	2011年4月11日開業	2011年7月1日開業	2011年10月11日開業	2011年12月26日開業	2012年11月1日開業	2013年9月12日開業	2014年1月27日開業

● GALA湯沢スキー場

リゾート事業の第1号として、1990年12月に「GALA湯沢スキー場」と、これに直結する「ガーラ湯沢駅」(東京駅から約80分)が開業。上越新幹線を降りてすぐゲレンデに直行できる便利さと、都会的センスがスキーヤーの間に定着し、毎年、

春先まで多くのお客さまでにぎわっています。スノーボードパークも充実し、併設のスパ施設「SPAガーラの湯」とともに、多くのお客さまにご利用いただいています。

○ GALA 湯沢スキー場施設概要

(2014年3月現在)

- ・面 積：292ヘクタール
- ・コ ー ス 数：16コース (下山コース含む)
- ・リ フ ト 数：11基
- ・総滑走距離：13,500m
- ・最長滑走距離：2,500m
- ・施 設 等：スキーセンター1棟、レストハウス2棟、温浴施設、駐車場(約800台収容)

○ GALA 湯沢スキー場主要経緯

1988年	上信越高原リゾート開発株式会社設立
1990年	GALA湯沢スキー場営業開始
1999年	株式会社ガーラ湯沢設立 上信越高原リゾート開発株式会社解散
2010年	下山コース「ファルコン」新設
2011年	人工スノーマットによるサマーゲレンデの営業開始

■ グループSCMの構築

駅構内の店舗や自動販売機をご利用いただいているお客さまの視点から、グループSCM(サプライチェーン・マネジメント：供給連鎖を最適化する継続的取組み)体制の構築をめざしています。

● これまでの取組み

2002年 10月	市川商品センターに最新式デジタルピッキングシステムを導入
2002年 12月	レッツKIOSKとNEW DAYS店舗の物流配送体制を市川商品センターに集約
2003年 3月	グループSCMの推進母体として㈱ジェイアール東日本ロジスティクスプラットフォーム(以下、JRELP)を設立。物流実績データの集約、分析による改善提案・指導を行う
2004年 4月	グループの飲料物流を西日暮里飲料センターに集約稼働。従来の飲料物流の拠点倉庫13カ所を1カ所へ集約
2007年 2月	KIOSKの駅構内配送を担っていた東日本駅配送サービスを㈱ジェイアール東日本物流(以下、JRE物流)に統合
2007年 4月	JRELPをJRE物流に合併しJRELPの機能をJRE物流に統合
2008年 10月	関東地区における飲料と酒類の混載配送拡大(代納商社の整理、オンライン環境の整備)仙台地区における物流体制の見直しを開始(代納商社の整理、オンライン環境の整備)
2009年 4月	東北地区における物流体制の見直しを開始(代納商社の整理、オンライン環境の整備)
2009年 10月	東北キヨスクサービス㈱の駅構内配送等の物流機能を東北鉄道運輸㈱に統合(仙台、盛岡駅など)
2010年 10月	市川商品センター、西日暮里飲料センターなどの機能を「京葉流通センター」(JRE物流運営)へ順次統合
2010年 12月	東京、品川、上野駅での大規模店舗開発にあわせ、「指定納品代行制度」を軸とする物流効率化を開始
2012年 10月	長野エリアにおける物流体制の見直しを開始(代納商社の整理、オンライン環境の整備)
2013年 12月	新潟エリアにおける物流体制の見直しを開始(代納商社の整理、オンライン環境の整備)

⇒JR東日本の指針に基づき、JRE物流がグループ内物流共有システムを活用した物流に関する分析を行い、取引先や構内営業者、物流者と協働し、①在庫削減 ②作業生産性改善 ③納品頻度や配送ルート等配送条件の見直しなどに取組み、物流コスト全般の削減をめざしています。

■ 物流インフラおよび後方施設の整備

● 物流インフラの整備について

駅構内物流専用の駐車場や荷捌場、通路、エレベーターおよび倉庫などを総称して物流インフラといいますが、それらの整備に関しては、駅をご利用になるお客さまや配送に従事する作業員の安全確保はもとより、配送業務の効率化や配送コスト削減、コンプライアンス(特に、改正道路交通法)などの観点から、当社にとって重要な課題と認識しています。新規、既存の開発案件を問わず、機会をとらえ、着実に整備を行っています。

物流インフラ整備例



物流用駐車場

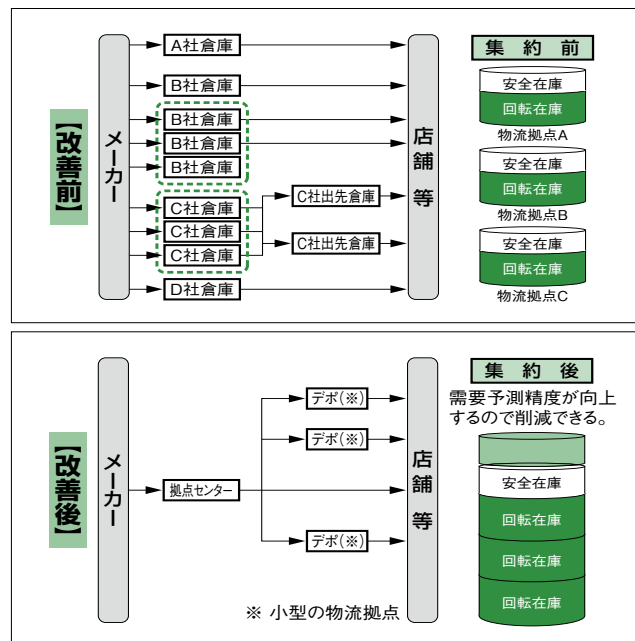


物流用エレベーター

具体的には、これまでグループ内外の関係各社と協業し取り組んできた物流拠点の見直し、在庫圧縮、作業手順や配送頻度等の諸条件の見直しを徹底し、物流コストのさらなる低減をめざします。

● グループSCMのイメージ図

関東エリアに散在している飲料物流拠点(13カ所)の統合(在庫拠点1カ所、配送拠点3カ所程度)や、1台のトラックに飲料と酒類の混載を進めていくことによって、グループ全体の在庫量圧縮や配送コストの削減を実現していきます。



● グループ会社後方施設の整備について

近年、サービス産業全体がホスピタリティ産業に向かっていく中、そこで働く従業員一人ひとりの満足(従業員満足=ES=Employee Satisfaction)の度合いを向上させることが真の顧客満足(CS=Customer Satisfaction)につながる、との考えに基づき、ES視点の環境づくりに力を入れています。具体的には、休憩室や更衣室などのスペース確保や共用化の推進、後方施設周辺(通行部分など)の“危険”、“汚い”などの環境改善を行っています。物流インフラと同様、新規、既存の開発案件を問わず、機会をとらえ、着実に整備を行っています。

グループ会社後方施設の整備例



従業員休憩室



従業員更衣室



従業員寝室

子育て支援事業

地域社会と連携した街づくりの一環として、駅から概ね5分のアクセスの良い立地を中心に「駅型保育園」などの子育て支援施設の開設を進め、「仕事」と「子育て」の両立を応援しています。1996年から開設した子育て支援施設は累計で79カ所（2014年4月現在）に達しており、今後もさらなる拡大をめざしています。「駅型保育園」では通勤途中に送迎ができるメリットに加え、父親と登園する子どもも多く見られ、当

社の取組みは男性の育児参加の支援にも繋がっています。

今後も子育てにまつわるさまざまなニーズに対応し、保育園に限らず、駅立地を活かした「送迎保育ステーション」や「駅型学童」、さらに、就労の有無に関係なくすべての子育てしている方を対象とした「親子コミュニティカフェ」などの保育サービスにも取組みの枠を広げて、地域社会への貢献、沿線価値の向上に積極的に取り組んでいきます。

○施設一覧

(2014年4月現在)

	施設名	最寄駅	保育事業者	開園日	園の形態	定員
1	国分寺Jキッズステーション	国分寺	社会福祉法人桑の実会	1996. 5. 1	認可保育園	70名
2	Jキッズプラネット鶴見保育園	鶴見	社会福祉法人桑の実会	2000. 4. 1	認可保育園	70名
3	ポピンズナーサリースクール小机	小机	株式会社ポピンズ	2000. 4. 1	認可保育園	45名
4	Jキッズルミネ北千住保育園	北千住	社会福祉法人桑の実会	2001. 8. 1	東京都認証保育所	40名
5	ピノキオ幼児舎西八王子園	西八王子	株式会社ピノコーポレーション	2001.12. 1	東京都認証保育所	40名
6	大森駅前保育園	大森	社会福祉法人島田福祉会	2002. 4. 1	認可保育園	46名
7	マザーズ・エスパル保育園	仙台	株式会社マザーズえりあサービス	2002.10. 1	せんだい保育室	52名
8	明德本八幡駅前保育園	本八幡	学校法人千葉明德学園	2003.10. 1	認可保育園	45名
9	コンビプラザ品川保育園	品川	コンビウィズ株式会社	2004. 3. 1	東京都認証保育所	35名
10	武蔵浦和Jキッズステーション	武蔵浦和	社会福祉法人桑の実会	2004. 4. 1	認可保育園	60名
11	戸田公園駅前さくら草保育園	戸田公園	社会福祉法人さきたま会	2004. 4. 1	認可保育園	90名
12	戸田駅前保育所おひさま保育園	戸田	財団法人鉄道弘済会	2004. 4. 1	認可保育園	60名
13	ちゃいれっく福生駅前保育園	福生	株式会社プロケア	2005. 2. 1	東京都認証保育所	20名
14	与野本町駅前保育所おひさま保育園	与野本町	財団法人鉄道弘済会	2005. 4. 1	認可保育園	72名
15	にじいろ保育園	ニューシャトル加茂宮	社会福祉法人三樹会	2005. 4. 1	認可保育園	90名
16	今羽保育園	ニューシャトル今羽	社会福祉法人あゆみ会	2005. 4. 1	認可保育園	60名
17	武蔵浦和桑の実保育園	武蔵浦和	社会福祉法人桑の実会	2006. 4. 1	認可保育園	45名
18	菁莪（せいが）保育園	中浦和	社会福祉法人ひなどり保育園	2006. 4. 1	認可保育園	60名
19	ポピンズナーサリースクール立川	立川	株式会社ポピンズ	2007.11. 1	東京都認証保育所	40名
20	北戸田Jキッズステーション	北戸田	社会福祉法人桑の実会	2008. 4. 1	認可保育園	90名
21	茶々すずや保育園	南与野	社会福祉法人あすみ福祉会	2008. 4. 1	認可保育園	90名
22	東鷲宮保育ステーションファミリア	東鷲宮	社会福祉法人さきたま会	2005. 6. 1 ※ 2009. 3. 31 繰入	送迎保育ステーション	—
23	茶々いまい保育園	武蔵小杉	社会福祉法人あすみ福祉会	2009. 4. 1	認可保育園	120名
24	ひびき保育園	大口	社会福祉法人そだちの杜	2009. 4. 1	認可保育園	60名
25	みんなのとつぽ保育園	橋本	社会福祉法人菊清会	2009. 4. 1 ※ 2013. 4 本園化	認可保育園	80名
26	戸田駅前さくら草保育園	戸田	社会福祉法人さきたま会	2009. 4. 1	認可保育園	120名
27	本八幡ほっとステーション親子	本八幡	学校法人千葉明德学園	2009. 6. 1	地域子育て支援センター・ひろば	—
28	ぼっぼランドしいの木	新宿	ビジョンハーツ株式会社に委託	2010. 2. 1	事業所内保育所	12名
29	にじいろ保育園武蔵小金井	武蔵小金井	株式会社サクセスアカデミー	2010. 4. 1	東京都認証保育所	24名
30	サン・キッズ平塚ステーション	平塚	社会福祉法人恵伸会	2010. 4. 1	認可保育園	90名
31	スターチャイルド（みなみ保育園）	武蔵浦和	株式会社みつば	2010. 4. 1	認可保育園	90名
32	明德浜野駅前保育園	浜野	学校法人千葉明德学園	2010. 4. 1	認可保育園	36名
33	市川大野ナーサリースクール	市川大野	社会福祉法人高砂福祉会	2010. 4. 1	認可保育園	90名
34	にじいろ保育園登戸	登戸	株式会社サクセスアカデミー	2010. 7. 1	認可保育園	60名
35	ぼっぼランドせんだい	仙台	ビジョンハーツ株式会社に委託	2010.10. 1	事業所内保育所	30名
36	小岩駅前桜華保育園	小岩	株式会社みつばちカンパニー	2010.12. 1	東京都認証保育所	34名
37	小岩駅前みつばち保育園	小岩	株式会社みつばちカンパニー	2004.12. 1 ※ 2010.12. 1 繰入	東京都認証保育所	40名
38	ココファン・ナーサリー八王子	八王子	株式会社学研ココファン・ナーサリー	2010.12. 1	東京都認証保育所	40名
39	学研キャンパス	八王子	株式会社学研エデュケーション	2010.12. 1	民間学童保育施設	15名
40	おやこの駅ひろば	大船	横浜市（運営：社会福祉法人地域サポート虹）	2011. 1. 31	地域子育て支援センター・ひろば	—
41	キズナ 937	籠原	—	2011. 3. 20	親子コミュニティカフェ	—
42	小学館アカデミーアトレ大井町保育園	大井町	株式会社小学館集英社プロダクション	2011. 4. 1	東京都認証保育所	40名
43	南千住駅前保育所おひさま保育園	南千住	財団法人鉄道弘済会	2011. 4. 1	認可保育園	48名
44	キッズタウン東十条保育園	東十条	社会福祉法人こうほうえん	2011. 4. 1	認可保育園	90名

	施設名	最寄駅	保育事業者	開園日	園の形態	定員
45	おおたみん家の家	西大井(馬込)	社会福祉法人つばさ福祉会	2011. 4. 1	認可保育園	75名
46	そらいろ保育園	北与野	社会福祉法人三樹会	2011. 4. 1	認可保育園	45名
47	桑の実戸田公園保育園	戸田公園	社会福祉法人桑の実会	2011. 4. 1	認可保育園	90名
48	ことぶきイーサイト保育園	籠原	社会福祉法人育慈会	2011. 4. 1	認可保育園	60名
49	新田東すいせん保育所	小鶴新田	社会福祉法人幸生会	2011. 4. 1	認可保育園	60名
50	河原町すいせん保育所	長町(河原町)	社会福祉法人幸生会	2011. 4. 1	認可保育園	90名
51	新潟えきなか保育園	新潟	学校法人新潟高度情報学園	2011. 4. 1	認可保育園	90名
52	ぼっぼランドたばた	田端	ビジョンハーツ株式会社委託	2011. 4. 1	事業所内保育所	10名
53	みなみ野学童保育所第二クラブ	八王子みなみ野	八王子市(運営:テンプスタッフ・ウィッシュ株)	2011. 4. 1	公設学童保育施設	50名
54	とだ虹保育園	戸田公園	社会福祉法人日の出福祉会	2011. 9. 1	認可保育園	100名
55	ゆめの樹保育園	中浦和	社会福祉法人三樹会	2012. 4. 1	認可保育園	90名
56	茶々なかまち保育園	武蔵小杉	社会福祉法人あすみ福祉会	2012. 4. 1	認可保育園	70名
57	みなと公園のぞみ保育園	千葉みなと	テンプスタッフ・ウィッシュ株式会社	2012. 4. 1	認可保育園	90名
58	たかし保育園新浦安	新浦安	社会福祉法人茂原高師保育園	2012. 4. 1	認可保育園	60名
59	Eデュケアセンター・ひがしなかの	東中野	株式会社パンナフォスター	2012.10. 1	東京都認証保育所	40名
60	「キドキド×ゆめきっず」	八王子	株式会社ボーネルンド(一部八王子市より受託)	2012.10.25	親子の遊び場	—
61	グローバルキッズ コトニア吉祥寺園	西荻窪	株式会社グローバルキッズ	2013. 3. 1	東京都認証保育所	39名
62	ココファン・ナーサリー神田万世橋	秋葉原	株式会社学研ココファン・ナーサリー	2013. 4. 1	東京都認証保育所	30名
63	メリーポピンズアトレ大森ルーム	大森	社会福祉法人どろんご会	2013. 4. 1	認可保育園	75名
64	ココファン・ナーサリー八王子北館	八王子	株式会社学研ココファン・ナーサリー	2013. 4. 1	認定こども園	60名
65	P'sスマイル保育園	鶴見	社会福祉法人どろんご会	2013. 4. 1	認可保育園	54名
66	キディ石川町・横浜	石川町	社会福祉法人伸こう福祉会	2013. 4. 1	認可保育園	60名
67	ベネッセチャイルドケアセンター本郷台	本郷台	株式会社ベネッセスタイルケア	2013. 4. 1	認可保育園	60名
68	南よの虹保育園	南与野	社会福祉法人日の出福祉会	2013. 4. 1	認可保育園	120名
69	第2幕張海浜保育園	海浜幕張	社会福祉法人愛の園福祉会	2013. 4. 1	認可保育園	30名
70	ニチキッズ仙北町駅保育園	仙北町	株式会社ニチイ学館	2013. 4. 1	認可保育園	60名
71	キッズハーモニー・新宿	新宿	株式会社パンナフォスター	2013. 4. 1	事業所内保育所	30名
72	大塚りとるばんぶきんず	大塚	社会福祉法人清香会	2013. 9. 1	認可保育園	60名
73	北小金グレース保育園	北小金	社会福祉法人にじの会	2014. 4. 1	認可保育園	90名
74	にじいろ保育園武蔵新城	武蔵新城	株式会社サクセスアカデミー	2014. 4. 1	認可保育園	70名
75	にじの星保育園	宮原	社会福祉法人三樹会	2014. 4. 1	認可保育園	60名
76	グローバルキッズ武蔵境園	武蔵境	株式会社グローバルキッズ	2014. 4. 1	東京都認証保育所	40名
77	ココファン・ナーサリー東小金井	東小金井	株式会社学研ココファン・ナーサリー	2014. 4. 1	東京都認証保育所	60名
78	市川どろんご保育園	本八幡	社会福祉法人どろんご会	2014. 4. 1	認可保育園	120名
79	太子堂すいせん保育所	太子堂	社会福祉法人幸生会	2014. 4. 1	認可保育園	130名

■介護事業

急速に進む高齢社会に対応した施設や介護の社会的ニーズが高まるなか、JR東日本グループも介護サービス事業に取り組んでいます。

2000年4月より東北総合サービス(株)が、きめ細やかなケアプラン作成と訪問介護サービス・福祉用具貸与サービスを提供する「JR東日本東北介護サービス」および介護ショップ「JRハートステーション仙台」を運営しています。2004年4月より

(株)エヌアールイーサービスが『住み替えた自宅』を理念とし、温かい家庭的な雰囲気を大切に介護付有料老人ホーム「NRE大森弥生ハイツ」を運営しています。

また、2013年10月より(株)ジェイアール東日本スポーツがリハビリを中心とした通所介護施設「ジェクサー・プラチナジム南浦和」を運営しており、2014年7月に武蔵境店を開所いたしました。



NRE大森弥生ハイツ

■ えきねっとショッピング

● 概要

「えきねっとショッピング」は、鉄道や旅に関するJR東日本グループならではの特長ある商品を取り扱っています。「Train Shop」など、グループ各社の通販事業との連携を深

め、より魅力あるショッピングサイトを展開しています。
<http://www.eki-net.biz>

商品ジャンル	主な商品
鉄道関連商品	鉄道グッズ、DVD、模型等
地方特産品・お土産	東京土産等、各地の銘菓・名産品
その他	Suica ペンギングッズ

■ ロケーションサービス

2005年より、従来からの映像制作ニーズにお応えするために、映画やTVドラマ、CM等の撮影のロケ地として、駅や鉄道等の施設を提供するロケーションサービスを開始しました。(株)ジェイアール東日本企画が運営会社となり、企画内容や撮影の方法などについて検討したうえでロケ地の提供を行

い、その対価を得ています。メディア等を通じて、当社の施設がより多面的・魅力的に紹介されることにより、営業エリア内のイメージアップがはかられ、地域の活性化や旅客増が期待できると考えています。

○ロケーションサービス 2013年度の代表的な作品

企画件名	撮影場所	主な出演者（敬称略）	撮影日
東宝系劇場公開映画 「カノジョは嘘を愛しすぎている」	渋谷駅 1 番線ホーム	佐藤健・大原櫻子	2013年4月14日
映画「百瀬、こっちを向いて」	フレッシュひたち13号車内 (上野駅～勝田駅)	向井理	2013年5月28日
フジテレビ「おじゃマップ」	東京駅丸の内駅舎前	香取慎吾・山崎弘也	2013年5月14日
日本テレビ「Woman」	大月駅・新宿駅・豊田車両センター	満島ひかり・小栗旬	2013年6月17日・ 18日・30日・7月 31日
DVD「すごいぞ！はやいぞ！ぼくらの新幹線」	秋田車両センター・盛岡駅		2013年6月5日・ 6日
アサヒ飲料 WONDA モーニング ショット TV-CM撮影	新橋駅烏森口・池袋駅北改札 東京駅丸の内地下中央口横	AKB48	2013年8月26日・ 27日・28日
テレビ東京 年末特番 「人気列車で日本列島縦断！ローカル 線で巡る名湯・秘湯めぐせ 30 湯!!」	甲府駅・中央線車内（甲府駅～八王子駅）・八王子駅 八高線車内（八王子駅～東飯能駅）・東飯能駅ホーム	ガッツ石松・西村和彦・ 奥山佳恵	2013年12月6日・ 7日
スカイパーフェクTV・フジテレビ ONE「新・みんなの鉄道／上 野発奥羽本線經由青森行き唯一の ブルートレイン寝台特急あけぼの」	尾久車両センター・上野駅13番線ホーム・田端運転所 あけぼの 運転台（田端運転所～尾久駅～上野駅（回 送）・上野駅～青森駅） あけぼの A 寝台DXシングル客室・B 寝台個室ソロ 客室内（上野駅～青森駅） 青森車両センター		2014年2月3日・ 19日・27日
テレビ朝日 土曜ワイド劇場 「鉄道捜査官⑭」	熱海駅1番線ホーム・連絡通路・改札付近 新宿駅5番線ホーム 3.4号車前	沢口靖子・金子昇	2014年3月19日・ 26日

■ プロパティライセンス事業

当社の車両や建造物などをモチーフに制作された模型や玩具、運転台から撮影した展望映像などを第三者が商品化する際に、第三者との間で商品化許諾基本契約を締結し、ロイヤリティ（使用許諾料）を収受するという事業（「プロパティライセンス事業」）を、(株)ジェイアール東日本企画と共同で展開し

ています。

また、ロイヤリティ収入のみならず、これらの商品を通じてお子さまや鉄道ファンなど幅広い層に鉄道の魅力をアピールすることで、鉄道利用促進や当社のブランド価値向上に寄与しています。



商品化許諾している商品一例

■ その他の事業

● (株)オレンジページの主な刊行物一覧

(2013年度)

雑誌名	発行頻度	発行部数	雑誌内容
オレンジページ	月2回	34.5万	料理を中心とした生活便利マガジン
オレンジページ Cooking	隔月刊	25万	料理を特集した雑誌
からだの本	季刊	10万	健康情報誌

● 社内ベンチャー制度「J-Tomorrow」事業化案件

(2012年4月現在)

開発件名	開業日	最寄駅	概要
駅の定食屋「ちゃぶせん」	2002. 3. 1	南浦和、亀戸、新潟	「健康」「定食」をテーマとした駅構内の定食屋
STUDIO PLAT'S	2003. 3.12	両国	高架下を有効に活用した音楽スタジオ事業
えきあど	2006.10.16	東京	Suicaシステムを活用した私書箱サービス
缶'S Bar	2012. 1.23	秋葉原	「見て楽しむ、食べて楽しむ」をコンセプトにした缶詰Bar

● 支社別グループ会社の概要

会社名	支社	設立	業務内容
JR東日本東北総合サービス(株)	仙台	1989. 8. 18	駅構内店舗、ショッピングセンター、ホテル、駐車場等の開発及び運営、駅業務受託等
(株)ジャスター	盛岡	1992. 4. 1	
(株)ジェイアールアトリス	秋田	1996. 4. 1	
(株)トッキー	新潟	1989. 3. 2	

○生活サービス事業



小売店舗・飲食店舗

地域の食や特産物等を揃えた店舗で地域の魅力を発見・発信しています。



産直市

首都圏において、地域の旬の商品や強みをアピールすることで、地域の活性化につなげています。

○受託事業



鉄道業務受託

駅業務やお問い合わせセンターなど当社の鉄道業務を受託しています。



ファミリーオ・フォルクローロ

地域活性化の拠点となるファミリーオ・フォルクローロなど当社ホテルの運営を受託しています。

● 損害保険代理業

JR東日本グループでは、個人のお客さま向けに旅行傷害保険(海外旅行保険、国内旅行保険など)を、企業向けに工事保険などを取り扱っています。

また、グループ各社の社員とその家族向けには一般で加入するより割安な保険料で加入できる自動車保険、火災保険、傷害保険などを扱っており、グループ企業向けには各社で

個々に契約していた火災保険、賠償責任保険、個人情報漏えい保険をひとまとめにして加入することで保険事務の効率化と保険料の低廉化をはかっています。

保険代理業を通じて、企業の経営上のリスクや個人の生活設計を考慮した的確な契約のアドバイスをを行うことで、お客さまや社員、家族の「安心」をサポートしています。

■ 東京ステーションシティ

首都東京の「顔」にふさわしい多彩な魅力と先進の機能をもった駅=街として、東京駅周辺地区の都市空間整備を進めています。

○ グラントウキョウノースタワー／サウスタワー、グランルーフ

東京駅八重洲口に、上質で先進的な機能をもつハイグレードな2棟の超高層オフィスビル「グラントウキョウノースタワー(Ⅰ期)／サウスタワー」が2007年10月に完成しました。2012年8月にノースタワー(Ⅱ期)が竣工、2013年9月には2つのビルを結ぶ歩行デッキ・大屋根からなる「グランルーフ」が完成しました。



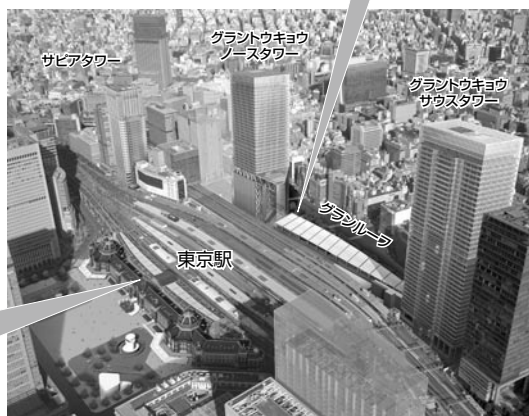
○ 丸の内駅舎保存・復原、

東京ステーションホテル

歴史と風格を感じさせる丸の内地区の中心として、東京駅丸の内駅舎を創建当初の姿に保存・復原し、2012年10月駅、ホテル、ギャラリーなどとして完成しました。



(イメージ)



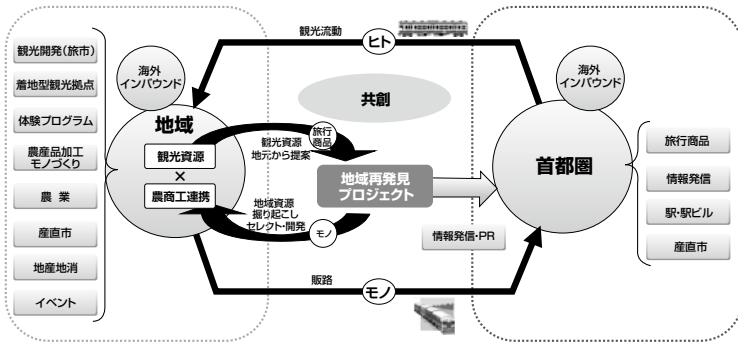
(イメージ)

地域再発見プロジェクト

「地域再発見プロジェクト」とは

人口減少や少子高齢化、都市への一極集中が、地方の経済、文化、伝統、技術の存続を危うくする中において、JR東日本グループのさらなる発展のためには、地域がもつ魅力を高めることで、地域間の流動をつくり出していく必要があります。そのため、鉄道事業と生活サービス事業の横断プロ

ジェクト「地域再発見プロジェクト」を発足し、JR東日本グループと地域が役割を明確にしながるとともに知恵を絞る「共創」戦略のもと、人とモノの交流をはかることで首都圏と地方の間で大きな循環を生み出すことをめざし、さまざまな取組みを行っています。



○主な取組み

2009. 5	「旅市」販売開始
7	越後湯沢駅 「がんぎどおり」開業
9	地域再発見プロジェクト発足
11	フォルクローロいわて東和リニューアル開業
2010. 2	ファミリーオ館山 リニューアル開業
10	地域再発見プロジェクト「秋田」産直市開催（上野駅）
12	あおもりシードル「工房」と「市場」の複合施設「A-FACTORY」開業
12	地域再発見プロジェクトHP開始
2011. 5	応援産直市開催（上野駅・秋葉原駅・大宮駅）
7・11	応援工芸市開催（横浜駅・秋葉原駅）
2012. 1	地産品ショップ「のもの」開業（上野駅）
1	NEWDAYS「のものコーナー」開始（9店舗）
2013. 9	6次産業化に向けた「のもの1-2-3」プロジェクト始動
2014. 3	地産品ショップ「のもの」秋葉原店開業（秋葉原駅）

具体的な取組み

○地産品ショップ『のもの』

フェア実施実績

(2012年1月20日開業)

- ・2011年度 3回
- ・2012年度 12回
- ・2013年度 14回



- ・2014年度 14回
(JR東管内：13回・その他：1回)

青森県	4/16~5/12	長野県	10/29~11/19
新潟県	5/14~6/9	群馬県	11/21~12/15
山形県	6/11~7/7	岩手県	12/17~1/12
宮城県	8/6~8/25	千葉県	1/14~2/9
山梨県	8/27~9/15	茨城県	2/11~3/9
秋田県	9/17~10/6	栃木県	3/11~4/6
福島県	10/8~10/27		

※掲載は東日本管内のみ

○地域再発見プロジェクト 産直市

産直市実施実績

(2010年10月より)

- ・2010年度 5回
- ・2011年度 14回
- ・2012年度 14回
- ・2013年度 14回



- ・2014年度 14回

青森	2014年5月	福島	10月
新潟	5月	長野	11月
山形	6月	群馬	12月
茨城	6月	岩手	12月
宮城	7月	伊豆	2015年1月
山梨	8月	千葉	2月
秋田	9月	栃木	3月

○旅市



◆「旅市」商品コース数

2009年度	36コース
2010年度	144コース
2011年度	159コース
2012年度	174コース
2013年度	177コース

※発売開始：2009年5月～

○A-FACTORY



東北新幹線新青森駅開業にあわせ、青森市のまちづくり構想との連携により開業。日本一の生産量を誇る青森県産りんごを活用した「工房」「市場」の複合施設です。「あおもりシードル」などの製造・販売を行っています。

○がんぎどおり



- ・第1期 (2009.7.17 開業)
「がんぎどおり」開業
地域の名産品や地元の農産物を販売しています。
- ・第2期 (2009.12.19 開業)
「ビジターセンター」を開設。
駅機能整備と商業スペースを拡大しました。
- ・第3期 (2012.7.14 開業)
「CoCoLo 湯沢・がんぎどおり」
グランドオープン

Suica

● ICカードの名称

「スイスイ」行ける「IC」カードの意味。
Super Urban Intelligent CArdの略。

● コンセプト

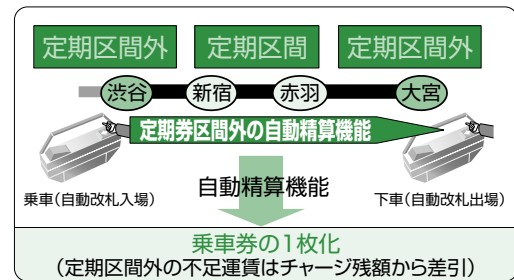
サービスアップ	利便性の向上と新たなサービスの提供
システムチェンジ	駅でのキャッシュレス化、チケットレス化
コストダウン	可動部の減少等によるメンテナンス・イニシャルコストの削減
セキュリティアップ	偽造・変造カードの使用防止
ビジネスチャンス	Suicaの新たな可能性を追求し、新ビジネスを展開

● 特長

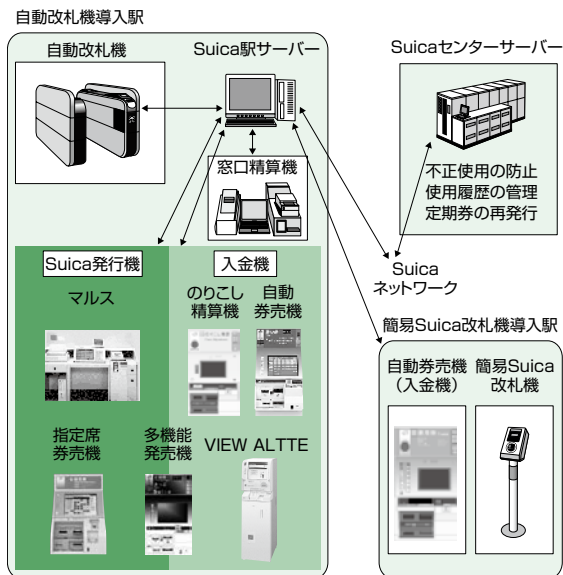
改札時	パスケースに入れたまま、改札機に軽く触れるだけで通過可能です(タッチ&ゴー)
自動精算	定期区間外でも改札機にタッチするだけで自動精算が可能のため、きっぷの購入やのりこし精算が不要になります
繰り返し利用	入金(チャージ)機能と定期券のリライト(券面書替)機能で、1枚のカードを繰り返し利用できます
Suicaネットワーク	ICカードの情報をカードごとに管理することにより、利用履歴の管理・Suica定期券の紛失時の再発行等を行います
電子マネー	入金(チャージ)したお金も、お店でのお買い物にもご利用いただけます

○ 自動精算

Suica 定期券の自動精算イメージ



● Suica出改札システム取扱機器

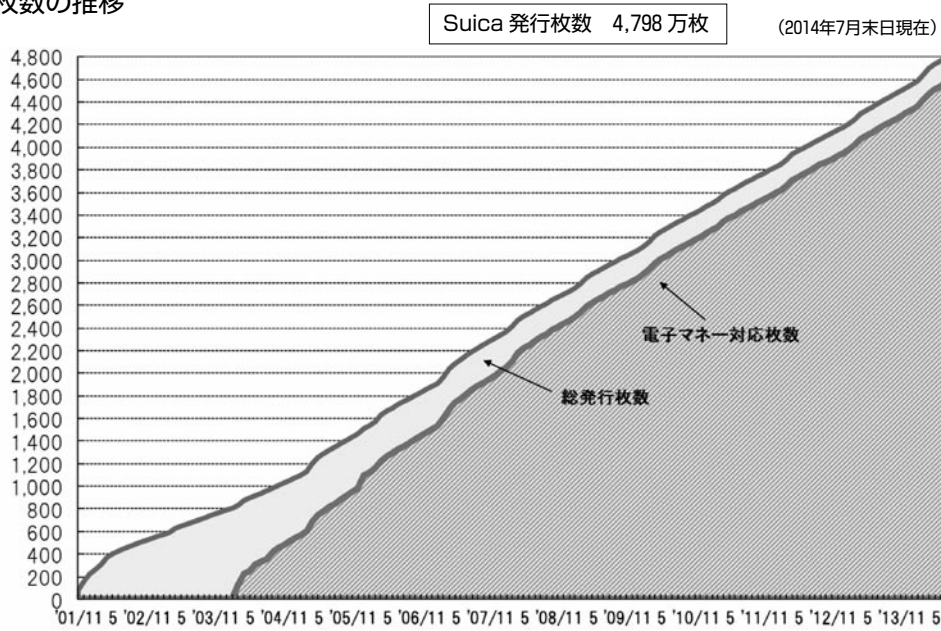


● Suicaのあゆみ

2001. 11. 18	Suicaの本サービス開始(424駅)
2002. 4. 21	東京モノレール(株)との相互利用開始
12. 1	東京臨海高速鉄道(りんかい線)との相互利用開始
2003. 7. 1	「ビュー・スイカ」カードサービス開始
10. 12	Suica定期券による新幹線利用サービス開始
10. 26	仙台エリアでのSuicaサービス開始
2004. 3. 22	Suica電子マネーサービス開始
8. 1	JR西日本「ICOCA」との相互利用開始
10. 16	「グリーン車Suicaシステム」導入
2006. 1. 21	新潟エリアでのSuicaサービス開始
1. 28	モバイルSuicaサービス開始
2007. 3. 18	「PASMO」との相互利用開始
6. 1	「Suicaポイント」サービス開始
2008. 3. 15	「モバイルSuica特急券」サービス開始
	首都圏・新潟エリアでのSuicaエリア拡大
3. 18	JR西日本「ICOCA」との電子マネー相互利用開始
3. 29	「ICOCA」とJR東海「TOICA」との3者相互利用開始
	モバイルSuicaとEX-ICサービスの連携開始

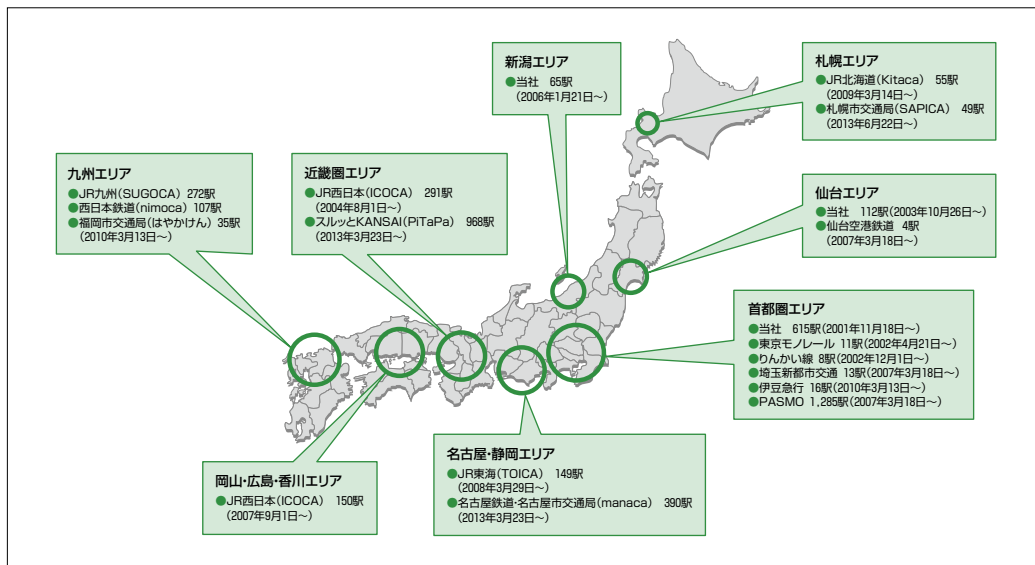
2009. 3. 14	JR北海道「Kitaca」との相互利用開始 当社エリアの拡大(115駅)
2009. 7. 27	Suicaインターネットサービス開始
2010. 3. 13	JR九州「SUGOCA」、西日本鉄道「nimoca」、福岡市交通局「はやかけん」との相互利用開始 「ICOCA」「TOICA」との電子マネー3者相互利用開始
2011. 7. 23	スマートフォンでのモバイルSuicaサービス開始
2013. 3. 23	交通系ICカード全国相互利用サービス開始 新潟交通「りゅうと」エリアでのSuicaサービス開始
2013. 6. 22	札幌市交通局等「SAPICA」エリアでのSuicaサービス開始
2014. 4. 1	首都圏・仙台・新潟でのSuicaエリア拡大 (Suica一部対応駅) IC運賃の導入

● Suica発行枚数の推移



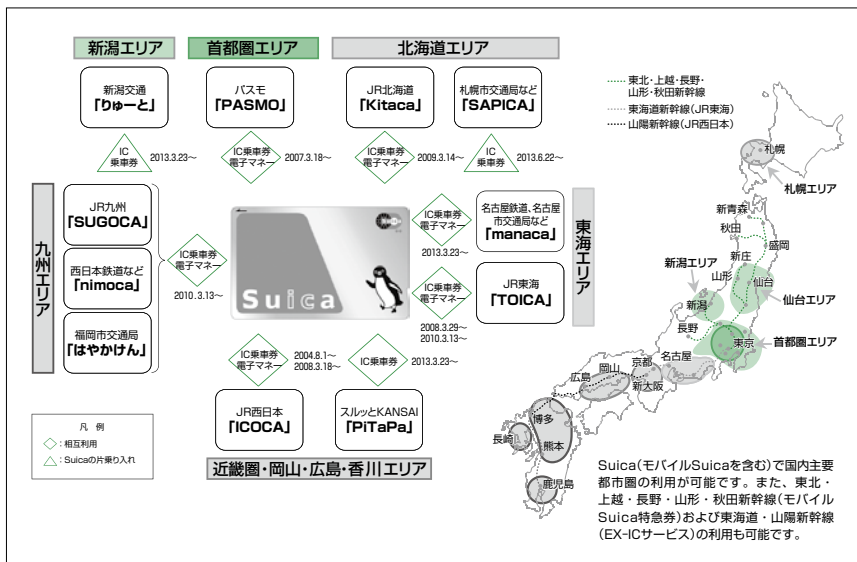
● Suicaご利用可能エリア

(2014年4月1日現在)



● 相互利用の推進

○ Suica の相互利用イメージ



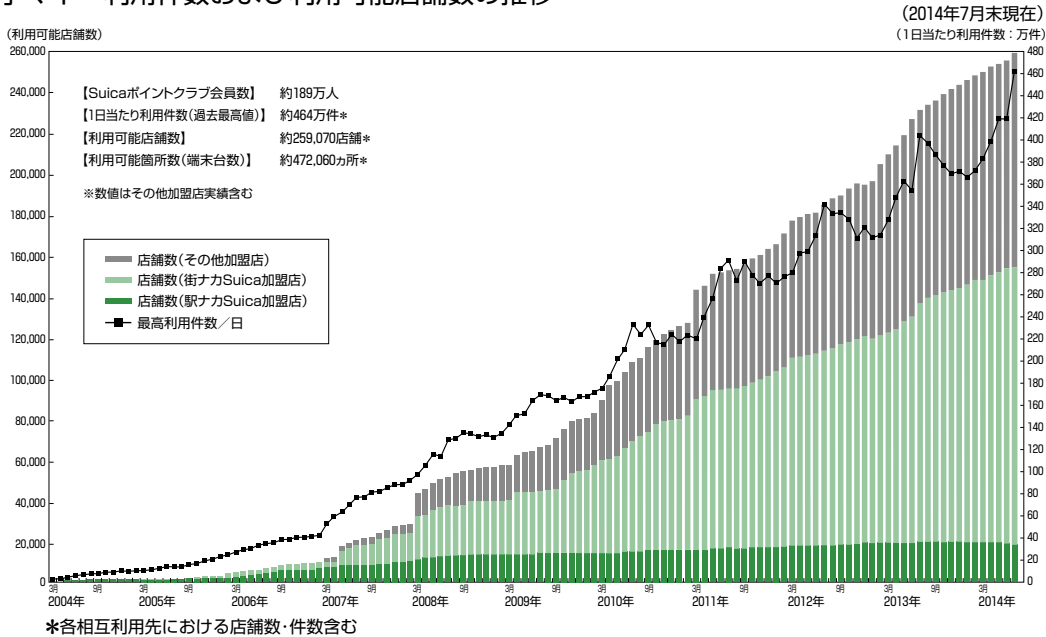
● グリーン車Suicaシステムの導入

2004年10月のダイヤ改正にあわせ、湘南新宿ライン・宇都宮線・高崎線において、普通列車グリーン車の営業運転を開始するとともに、Suicaを活用した「グリーン車Suicaシステム」を新たに導入し、車内改札を省略しました。さらに、2006年3月のダイヤ改正にあわせ、東海道線・横須賀線・総武(快速)線等に、2007年3月のダイヤ改正にあわせて常磐線(中距離電車)にこのシステムを導入しました。



車内イメージ

● Suica電子マネー利用件数および利用可能店舗数の推移



● Suicaポイントクラブ

Suicaポイントクラブは、会員がSuicaポイント加盟店マークのある店舗で、登録したSuicaで買い物をすることにより、自動的にポイントがたまるサービスです。たまったポイントはSuica電子マネーに交換することができます。電車やバス、ショッピングなどに利用することができます。



Suicaポイントクラブの会員数は、2014年7月末時点で約189万人です。

● Suicaを利用したビル入退館管理システム

普段お使いいただいているSuicaをビル入退館用カードとして利用できるもので、ビルの入退館チェックや、照明・空調・エレベーターなどの制御にも応用できます。



● 「モバイルSuica」サービス

携帯情報端末にSuica機能を搭載した「モバイルSuica」は、自動改札機などのSuicaマークのついた読み取り部にタッチするだけで利用でき、携帯情報端末の特徴(通信機能、表示機能)を活用して、「いつでもどこでも」チャージやSuica定期券、Suicaグリーン券の購入、ネットショッピングにおける決済、残額や利用履歴の表示が可能です。

また、「モバイルSuica」でJR東日本の新幹線(東北・山形・秋田・上越・長野)をチケットレスで利用できる「モバイルSuica特急券」は、チケット情報を携帯情報端末へダウンロードすれば、新幹線改札機をタッチ&ゴーで利用でき、新幹線の駅相互間は、紙のきっぷの自由席のお値段以下で普通車指定席にご乗車できます。

さらに2011年7月23日より、(株)NTTドコモ、KDDI(株)、ソフトバンクモバイル(株)が展開するおサイフケータイ®Android™搭載スマートフォンでも、「モバイルSuica」サービスを開始し、会員数は2014年7月に343万人を突破しました。



● Suicaインターネットサービス

インターネットに接続されたパソコンと「FeliCaポート/パソリ」を使って、Suicaへのチャージや、インターネットショッピングの決済にSuicaを利用できるサービスです。

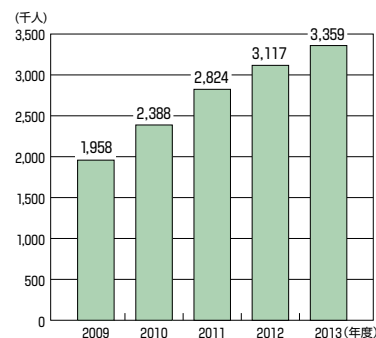


● 他の機能と一体化したSuica(多機能Suica)

Suica付学生証(社員証)については東急電鉄が展開するPASMO付学生証(社員証)と管理運用業務を統一し、ひとつの学校(企業)にSuica付学生証(社員証)とPASMO付学生証(社員証)を提供することで、学生(社員)がいずれかを選択できるようにしています。

名称	提携先	発行開始	備考
ゆうちょICキャッシュカードSuica 	ゆうちょ銀行	2009.4	ゆうちょ銀行のICキャッシュカードとの一体化(定期券機能無し)
Suica付学生証 Suica付社員証 	学校、企業等	2008.11	学生証・社員証との一体化(定期券機能有り) 多摩大学(2012年4月)、東芝プラントシステム(2009年5月)、東芝(2013年10月)などに導入

○ モバイル Suica 累計会員数の推移



利用イメージ

■ビューカード

●ビューカードのあゆみとカードのラインナップ

1993年 2月 2日	ビューカード発行開始
1994年 4月 1日	ビュー・ジパングカード発行開始
1998年 4月 1日	ビュー法人カード発行開始
2000年 4月 1日	VISAとの提携開始
2000年 8月 1日	インターネットでビューカード申込受付開始
2001年 10月 1日	VIEW ALTTEの設置開始
2003年 3月 17日	ビューカード会員へのインターネットサービスVIEW's NET開始
2003年 7月 1日	「ビュー・スイカ」カードサービス開始
2003年 7月 1日	JCBとの提携開始
2003年 10月 1日	「ビュー・スイカ」カードの「サンクスチャージ」サービス開始

2004年 3月 1日	MasterCardとの提携開始
2004年 4月 30日	ビュー・スイカVISAカードの国際化
2006年 1月 10日	定期券機能付「ビュー・スイカ」カード発行開始
2006年 3月 1日	ビジネスえきねっとカード発行開始
2006年 8月 23日	ビューカード受付会員数400万人達成
2006年 10月 1日	オートチャージサービス開始
2009年 7月 25日	オートチャージ(リンク)サービス開始
2009年 9月 1日	全額出資子会社として株式会社ビューカード設立
2010年 2月 1日	クレジットカード事業等を株式会社ビューカードに分割し本格的な事業運営がスタート
2010年 3月 13日	モバイルSuicaオートチャージサービス開始

○「ビュー・スイカ」カード

ビューカードとSuicaが一体化したカードです。JCB・VISA・MasterCardの3つのブランドから選択できます。クレジット決済だけでなく、Suicaとして電車に乗ることができるほか、店舗での買い物もできる多機能カードです。また、2006年1月からは定期券機能を追加しました。



○ルミネカード

ルミネでのショッピングが5%割引になるほか、Suica定期券機能も搭載しています。



○その他の主なカードのラインナップ

	Suica付き	Suica無し
鉄道系	「ビュー・スイカ」リポカード TYOビュー・スイカカード	のんびり小町ビューカード めぐり姫ビューカード
生活サービス系	エスパルビュー・スイカカード ジェクサービュー・スイカカード weビュー・スイカカード アトレクラブビューSuicaカード	ペリエカード フェザンカード
提携他社の発行するビューカード	イオンSuicaカード スーパーICカードSuica「三菱東京UFJ-VISA」 Yahoo! JAPANカード Suica みずほマイレージクラブカードセゾンSuica ANA VISA Suicaカード SMBC CARD Suica 横浜バンクカードSuica	TOYOTA TS CUBIC VIEW CARD

○大人の休日倶楽部カード

「大人の休日倶楽部」会員専用のカードです。JR東日本線のきっぷが何回でも割引になるほか、会員限定の割引きっぷも期間限定で購入できるなど、多くの特典で会員を集めています。年齢によりミドル用、ジパング用の2種類があります。

〈ミドル〉



〈ジパング〉



○グループ外企業との提携カード



●JALカードSuica

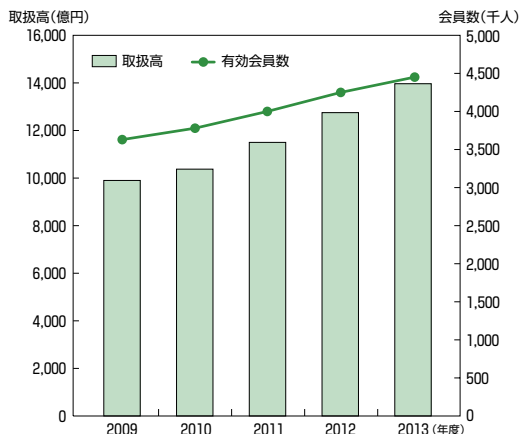
クレジット利用でマイルがたまります。



●ビックカメラSuicaカード

ビックポイントカードとSuica付きビューカードが一体化。

●ビューカード有効会員数・取扱高



●ビューカードの利用可能箇所

(2014年7月末現在)

- ・ショッピング
 - JR東日本のみどりの窓口、びゅうプラザ、指定席券売機、多機能券売機、JR各社の主な窓口、JR東日本の駅構内の主な店舗・駅ビル・ホテル・駅レンタカー等
 - 国内外のJCB加盟店、VISA加盟店、MasterCard加盟店
- ・キャッシング(2009年4月1日以降、新規にご契約いただいたビューカードではキャッシングサービスはご利用いただけません)
 - VIEW ALTTE、提携金融機関のCD・ATM等

●駅のATMコーナー「VIEW ALTTE」(ビューアルETTE)によるサービス

(2014年7月末現在)

名称	駅のATMコーナー「VIEW ALTTE」(ビューアルETTE)	
設置台数	198駅などに300台	
サービス内容・機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用代金のお支払い ビューカード ・ビューカードによるSuicaへの入金(チャージ) ・オートチャージの設定・解除・条件変更 ・サンクスチャージ クレジットのご利用でたまったビューサンクスポイントをSuica付きビューカードのSuica部分へ入金(チャージ)できます。 ・提携先ポイントのSuicaへの入金(チャージ) 「JALカードSuica」のご利用でたまったJMBマイルや「ビックカメラSuicaカード」のご利用でたまったビックポイント、その他の提携カードのポイントをSuica部分へ入金(チャージ)できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシング ビューカード、提携カード ・銀行等キャッシュカードでの 預貯金引出、残高照会



■びゅう商品券

1995年4月に発売を開始した「びゅう商品券」はJR東日本の駅・びゅうプラザのほか、駅ビル、ホテル、KIOSKなどのグループ会社、加盟デパートや量販店の約6,000店舗で利用できる便利な商品券です。



(500円、1,000円、10,000円券の3種類があります)

■WiMAX

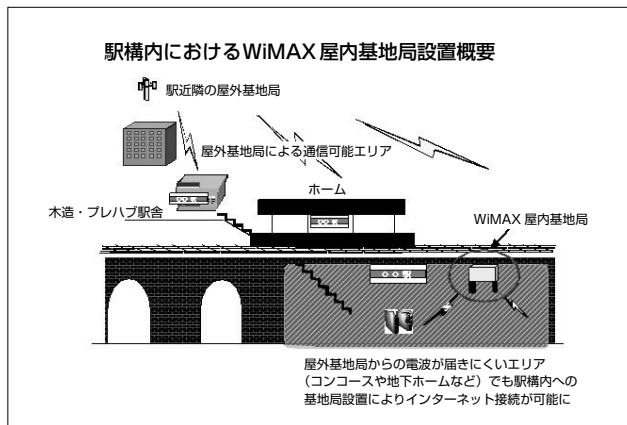
※ WiMAX：UQコミュニケーションズ㈱等が提供する高速無線通信サービス

○駅構内へのWiMAX 基地局設置

2014年3月までに首都圏を中心とした162駅にWiMAX屋内基地局を設置し、屋外からの電波が届きにくい改札内のコンコースや地下ホームなどでも、WiMAXによるインターネット接続をご利用可能としています。

○特急列車でのサービス提供

成田エクスプレス (E259系) やスーパーひたち・フレッシュひたち (E657系) では、車内に設置した無線LANのアクセスポイントから、屋根上のアンテナを通してWiMAX網に接続することで、車内でのインターネット接続を可能としています。



研究開発

「究極の安全」に向けて、安全に対する研究開発および、災害に強い鉄道システムを構築する研究開発を進めています。また、「エネルギー・環境戦略の構築」、「ICTの活用」、「新幹線のさらなる高速化」を中心に、オープンイノベーションの考え方を取り入れながら、研究開発に取り組むとともに、知的財産戦略を推進し、技術革新に挑戦します。

● 研究開発体制

2001年12月にさいたま市に開設した「JR東日本研究開発センター」を中心に研究開発を進めています。

本社	JR東日本研究開発センター
技術企画部 Technology Planning Department ● 技術開発全般の統括 ● 開発計画の策定・評価および開発支援 ● 知的財産関連業務 (知的財産センター)	フロンティアサービス研究所 Frontier Service Development Laboratory ● 社会環境の変化を予見しつつ、斬新な発想とお客さま視点にたつことにより、駅・車内サービスのイノベーションと、これを支える安心な構造物の実現をめざして、「個々のお客さまのニーズに応じたサービスの提供」、「誰にでも使いやすい駅空間の構築」、「鉄道特有の建設技術の創造」に関する研究開発を進めています。
	先端鉄道システム開発センター Advanced Railway System Development Center ● 車両・信号技術を軸とした新しい鉄道システムの構築による顧客価値の創造をめざして、「新幹線技術のさらなる進化」、「鉄道車両の価値向上」、「次世代の首都圏鉄道システムの構築」に関するテーマを中心に研究開発を進めています。
	安全研究所 Safety Research Laboratory ● 予防安全の観点から鉄道の安全性向上をめざして、リスクの工学的・社会的評価をベースに、人間科学的知見（ヒューマンファクター）を考慮しながら、安全性向上のための「現象の解明」、「システムや手法の開発」、「ルールや基準の改善」について研究開発を進めています。
	防災研究所 Disaster Prevention Research Laboratory ● 自然現象に起因する鉄道災害事故防止をめざして、「災害発生メカニズムの解明と危険度評価手法」、「気象・地象現象の観測と検知手法」、「防災対策の提案及び技術基準の策定」について研究開発を進めています。
	テクニカルセンター Technical Center ● メンテナンス業務革新をめざして、モニタリング、アセットマネジメントなどICTを活用したスマートメンテナンス実現のための研究開発のほか、グループ会社も含めたメンテナンス業務における現場支援を進めています。
	環境技術研究所 Environmental Engineering Research Laboratory ● 環境優位性の高い鉄道システムの構築をめざして、「エネルギーマネジメントの確立」と「省エネ技術の鉄道への適用」に関する研究開発を進めています。

研究開発

研究開発

● 主な試験設備

- ・ Smart Station 実験棟
- ・ 実物大軌道試験装置
- ・ 台車試験装置
- ・ 大電流試験装置
- ・ 水平交番載荷試験装置

など



Smart Station 実験棟

● 「現場第一線における技術開発」

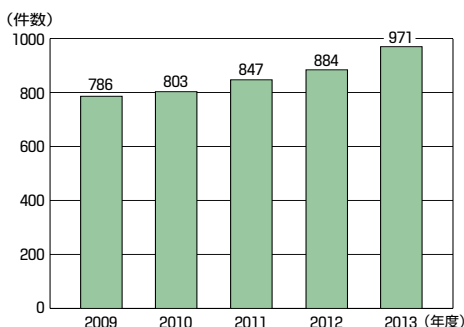
現場第一線の社員が、職場で直面している技術的な問題の解決や業務の改善に取り組める制度を設けています。2013年度には456件（2012年度：441件）の技術開発に取り組みました。



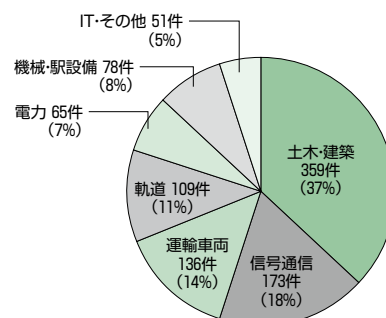
取り組みの例：
クリアヒート式信号機
フードの開発

● 特許権の保有件数

特許等（特許、実用新案、意匠）取得の推移



● 事業別特許等取得割合（2013年度）

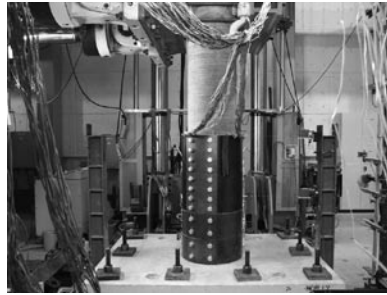


●主な研究開発内容

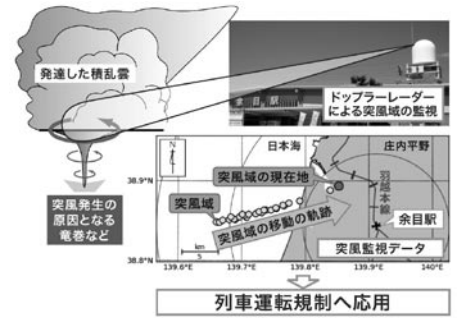
○「究極の安全」に向けて



乗務員訓練手法の開発

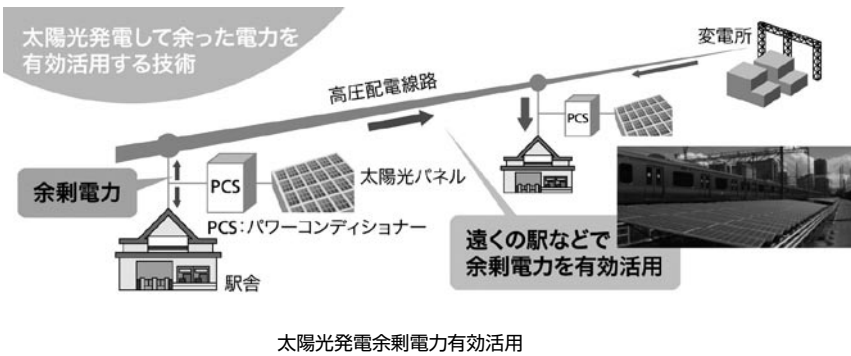


構造物の耐震補強方法の開発



ドップラーレーダーを用いた突風に
対する列車運転規制に関する研究

○エネルギー・環境戦略の構築



太陽光発電余剰電力有効活用



蓄電池駆動電車システムを採用した新型車両
「ACCUM」及び試験車両「NE Trainスマート
電池くん」(右下)

研究開発

○ICTの活用



駅構内における情報提供



高頻度に線路状態の変化が把握可能な「線路設備モニ
タリング装置」

○新幹線のさらなる高速化



模型を使用した高速走行時における「トンネル
内の車両挙動解析」や「騒音発生メカニズム
の解明」

●オープンイノベーションに向けた取り組み

外部の開発力や知的財産を活用するオープンイノベーションを目的として、国内外の大学や他企業、海外の鉄道事業者などとの連携を強化しています。また2013年度の取

り組みの一つとして、「JR-EAST Innovation 2013」を開催しました。



ドイツ鉄道との技術交流



「鉄道のエネルギーイノベーション」を重点テーマと
して開催したJR-EAST Innovation 2013

環境への取り組み

JR東日本では、1992年にエコロジー推進委員会を発足してから、省エネルギーやゼロエミッション、沿線環境保全等の各分野で様々な取り組みを進めてきました。また、環境の取り組み及びトレースについては、環境目標を定め毎年CSR報告書にまとめてきました。

2009年にJR東日本研究センター内に「環境技術研究所」を、2010年に経営企画部内に「環境経営推進室」を設置し、企業としての持続的発展をはかりながら、環境保護における社会的責任を果たし、地球環境問題に積極的かつ長期的に取り組む体制を強化しています。

今後も、「グループ経営構想V～限りなき前進～」で掲げた「創エネ」「省エネ」「スマートグリッド技術の導入」などの「エネルギー・環境戦略」をグループ一体となって推進していきます。

2020年度・2013年度目標と2013年度実績

環境保全活動の分類	項目	2020年度達成目標	2013年度実績	結果
地球温暖化防止への取り組み	鉄道事業のエネルギー使用量	8%削減(2010年度比) 527⇒485(億MJ)	1.9%削減 517(億MJ)	
	自営電力のCO ₂ 排出係数	30%改善(kg-CO ₂ /kWh 1990年度比) 0.457⇒0.320(kg-CO ₂ /kWh)	33%改善 0.304(kg-CO ₂ /kWh) ^{※1}	
環境保全活動の分類	項目	2013年度達成目標	2013年度実績	結果
地球温暖化防止への取り組み	単位輸送量あたり列車運転用電力量	6.8%削減 (2006年度比) 1.85⇒1.72(kWh/車キロ)	5.4%削減 1.75(kWh/車キロ)	
	支社等における 単位床面積あたりエネルギー使用量	3%削減 (2010年度比) 0.0467⇒0.0453(kL(原油換算)/m ²)	13%削減 0.0407(kL(原油換算)/m ²)	達成
資源循環への取り組み	駅・列車ゴミのリサイクル率	90%	94%	達成
	総合車両センター等で発生する 廃棄物のリサイクル率	95%	95%	達成
	設備工事で発生する 廃棄物のリサイクル率	95%	96%	達成
	グリーン購入実施率 ^{※2}	100%	100%	達成
沿線での環境活動	東北・上越新幹線の騒音対策75dB以下 ^{※3} (騒音対策対象地域について)	[2015年度達成目標] 100%	実施中	
環境マネジメント	全グループ会社が具体的な 数値目標を設定	継続して目標設定	設定済	達成

表内 はグループの目標。

※1 「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」に基づき計算を行った数値となっています。

※2 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)」第6条の基本方針に定められた品目等を購入した実績の有無を指標としています。

※3 国の指導により指定された地域の75dB対策については既に完了しています。現在、2015年度完了を目的に、それ以外の地域についても段階的に改良工事を進めています。

2014年度以降の環境目標

環境保全活動の分類	項目	2020年度達成目標	新目標(2014年度以降の達成目標)
地球温暖化防止への取り組み	鉄道事業のエネルギー使用量	8%削減(2010年度比) 527⇒485(億MJ)	【継続実施】
	自営電力のCO ₂ 排出係数	30%改善(1990年度比) 0.457⇒0.320(kg-CO ₂ /kWh)	【継続実施】
環境保全活動の分類	項目	2013年度達成目標	新目標(2016年度達成目標)
地球温暖化防止への取り組み	単位輸送量あたり列車運転用電力量	6.8%削減 (2006年度比) 1.85⇒1.72(kWh/車キロ)	新幹線・在来線それぞれ5.9%削減 (2010年度比) 新幹線:2.71⇒2.55(kWh/車キロ) 在来線:1.65⇒1.55(kWh/車キロ)
	支社等における 単位床面積あたりエネルギー使用量	3%削減 (2010年度比) 0.0467⇒0.0453(kL(原油換算)/m ²)	15%削減 (2010年度比) 0.0467⇒0.0397(kL(原油換算)/m ²)
	【新規】エコステモデル駅の整備	—	累計8箇所
	【新規】ホーム照明のLED化 (2014～16年度内)	—	60駅に50%以上の導入
	【新規】大型空調設備の高効率化 (2014～16年度内)	—	5箇所(4,700MJの削減)
	【新規】グループ会社各社が設定する エネルギー使用量原単位の削減率	—	グループ全社で年平均1%
資源循環への取り組み	駅・列車ゴミのリサイクル率	90%	94%
	総合車両センター等で発生する 廃棄物のリサイクル率	95%	96%
	設備工事等で発生する 廃棄物のリサイクル率	95%	96%
	【新規】グループ会社における リサイクル実施率	—	100%
沿線での環境活動	東北・上越新幹線の騒音対策75dB [※] 以下 (騒音対策対象地域について)【継続】	100% 【2015年度達成目標】	【継続実施】
環境マネジメント	グループ会社全社が 具体的な数値目標を設定	継続して目標設定	継続して目標設定

表内 はグループの目標。

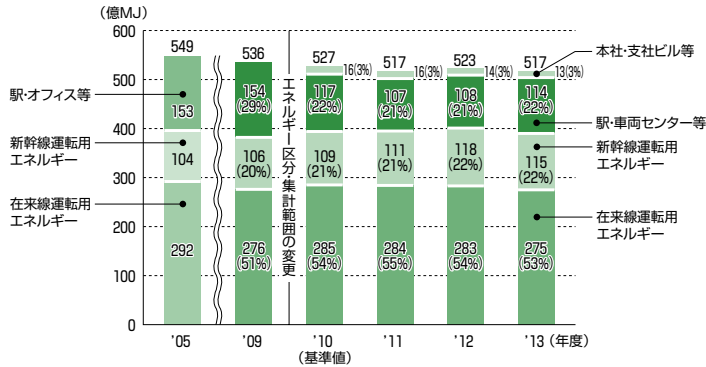
※ 国の指導により指定された地域の75dB対策については既に完了している。現在、2015年度完了を目的に、それ以外の地域についても段階的に改良工事を進めている。

■地球温暖化防止への取り組み

JR 東日本が使用する電力は、自営の発電所と電力会社から供給され、電車の走行や駅・オフィスの照明・空調に使用しています。また軽油や灯油等をディーゼル車の走行や駅・暖房の空調に使用しています。

消費エネルギーの約 8 割を占める列車運転用エネルギーの削減を引き続き進めるほか、事業所等においてもエネルギー削減施策に取り組んでいきます。

○ JR 東日本 消費エネルギーの構成

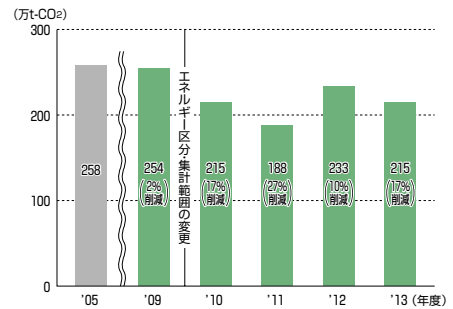


※算出方法の変更について

電力及び燃料の使用に伴う CO₂ 排出量およびエネルギー使用量は、2005 年度までは日本経団連自主行動計画を参考に算出していたが、2006 年度から、エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）及び地球温暖化防止策の推進に関する法律（温対法）に定める方法へ変更しました。

※上記の消費エネルギーは、省エネ法の考え方にに基づき算定していますが、自営水力発電量に対しては、9.76MJ/kWh を掛けて計算しています。省エネ法上の報告は、自営水力発電量に対して、0MJ で報告しています。

○ JR 東日本 CO₂ 総排出量の推移



※ 2009 年度までのエネルギー区分及び集計範囲で計算した場合の 2013 年度の CO₂ 総排出量は 225 万 t-CO₂ です。

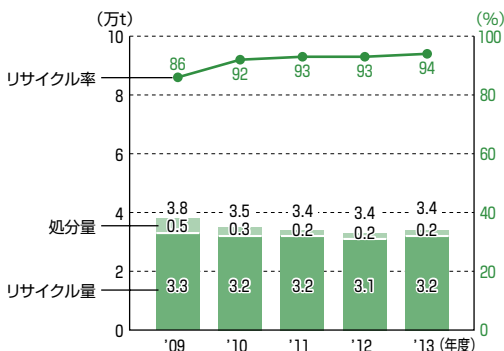
■資源循環の取り組み

列車や駅から日々排出される廃棄物、総合車両センターからの産業廃棄物、さらに生活サービス事業における飲食業の生ゴミや小売業の一般廃棄物等、JR 東日本グループから排出される廃棄物は多種多様です。

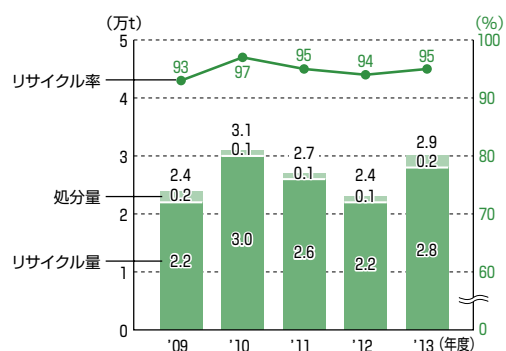
鉄道事業や生活サービス事業等から排出される多様な廃棄

物を削減するために、発生抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再資源化（リサイクル）を進めているほか、特にリサイクルについては廃棄物の種類ごとに達成目標を定めて取り組みを進めています。

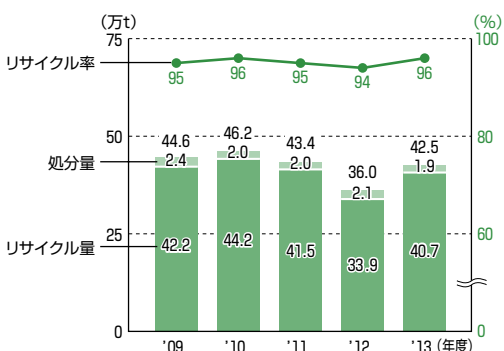
○ 駅・列車からのゴミの推移



○ 総合車両センター等からの廃棄物の推移



○ 設備工事からの廃棄物の推移



まちづくり等への協力

当社は、地域に根ざした企業としての社会的な役割を踏まえ、鉄道と道路との立体交差化、駅周辺の整備、河川改修にともなう当社施設改修など、自治体等が推進するまちづくりや都市計画等への協力を行い、地域社会における豊かな生活の実現をはかっています。

● 主な鉄道立体交差化の状況 (JR発足後)

自治体名	線名	区間	距離 (km)	方式	完成年月※
川崎市	南武線	武蔵小杉～武蔵溝ノ口	4.5	高架化	1990.12
あきる野市	五日市線	武蔵増戸～武蔵五日市	0.8	高架化	1996. 7
長野県	中央線	下諏訪～岡谷	1.9	高架化	1996.10
新潟県	弥彦線	北三条駅付近	2.7	高架化	1997. 9
東京都	東北線	赤羽駅付近	2.4	高架化	1998. 4
仙台市	仙石線	あおば通～苦竹	3.9	地下化	2000. 3
栃木県	両毛線	栃木駅付近	2.4	高架化	2003. 4
埼玉県	武蔵野線	南越谷～吉川	1.4	高架化	2004. 6
東京都・川崎市	南武線	稲田堤～稲城長沼	2.1	高架化	2005.10
仙台市	東北線	長町駅付近	2.5	高架化	2006. 9
東京都	中央線	三鷹～国分寺	6.2	高架化	2009.12
群馬県	両毛線	伊勢崎駅付近	2.5	高架化	2010. 5
東京都	中央線	西国分寺～立川	2.8	高架化	2010.11
宮城県	仙石線	多賀城駅付近	1.8	高架化	2012. 5
さいたま市	東北線	浦和駅付近	1.2	高架化	2013. 3
東京都	南武線	稲城長沼～府中本町	2.2	高架化	2013.12

● 今後の鉄道立体交差化予定

自治体名	線名	区間	距離 (km)	方式	完成予定年※
新潟市	信越線	新潟駅付近	2.5	高架化	2018

※踏切を除去した(する)時期

● 自由通路の設置

駅の両側を結ぶ自由通路は、駅周辺の街の一体化に寄与し、まちづくりを促進する契機となります。

当社は、沿線自治体等から要望をいただいた箇所について、周辺のまちづくり計画等との整合をはかりながら、自由通路の整備に協力しています。



越後線白山駅

● 駅周辺の整備

都市側が計画する駅前広場などの駅周辺整備や、鉄道線路を跨ぐ道路橋の老朽架け替え工事などは、列車の安全・安定性の確保や施工箇所付近を通過されるお客さまの安全確保等の面から、当社が必要な協力を行っています。



新宿交通結節点整備

● 新駅の設置

鉄道駅や鉄道路線の周辺で区画整理事業等のまちづくりが進められる場合、新駅設置やホームの新設などの要望が出されることがあります。

当社は、整備効果や財源確保の見通し等を見極めた上で、これに協力しています。



武蔵野線吉川美南駅

● 河川改修にともなう橋りょう架け替え

洪水時の流域の安全確保のため、堤防の高さの変更や拡幅などの河川改修事業が河川管理者によって行われます。

当社は、交差する鉄道橋りょうの架け替えなどを行い、これに協力しています。



東北線平泉～前沢間衣川橋りょう

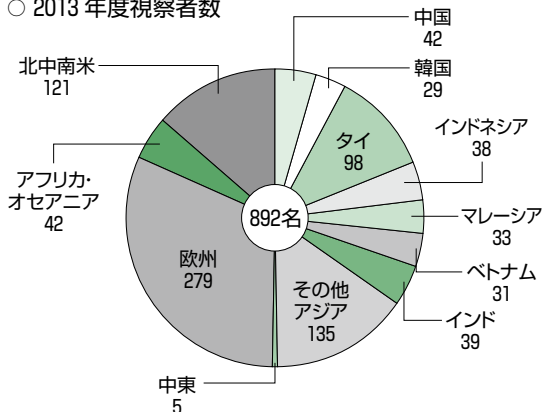
国際業務

■当社が加盟する鉄道国際機関

	国際鉄道連盟 (UIC) www.uic.org	国際公共交通連合 (UITP) www.uitp.org	欧州鉄道会社共同体 (CER) www.cer.be	米国鉄道協会 (AAR) www.aar.org	米国公共輸送協会 (APTA) www.apta.com
設立	1922年	1885年	1988年	1934年	1882年
本部	フランス・パリ	ベルギー・ブリュッセル	ベルギー・ブリュッセル	米国・ワシントン	米国・ワシントン
当社加盟年・ 会員資格	1987年・正会員（鉄道省・国鉄時代より継続）	2007年・正会員	2008年・パートナー会員	2009年・提携会員	2009年・海外事業者
会員数	95カ国・200団体（鉄道事業者、鉄道インフラ管理者、鉄道研究機関など）	92カ国・3400団体（鉄道・地下鉄・バス等公共交通事業者、メーカーなど）	27カ国・80団体（主にEU諸国の鉄道事業者、鉄道インフラ管理者など）	5カ国・90団体（北米の鉄道事業者、メーカーなど）	30カ国・1500団体（主に北米の鉄道・地下鉄・バス等公共交通事業者、政府関係機関など）

■海外からの視察者受け入れ

○ 2013年度視察者数



オーストリア商工会議所による東京駅視察



欧米諸国大使館職員による新幹線総合車両センター視察

国際業務

■海外拠点



パリ事務所 (1965年6月開設)



ロンドン事務所 (2014年4月開設)



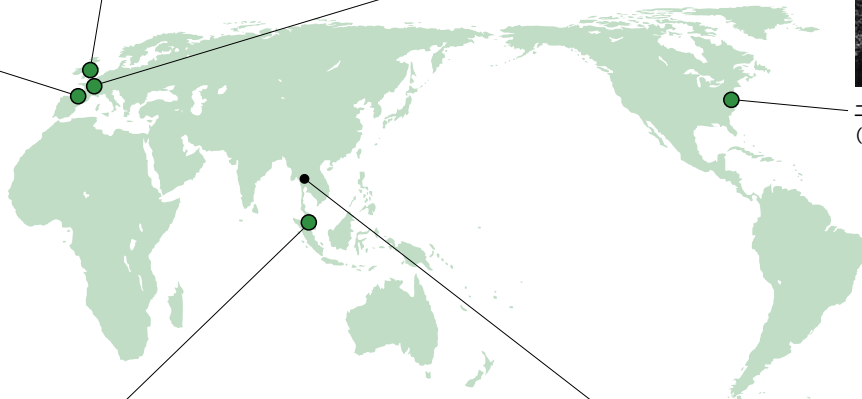
ブリュッセル事務所 (2012年11月開設)



ニューヨーク事務所 (1964年1月開設)



シンガポール事務所 (2013年3月開設)



Japan Transportation Technology (Thailand) Co., Ltd.
(タイ・バンコク パープルラインへの事業参画)

文化・スポーツ活動

■ 公益財団法人 東日本鉄道文化財団 ホームページアドレス <http://www.ejrcf.or.jp>

- ・1992年3月に設立、2010年4月に公益財団法人化。
- ・JR東日本発足以来の事業成果を社会貢献に継続的に役立てる活動を行っています。

○ 鉄道を通じた学術・科学技術の振興

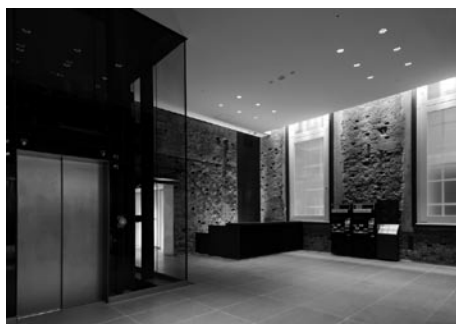
- ・鉄道博物館、旧新橋停車場、旧万世橋停車場の管理運営

○ 鉄道を通じた地域文化の振興

- ・東京ステーションギャラリー、青梅鉄道公園の管理運営
- ・地方文化事業支援

○ 鉄道を通じた国際理解・国際交流の推進

- ・海外鉄道研修生の受入れ
- ・英文雑誌の発行（Japan Railway & Transport Review）



東京ステーションギャラリー



フェロウシップ研修生

■ 鉄道博物館 ホームページアドレス <http://www.railway-museum.jp>

- ・2007年10月14日に埼玉県さいたま市にオープン
- ・実物車両展示、HOゲージ鉄道模型ジオラマ、SLシミュレーター
- ・国指定重要文化財を含む、数十万点にのぼる貴重な鉄道資産
- ・教育博物館として、県や市の地域や教育現場と連携



■ スポーツ

● JR東日本ジュニア剣道大会

JR東日本エリア内の少年剣士を対象に、日ごろの鍛練の成果を発揮していただくとともに各地の少年剣士の交流をはかり、少年剣士の健全育成をめざすことを目的に1990年から毎年8月に「JR東日本ジュニア剣道大会」を開催しています。

● 関東大学サッカーリーグ戦

当社は、日本のサッカー界、アマチュア・スポーツの振興・発展に寄与すべく、関東大学サッカーリーグ戦に1989年の第63回大会から「JR東日本カップ」として協賛しています。



● JR東日本ランニングチームの活動

2003年1月1日に設立され、八王子支社を拠点に活動を行っています。

2005年の第49回全日本実業団対抗駅伝競走大会（ニューイヤ駅伝）以来10年連続出場権を獲得しています。



● スキー大会

JR東日本グループの一体感の醸成、地域との密着をはかるため、1992年からGALA湯沢スキー場で行われている「GALA CUP」に、開催当初から後援・協賛しています。

● JR東日本硬式野球部の活動

会社発足の1987年以来、JR東日本野球部とJR東日本東北野球部の2チームが活動し、両チームから多くのプロ野球選手を輩出しています。

毎年、グループの社員、家族等が一体になって大応援団を形成し、熱烈な応援を送っています。



JR東日本野球部



JR東日本東北野球部

都市対抗野球大会への出場歴 主な成績（過去五年間）

2010年	JR東日本
2011年	JR東日本(優勝)・JR東日本東北(ベスト4)
2012年	JR東日本(準優勝)
2013年	JR東日本(準優勝)
2014年	JR東日本・JR東日本東北

■ プロサッカー（ジェフユナイテッド市原・千葉）

当社は、古河電気工業㈱と共同で「ジェフユナイテッド㈱」（ジェフユナイテッド市原・千葉）に出資しています。チーム運営を通じて、プロとしての試合興行だけでなく、東日本各地に展開するスクールや学校などへのコーチ派遣などを通じて青少年への普及・育成をはかるなど、地域に溶け込んだ文化活動や社会貢献活動を行っています。プロサッカーを頂点として、東日本地域に層の厚いスポーツ文化を根づかせるとともに、社員およびJR東日本グループの一体感の醸成をめざしています。

<http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/>

ジェフユナイテッド市原・千葉（プロサッカー）主要経緯

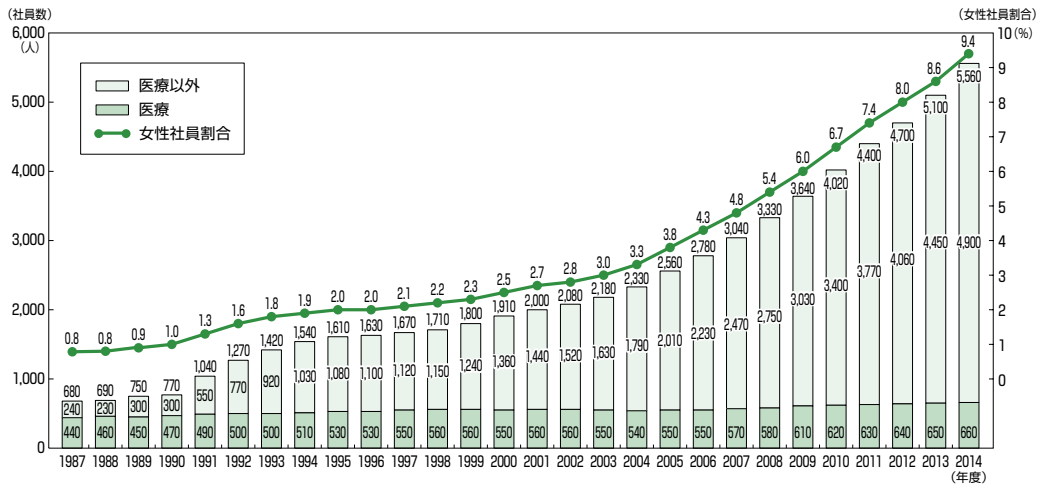
1990.11	JR東日本と古河電工が提携し、共同でプロサッカーリーグへの参加を表明
1991. 2	日本サッカー協会からプロサッカーリーグへの参加通知決定
1991. 6.11	㈱東日本ジェイアール古河サッカークラブ(チーム名：東日本JR古河サッカークラブ)設立
1991.11	チームニックネームが「ジェフユナイテッド」に決定
1993. 5	Jリーグ開幕
1998. 7	Jリーグヤマザキナビスコカップ準優勝
2001. 7	Jリーグディビジョン1ファーストステージ2位
2003. 5	Jリーグディビジョン1ファーストステージ3位
2003.11	Jリーグディビジョン1セカンドステージ2位
2004.11	Jリーグディビジョン1セカンドステージ2位
2005.11	Jリーグヤマザキナビスコカップ優勝
2006.11	Jリーグヤマザキナビスコカップ優勝
2009.10	「ジェフユナイテッド株式会社」に会社名変更
2009.10	新練習場「UNITED Park」完成
2009.11	Jリーグディビジョン2降格
2012.12	皇后杯全日本女子サッカー選手権大会でレディースが準優勝

社員の働きがいの向上に向けた取組み

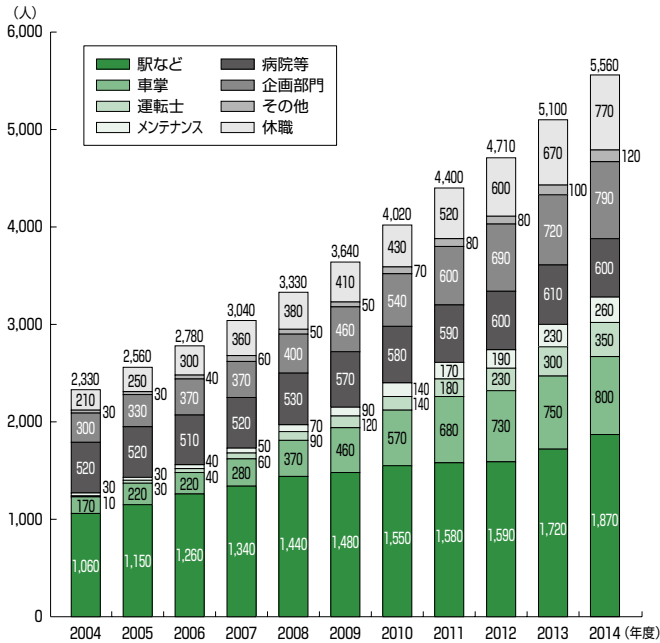
【取組みの3本柱】



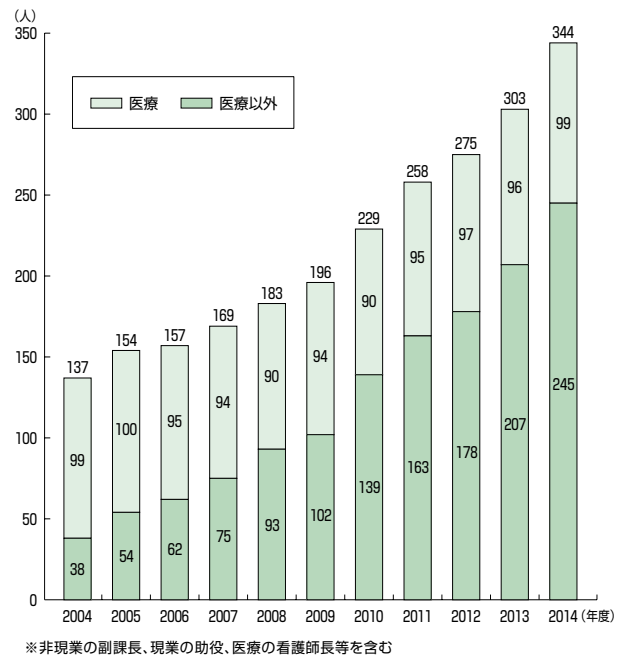
● JR発足後の女性社員の状況



● 女性社員の活躍の場の拡大



● 女性管理者数の推移



● エルダー社員制度

定年退職後の雇用を希望する社員を満65歳に達するまで、「エルダー社員」として当社で再雇用する制度を設けています。定年を迎えた多くの社員が、グループ会社等において各自の能力やスキルを活かして働き続けるとともに、グループ全体でのノウハウ等の蓄積に寄与しています。

働きがいの向上
働きがいの向上

● 研修制度

社員の能力開発の場として、さまざまな研修制度を設けています。

○ 集合研修及び社外研修

JR東日本総合研修センターをはじめとして、各支社の研修施設、総合訓練センター、技能教習所、営業トレーニングセンターおよび部外施設において数々の研修を実施しています。

研修種別	2011年度	2012年度	2013年度	主な研修
人材開発研修	29,500人	31,700人	26,900人	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ会社の新任取締役・監査役セミナー ・マネジメント研修 ・管理者セミナー ・新入社員および若手社員研修 ・昇職試験合格者研修 ・My Project関係研修
知識・技能向上研修	56,300人	54,300人	56,800人	<ul style="list-style-type: none"> ・運転士、車掌養成研修 ・訓練センター・営業トレーニングセンター研修 ・各種業務知識・技術力向上研修
社外研修	4,800人	4,700人	3,900人	<ul style="list-style-type: none"> ・異業種交流研修 ・各種資格取得研修 ・海外研修
合計	90,600人	90,700人	87,600人	

○ 通信研修

自己啓発支援の一環として、一般教養・資格取得を主体とした社外通信研修、鉄道業務を主体とした社内通信研修を実施しています。

研修種別	2011年度	2012年度	2013年度
社外通信研修	287講座	332講座	337講座
社内通信研修	41講座	50講座	50講座

● 技術アカデミー

意欲ある若手社員を鉄道技術の各分野の中核を担う人材に育てるため、2009年3月に「技術アカデミー」を設立しました。2014年3月に開講の第6期では12系統（安全・車両設計・車両メンテナンス・運輸・保線・土木・建築・機械・電力・信号・通信・建設）53名が、約1年間職場を離れて本社で技術の学習に専念します。

○ これまでの受講者数

第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	合計
24人	29人	29人	48人	48人	53人	231人

● My Project

社員が一步踏み込んだ課題にも挑戦できるよう、2011年1月より「My Project」をスタートさせました。「My Project」は、「一人ひとりの発意でスタート」「手法は自由、プロセスを重視」「社員の成長が成果」という3つのポイントからなり、改善に取り組むことそのものを「人材育成の機会」と位置づけ、「自ら考え自ら行動する社員」の育成をめざしています。

福利厚生

当社では、社宅・寮、病院、保養施設などの充実をはかるとともに、ジェイアールグループ健康保険組合およびJR東日本グループ共済会などの各種制度を通じて、社員とその家族が豊かで健康的な生活を営めるような、福利厚生の確立に努めています。

■ 社宅・寮

○ 社宅・寮

(2014年4月1日現在)

社宅	12,800戸
寮	103カ所 定員9,100人



寮「ドルミエール大塚」

■ 直営医療機関

○ 医療施設

(2014年4月1日現在)

病院	JR東京総合病院	448床
	JR仙台病院	197床
JR東日本健康推進センター		1カ所
鉄道健診センター		7カ所



JR東京総合病院

■ 余暇支援

● レクリエーション

社員の健康増進と明るい職場づくりに寄与するために、レクリエーション活動を積極的に支援し、27種目の体育・文化クラブが活発な活動をしています。

● 保養施設

(2014年4月1日現在)

会社保有施設(社員宿泊所等)	1カ所
会員制リゾート施設	約75カ所
割引契約施設	約2,000カ所



利用補助施設
「ホテルメトロポリタン(池袋)」

■ ジェイアールグループ健康保険組合

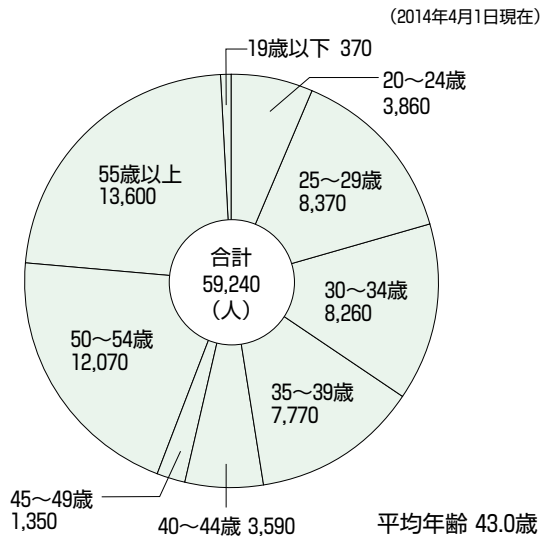
社員や家族の医療費などの給付を行っています。また、人間ドックなどの保健事業も行っています。

■ JR東日本グループ共済会

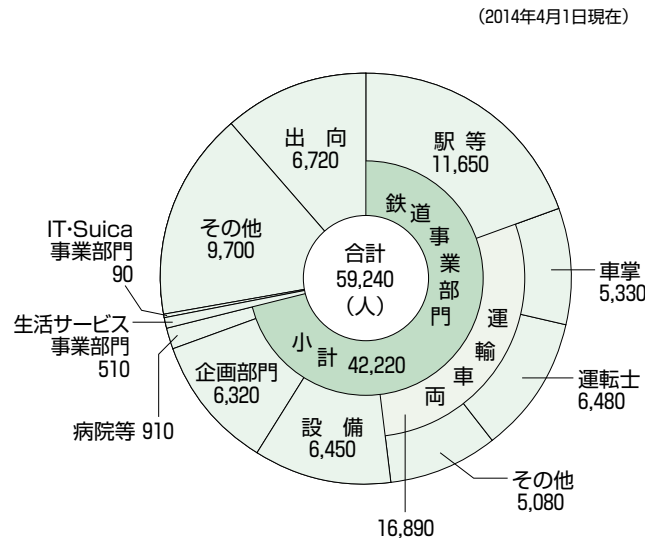
会員の相互扶助精神に基づく互助組織で、当社およびJR東日本グループ会社の社員等を対象とし、給付事業等を行っています。

社員

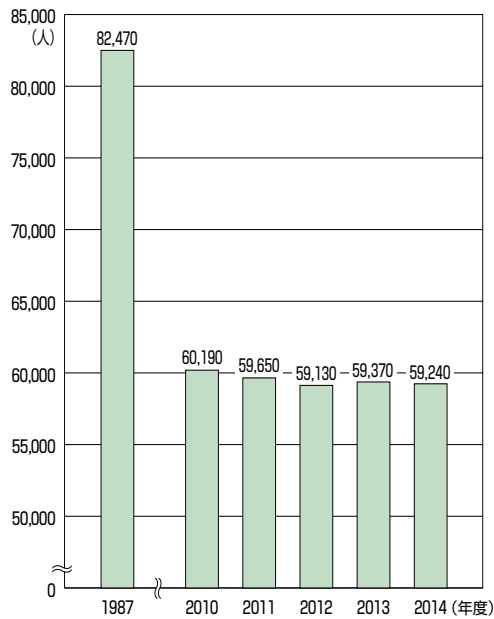
● 社員年齢構成



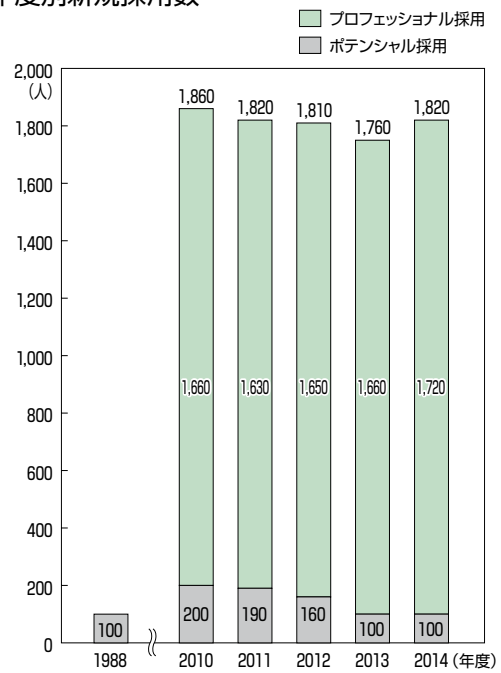
● 系統別社員数



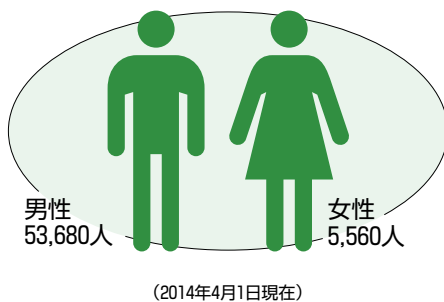
● 社員数等の推移



● 年度別新規採用数



● 男女別社員数



JR東日本ア・ラ・カルト

● 取扱収入ベスト50 (2013年度)

1日平均(単位:千円)

順位	駅名	平均取扱収入
1	東京	278,294
2	新宿	177,520
3	仙台	129,350
4	池袋	121,160
5	大宮	117,882
6	横浜	113,876
7	上野	101,549
8	品川	92,097
9	渋谷	84,353
10	新橋	67,534
11	新潟	59,892
12	秋葉原	54,219
13	宇都宮	53,968
14	川崎	51,270
15	高崎	49,642
16	立川	48,680
17	柏	44,847

順位	駅名	平均取扱収入
18	盛岡	42,877
19	船橋	42,792
20	戸塚	40,664
21	有楽町	40,309
22	郡山	40,072
23	千葉	39,128
24	長野	38,584
25	津田沼	38,512
26	藤沢	37,296
27	蒲田	35,845
28	大船	35,766
29	福島	35,462
30	浜松町	34,480
31	恵比寿	32,213
32	松戸	31,880
33	町田	30,606
34	錦糸町	30,431

順位	駅名	平均取扱収入
35	吉祥寺	30,399
36	北千住	30,240
37	平塚	30,206
38	八王子	29,893
39	茅ヶ崎	29,744
40	三鷹	29,360
41	国分寺	28,493
42	熊谷	27,070
43	田町	26,856
44	神田	26,567
45	浦和	26,447
46	高田馬場	26,334
47	五反田	25,633
48	赤羽	25,597
49	武蔵小杉	24,748
50	辻堂	24,719

注1):びゅうプラザ・旅行センターは駅の収入に含む。
 注2):提携販売センター、営業販売センター、びゅう団体支店は含まない。
 注3):旅行業収入を含む。

● その他主要駅の取扱収入

順位	駅名	平均取扱収入
72	山形	18,956
75	松本	18,215
92	八戸	16,219
127	青森	11,497
150	前橋	9,664

● 各駅の乗車人員

1999年度から2013年度までの1日当りの各駅の乗車人員を公開しています。

⇒各駅の乗車人員はこちら

<http://www.jreast.co.jp/passenger/index.html>

● 平均通過人員

JR東日本管内の各路線のご利用状況を掲載しています。

⇒平均通過人員はこちら

http://www.jreast.co.jp/rosen_avr/index.html

● JR東日本ナンバー1 ア・ラ・カルト

一番高い所にある駅	野辺山(小海線) 海拔1,346m
一番東にある駅	岩手船越(山田線)
一番西にある駅	南神城(大糸線)
一番南にある駅	伊東(伊東線)
一番北にある駅	下北(大湊線)
一番長い駅名	上越国際スキー場前(上越線)
一番長い路線	東北新幹線 713.7km
一番短い路線	赤羽線 5.5km
一番深い所にあるホーム	東京駅京葉線ホーム 海拔 -29.19m
一番長い駅間(新幹線)	東北新幹線 大宮～小山 49.0km
一番長い駅間(在来線)	田沢湖線 赤淵～田沢湖 18.1km

一番短い駅間(新幹線)	東北新幹線 東京～上野 3.6km
一番短い駅間(在来線)	山手線 日暮里～西日暮里 0.5km
	仙石線 あおば通～仙台 0.5km
一番急な勾配	奥羽線(山形新幹線)庭坂～関根 38/1000
一番長いトンネル	八甲田トンネル 26,455m (東北新幹線 七戸十和田～新青森)
一番短いトンネル	仙北岩トンネル 9.5m (五能線 十二湖～陸奥岩崎)
一番高い橋りょう	(新幹線)赤谷川(上越新幹線)河床から70m (在来線)鬼ヶ沢川(釜石線)河床から54.3m

● 長い橋りょう ベスト5

順位	名称	線名	駅間	建設年月	長さ(m)
1	第1北上川	東北新幹線	一ノ関～水沢江刺	1976.11	3,868
2	烏川	上越新幹線	本庄早稲田～高崎	1981. 7	1,380
3	荒川	武蔵野線	北朝霞～西浦和	1969. 5	1,290
4	北浦	鹿島線	延方～鹿島神宮	1970. 2	1,236
5	阿賀野川	羽越線	新津～京ヶ瀬	1912. 9	1,229

● 長いトンネル ベスト5

順位	名称	線名	駅間	建設年月	長さ(m)
1	八甲田	東北新幹線	七戸十和田～新青森	2010.12	26,455
2	岩手一戸	東北新幹線	いわて沼宮内～二戸	2002.12	25,808
3	大清水	上越新幹線	上毛高原～越後湯沢	1979. 9	22,221
4	榛名	上越新幹線	高崎～上毛高原	1981. 1	15,350
5	五里ヶ峯	長野新幹線	上田～長野	1997.10	15,175

付表

営業キロおよび駅数

(2014年4月1日現在)

線名	区間	営業キロ	駅数
吾妻線	(渋川)～大前	55.6	17
赤羽線	(池袋)～(赤羽)	5.5	2
左沢線	(北山形)～左沢	24.3	10
飯山線	(豊野)～(越後川口)	96.7	29
石巻線	(小牛田)～女川	44.9	13
五日市線	(拝島)～武蔵五日市	11.1	6
伊東線	(熱海)～伊東	16.9	5
羽越線	(新津)～(秋田)	271.7	58
内房線	(蘇我)～安房鴨川〔木更津経由〕	119.4	29
越後線	(柏崎)～(新潟)	83.8	30
奥羽線	(福島)～青森〔秋田経由〕	484.5	99 注1)
青梅線	(立川)～奥多摩	37.2	24
大糸線	(松本)～南小谷	70.1	33
大船渡線	(一ノ関)～盛	105.7	24
大湊線	野辺地～大湊	58.4	11
男鹿線	(追分)～男鹿	26.6	8
鹿島線	(香取)～鹿島サッカースタジアム	17.4	5
釜石線	(花巻)～(釜石)	90.2	22
烏山線	(宝積寺)～烏山	20.4	7
川越線	(大宮)～(高麗川)	30.6	9
北上線	(北上)～(横手)	61.1	15
久留里線	(木更津)～上総亀山	32.2	13
京葉線	(東京)～(蘇我)	43.0	15
	(市川塩浜)～(南船橋)〔西船橋経由〕	11.3	
気仙沼線	(前谷地)～(気仙沼)	72.8	21
小海線	(小淵沢)～小諸	78.9	30
五能線	(東能代)～(川部)〔五所川原経由〕	147.2	41
相模線	(茅ヶ崎)～(橋本)	33.3	16
篠ノ井線	(塩尻)～(篠ノ井)	66.7	13
上越線	(高崎)～(宮内)〔水上経由〕	162.6	33
	(越後湯沢)～ガーラ湯沢	1.8	1
常磐線	(日暮里)～(岩沼)〔土浦経由〕	343.1	77
	(三河島)～(南千住)〔隅田川経由〕	5.7	1
信越線	(三河島)～(田端)	1.6	
	(高崎)～横川	29.7	7
水郡線	篠ノ井～新潟〔長野および長岡経由〕	220.6	62 注2)
	(水戸)～(安積永盛)	137.5	38
仙山線	(上菅谷)～常陸太田	9.5	5
	(仙台)～(羽前千歳)	58.0	16
仙石線	あおば通～(石巻)	50.2	29
総武線	(東京)～銚子〔旭経由〕	120.5	41
	(錦糸町)～(御茶ノ水)	4.3	2
	(小岩)～越中島貨物	11.7	1
外房線	(小岩)～(金町)	8.9	
	(千葉)～(安房鴨川)	93.3	25
高崎線	(大宮)～高崎〔宮原経由〕	74.7	18
田沢湖線	(盛岡)～(大曲)	75.6	15
只見線	(会津若松)～(小出)	135.2	35
中央線	神田～代々木	8.3	9
	(新宿)～塩尻〔みどり湖経由〕	211.8	58
	(岡谷)～(塩尻)〔辰野経由〕	27.7	4
津軽線	(青森)～三厩	55.8	17

線名	区間	営業キロ	駅数
鶴見線	(鶴見)～扇町	7.0	8
	(浅野)～海芝浦	1.7	2
	(武蔵白石)～大川	1.0	1
東海道線	東京～熱海〔川崎および横浜経由〕	104.6	32
	(品川)～(鶴見)〔新川崎経由〕	17.8	2
	(浜松町)～浜川崎	20.6	2
	(鶴見)～(東戸塚)〔横浜羽沢経由〕	16.0	1
	(鶴見)～(八丁畷)	2.3	
東金線	(鶴見)～(桜木町)	8.5	
	(大網)～(成東)	13.8	3
東北線	(東京)～盛岡〔王子および仙台経由〕	535.3	129
	(日暮里)～(赤羽)〔尾久経由〕	7.6	1
	(赤羽)～(大宮)〔武蔵浦和経由〕	18.0	10
成田線	(長町)～(東仙台)〔宮城野経由〕	6.6	1
	(岩切)～利府	4.2	2
	(佐倉)～(松岸)	75.4	14
南武線	(成田)～(我孫子)	32.9	8
	(成田)～成田空港	10.8	2
	(川崎)～(立川)	35.5	24
日光線	(尻手)～(浜川崎)	4.1	2
	(尻手)～(鶴見)	5.4	
根岸線	(宇都宮)～日光	40.5	6
白新線	(横浜)～(大船)	22.1	10
八高線	(新発田)～(新潟)	27.3	8
八戸線	(八王子)～(倉賀野)	92.0	20
花輪線	八戸～久慈	64.9	24
磐越西線	好摩～(大館)	106.9	26
磐越東線	(郡山)～(新津)	175.6	40
水戸線	(いわき)～(郡山)	85.6	14
武蔵野線	(小山)～(友部)	50.2	14
	(鶴見)～(西船橋)〔東浦和経由〕	100.6	20 注3)
弥彦線	(西浦和)～(与野)	4.9	
山田線	弥彦～(東三条)	17.4	6
山手線	(盛岡)～釜石	157.5	29
横須賀線	(品川)～(田端)〔新宿経由〕	20.6	14
米坂線	(大船)～久里浜	23.9	8
陸羽西線	横濱線 (東神奈川)～(八王子)	42.6	18
陸羽東線	(米沢)～(坂町)	90.7	18
両毛線	(新庄)～(余目)	43.0	8
小計	(小牛田)～(新庄)	94.1	25
東北新幹線	(小山)～(新前橋)	84.4	16
上越新幹線	小計	6,339.5	1,667
長野(北陸)新幹線	東北新幹線 (東京)～(新青森)	713.7	6 注4)
小計	上越新幹線 (大宮)～(新潟)	303.6	2 注5)
合計	長野(北陸)新幹線 (高崎)～(長野)	117.4	3 注6)
	小計	1,134.7	11
	合計	7,474.2	1,678

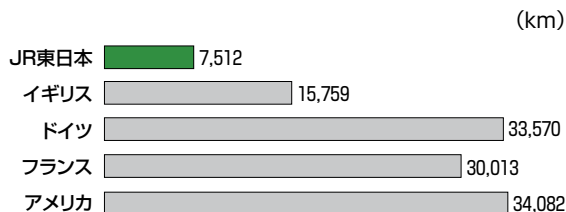
注1)：新青森～東青森を含む。
 注2)：越後石山～東新潟を含む。
 注3)：新小平～国立、南流山～北小金、南流山～馬橋を含む。
 注4)：在来線との併設駅数17駅
 注5)：在来線との併設駅数7駅
 注6)：在来線との併設駅数2駅

数字で見るJR東日本

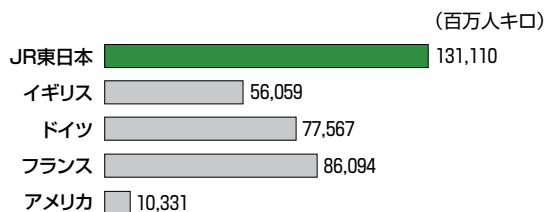
経済規模や地理的特性により、日本、特に都市部では鉄道に対する依存度が約3割と諸外国よりも高く、大きな鉄道需要をもたらしています。

JR東日本は、日本で最大、世界でも最大級の鉄道会社です。

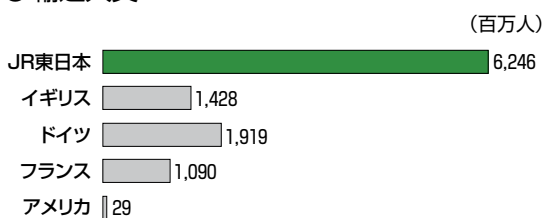
● 営業キロ



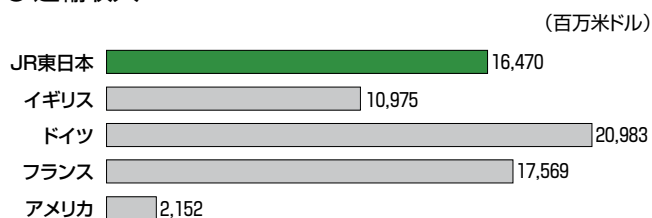
● 輸送人キロ



● 輸送人員



● 運輸収入



JR東日本は2014年3月期
イギリスは2012年3月期
ドイツ、フランスは2011年12月期
アメリカは2010年9月期

注1) : イギリス…………… 旅客列車運行会社(TOCs)(線路はネットワークレール所有)
ドイツ …………… ドイツ鉄道株式会社
フランス …………… フランス国鉄(線路はフランス鉄道線路公社所有)
アメリカ …………… アムトラック(米国鉄道旅客輸送公社)

注2) : 運輸収入には、貨物その他による収入を含みません。

注3) : このセクションのJR東日本のデータには東京モノレールを含みません。

注4) : 換算レートはJR東日本は2014年3月末の実勢レート(1米ドル=103円)を、
それ以外は2012年3月末の実勢レート(1ユーロ=1.34米ドル)を用いています。

出典 : International Railway Statistics 2011, Statistics Centre of the International Union of Railway, Sep.2013.

JR東日本発足からのあゆみ

1987年 (昭和62年)	4. 1 国鉄からJRへ、東日本旅客鉄道株式会社発足 5.20 損害保険代理業を開始 6. 4 東日本キヨスク(株)設立[現(株)JR東日本リテールネット] 6. 7 お客さまのご意見をうかがう「グリーンカウンター」を設置 7. 1 国内旅行業、営業開始 8. 1 冷房温度を少し上げた「弱冷房車」、東海道線などに導入	1993年 (平成5年)	2. 2 「ビューカード」発行開始 7. 2 内房・外房線に新型特急「ビューさざなみ・わかしお」デビュー 10.26 株式上場(東京、大阪、名古屋、新潟各証券取引所) 11. 9 「アジア鉄道安全セミナー」開催 12.21 低騒音高速試験電車「STAR21」試験走行で最高速度425km/hを記録
1988年 (昭和63年)	3. 4 ジェイアールバス関東(株)設立 3. 5 ジェイアールバス東北(株)設立 3.13 青函トンネル開通、上野～札幌間に寝台特急「北斗星」デビュー 横浜線、京浜東北線(田町～田端間)で快速運転開始 3.30 赤羽駅に直営駅ビル第1号「アルカード赤羽」オープン 4. 1 駅的美術館「東京ステーションギャラリー」オープン 5. 9 (株)ジェイアール東日本企画設立 7. 6 「湘南新宿ライナー」新設 9. 5 「チャレンジ・セイフティ運動」を全社展開 9.13 (株)ジェイアール東日本商事設立 9.20 駅のコンビニエンスストア「JC品川店」オープン 10. 1 (株)ジェイアール東日本物流設立 12. 5 東中野駅列車衝突事故 発生	1994年 (平成6年)	3. 1 「安全基本計画」発表 5.24 初の宿泊特化型ホテル「ホテルメッツク米川」オープン 7.15 オール2階建て新幹線「Max」(E1系)デビュー 10. 3 新津車両製作所操業開始
1989年 (平成元年)	3.11 常磐線に「スーパーひたち」デビュー、最高速度130km/hで運転 東海道線に2階建てグリーン車登場、快速列車を新設 4. 1 消費税導入にともなう運賃改定を実施 安全研究所、総合訓練センターを設置 ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)設立 (株)ジェイアール東日本建築設計事務所設立 4.17 ジェイアール東日本レストラン(株)設立 [現ジェイアール東日本フードビジネス(株)] 4.20 ジェイアール東日本高架開発(株)設立 [現(株)ジェイアール東日本都市開発] 10.23 英語による電話案内「JR East InfoLine」を開設 11.24 (株)ジェイアール東日本情報システム設立	1995年 (平成7年)	4. 1 「びゅう商品券」発売開始 格安レンタカー(6,800円)発売開始 4. 3 (株)ホテルメトロポリタン長野設立 7. 7 初の長期滞在型ホテル「フォルクローロ遠野」オープン 9.22 イタリア鉄道との協力協定締結 11.28 フランス国鉄との協力協定締結 12. 1 東京～那須塩原間に近距離専用新幹線「なすの」デビュー
1990年 (平成2年)	3.10 上越新幹線で国内最高速度275km/h営業運転開始 京葉線東京～蘇我間、全線開業 3.31 日本食堂(株)[現(株)日本レストランエンタプライズ]に資本参加 4. 1 盛岡・秋田支店を社内に 4. 2 東京圏駅ビル開発(株)設立 4.16 防災情報システム(PreDAS:プレダス) 東京圏運行本部にて使用開始 4.21 東京駅、駒込駅に新型の自動改札システムを導入 6.23 東北新幹線に2階建て車両デビュー 8. 1 ジェイアール東日本ビルテック(株)設立 10.14 21世紀に向けた経営構想「FUTURE21」を発表 12.20 ガーラ湯沢駅開業、駅と直結した「GALA湯沢スキー場」オープン	1996年 (平成8年)	3.13 JR東日本のインターネットホームページ開設 3.16 埼京線恵比寿駅へ乗り入れ 5. 1 グループ初の駅型保育園「国分寺」キッズステーション開園 12. 2 ジェイアール東日本コンビニエンス(株)設立
1991年 (平成3年)	3. 1 自動改札対応プリペイドカード「イオカード」発売開始(2005年3月31日発売終了) 3.14 ジェイアール東日本レンタリース(株)設立 3.19 成田空港駅開業、新型特急「成田エクスプレス」デビュー 4. 1 (株)ルミネ設立 技術開発部を総合技術開発推進部に、「テクニカルセンター」を新設 6.11 プロサッカーチーム「東日本ジェイアール古河サッカークラブ」が誕生 6.20 東北・上越新幹線東京駅開業	1997年 (平成9年)	2. 1 「ルミネカード」発行開始 3.22 秋田新幹線「こまち」デビュー 東北新幹線275km/h運転開始 全駅を分煙化、普通列車を全面禁煙化 4. 1 消費税率改定にともなう運賃改定を実施 ジェイアール東日本商業開発(株)設立 4. 4 「第6回地球環境大賞」受賞 5. 「シルバシート」を「優先席」に名称変更 10. 1 長野新幹線「あさま」デビュー 上越新幹線に近距離専用新幹線「たにがわ」デビュー 常磐線に「フレッシュひたち」デビュー 10.12 大月駅列車衝突事故 発生 10.16 「新幹線自動改札システム」導入開始(上野駅) 12.20 新型オール2階建て新幹線「Max」(E4系)デビュー
1992年 (平成4年)	3.17 財団法人「東日本鉄道文化財団」を設立 4. 1 ジェイアール東日本メカトロニクス(株)設立 JR東日本エコロジー推進委員会を設置 7. 1 山形新幹線「つばさ」デビュー 9. 1 海外旅行会社(株)びゅうワールド設立[現(株)びゅうトラベルサービス] 11. 2 ドイツ鉄道との協力協定締結	1998年 (平成10年)	3.27 新津車両製作所 ISO9001認証取得 4. 1 (株)ジェイアール東日本マネジメントサービス設立 10. 4 「JR東日本アートセンター／四季劇場」オープン 11. 1 品川駅構内にショッピングモール「フローラ品川」(現ecute品川 South)オープン 新幹線早期地震検知システム 使用開始 12. 8 上越新幹線「あさひ」に新型車両(E2系)投入 常磐線「ひたち」を全て「フレッシュひたち」化
		1999年 (平成11年)	2. 2 「安全計画21」発表 2.19 新津車両製作所 ISO14001認証取得 4.18 立川駅南口に「GRANDUO」オープン 4.29 サービスマネージャーの登場 7.16 オール2階建て新型寝台特急「カシオペア」運転開始 8. 2 JR東日本株式(100万株)の第2次売却実施 12. 4 山形新幹線新庄延伸
		2000年 (平成12年)	3.11 中央・総武緩行線に新型電車(E231系 通勤タイプ)登場 4. 8 インターネットモール「えきねっと」開業 4.15 「駅からハイキング」スタート 6.21 宇都宮・高崎線に新型電車(E231系 近郊タイプ)登場 11.29 中期経営構想「ニューフロンティア21」を発表 12.26 鉄道事業法に基づく認定鉄道事業者の第1号として認定される
		2001年 (平成13年)	2. 7 「のんびり小町」キャンペーン開始 4. 1 「グリーンカウンター」を「お客さま相談室」に改称 4.27 JAL、JTBと提携した旅の総合サイト「えきねっとTravel」開設 7. 2 埼京線で「女性専用車」導入開始

2001年 (平成13年)	7.13	新ブランド「大人の休日」スタート
	10.1	「JC」[「ミニコンビ」]がひとつとなって「NEW DAYS」誕生
	11.18	「Suica」サービス開始
	12.1	JR会社法改正法施行 総合技術開発推進部、テクニカルセンター、安全研究所を統合し、JR東日本研究開発センター(先端鉄道システム開発センター、フロンティアサービス研究所を新設)と技術企画部を設置 「湘南新宿ライン」運転開始 全車指定席の「中央ライナー」運転開始 (株)オレンジページの経営権を取得
2002年 (平成14年)	2.5	「ACTレイン」走行試験開始
	2.22	東京モノレール(株)の経営権を取得 「アトレ上野」オープン
	4.21	東京モノレール(株)とのSuica相互利用開始
	6.21	日本鉄道建設公団所有の当社株式50万株の売却 完全民営化達成
	10.1	(株)ジェイアール東日本パーソナルサービス設立
	11.1	JR東日本総合研修センター内に「事故の歴史展示館」を開館
	12.1	東北新幹線盛岡～八戸間開業、「はやて」運転開始 上越新幹線「あさひ」を「とき」に改称 埼京線・りんかい線相互直通運転、Suica相互利用開始 「はやて」「こまち」に全車指定席導入 「グリーンアテンダント」乗務開始
	12.8	仙台都市圏在来線自動改札システム導入開始
2003年 (平成15年)	3.24	(株)ジェイアール東日本ロジスティクスプラットフォーム設立
	5.6	「NETレイン」走行試験開始(2004年終了)
	7.1	「ビュー・スイカカード」サービス開始
	9.12	(株)JR東日本ステーションリテイリング設立
	10.12	Suica定期券による新幹線利用開始
	10.26	仙台エリアでの「Suica」サービス開始
2004年 (平成16年)	2.29	「ホテルドリームゲート舞浜」オープン
	3.3	「JR品川イーストビル」「アトレ品川」オープン
	3.5	「安全計画2008」発表
	3.13	上越新幹線「本庄早稲田駅」開業 首都圏エリアで朝の通勤時間帯に禁煙タイムを実施
	3.22	Suicaによるショッピングサービス(電子マネー)開始
	4.1	ポジティブ・アクション「Fプログラム」をスタート 池袋ターミナルビル(株)を(株)ホテルメトロポリタンと 池袋ターミナルビル(株)に会社分割
	8.1	JR西日本の「ICOCA」とのIC乗車券相互利用開始
	10.16	湘南新宿ライン・宇都宮線・高崎線に普通列車グリーン車を導入 「グリーン車Suicaシステム」使用開始
10.23	新潟県中越地震発生(上越新幹線「とき325号」脱線)	
11.1	成田空港に「JR東日本外国人旅行センター」開設	
2005年 (平成17年)	1.4	「JALカードSuica」発行開始
	1.20	「社会環境報告書2004」が第8回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門で「環境報告大賞」(環境大臣賞)を受賞 中期経営構想「ニューフロンティア2008」発表
	1.24	「ecute大宮」オープン、全店でSuica電子マネーサービス開始
	3.5	「Dila西船橋」オープン
	3.25	「Dila西船橋」オープン
	4.1	首都圏ホテル会社を経営会社と運営会社3社に再編 「JR東日本テレフォンセンター」の電話番号を統一
	4.4	埼京線「女性専用車」の朝通勤時間帯への拡大
	5.9	「ホテルメッツ赤羽」オープン
	6.1	「大人の休日倶楽部ジバング」サービス開始
	6.2	「アトレヴィ秋葉原」オープン
	6.25	新幹線高速試験電車「FASTECH 360 S」試験走行開始
	7.1	(株)ジェイアール東日本ビルディング設立
	7.9	常磐線に新型車両(E531系)を導入
7.11	「ジェクス・フィットネスクラブ赤羽」オープン	
9.5	中央線の朝時間帯に「女性専用車」導入	
10.1	「大人の休日倶楽部ミドル」サービス開始 「ecute品川」オープン	
12.25	羽越本線列車脱線事故発生	

2006年 (平成18年)	1.21	新潟エリアでの「Suica」サービス開始
	1.28	「モバイルSuica」サービス開始
	2.1	「防災研究所」を設置
	2.2	「Dila大船」オープン
	3.15	「ビックカメラSuicaカード」発行開始 「Dila高円寺」オープン
	3.18	東武鉄道(株)との特急列車直通運転開始 「グリーン車Suicaシステム」導入線区の拡大[東海道・横須賀・総武(快速)線など]
	4.1	(株)ルミネと(株)新宿ステーションビルディングが合併、 「マイシティ新宿」は「ルミネエスト」としてリニューアルオープン 「遺失物管理システム」を全社に展開
	4.6	新幹線高速試験電車「FASTECH 360 Z」試験走行開始
	4.11	東京駅とオランダ・アムステルダム中央駅との姉妹駅協定締結
	5.14	「交通博物館」閉館
	5.15	常磐緩行線の朝時間帯に「女性専用車」導入
	7.19	「ジェクス・フィットネス&スパ上野」オープン
8.1	(株)JR東日本ウォータービジネス設立	
10.1	Suica付きビューカードでのオートチャージサービス開始	
11.20	総武線各駅停車の朝時間帯に「女性専用車」導入	
2007年 (平成19年)	1.30	ホームページでの遅延証明書発行を開始
	2.1	(株)ジェイアール東日本物流と 東日本駅配送サービス(株)が合併
	2.26	異常時案内用ディスプレイを首都圏主要駅に設置開始
	3.6	「ホテルメッツ高円寺」オープン
	3.8	「サビアタワー」オープン
	3.18	「PASMO」との首都圏ICカード相互利用サービス開始 埼玉新都市交通(株)、仙台空港鉄道(株)、 ジェイアールバス関東(株)でのSuicaサービス開始 新幹線および特急列車の全面禁煙化 常磐線普通列車グリーン車の営業開始 仙台空港鉄道との直通運転開始
	4.1	日本ホテル(株)と(株)ホテルメトロポリタン、 (株)ホテルエドモント、(株)東京ステーションホテル、 (株)メッツアンドレストランが合併 (株)ジェイアール東日本物流と (株)ジェイアール東日本ロジスティクスプラットフォームが 合併 新「びゅうプラザ」営業開始
	4.19	燃料電池ハイブリッド鉄道車両の走行試験開始
	5.7	「東京ステーションコンファレンス」オープン
	5.24	「ホテルメトロポリタン丸の内」オープン
	5.30	東京駅丸の内駅舎保存・復原工事 着工
	6.1	「Suicaポイント」サービス開始
7.31	小海線にディーゼルハイブリッド車両(キハE200形)を導入し世界初の営業運転を開始	
8.24	「Dila拜島」オープン	
10.5	「ecute立川」オープン	
10.14	鉄道博物館オープン	
10.25	「グランスタ」オープン	
10.31	「グラントウキョウノースター(1期)/サウスター」完成	
12.16	「Dila三鷹」オープン	
2008年 (平成20年)	3.15	「モバイルSuica特急券」サービス開始
	3.18	「ICOCA」との電子マネー相互利用開始
	3.31	「グループ経営ビジョン 2020 一挑む一」発表
	4.1	「ネットde定期」スタート 「ジェクス・フィットネスクラブ ホテルメトロポリタン池袋」 オープン
	4.15	(株)JR東日本グリーンパートナーズ設立
	4.16	「グランデュオ蒲田」オープン
	6.30	首都圏を中心とした降雨防災強化工事が完了
	7.30	「アトレヴィ田端」オープン
	10.7	「ホテルメッツ立川」オープン
	11.4	在来線用試験電車「MUE-Train(ミュートレイン)」の試験走行開始
	11.28	次世代育成支援対策推進法に基づく「くるみんマーク」認定

2009年 (平成21年)	2.26	山手線などの駅でWiMAXによる モバイルインターネット接続提供開始
	3. 1	「スーパーモバイルSuica特急券(スーパーモバトク)」サービス開始
	3. 3	「安全ビジョン2013」発表
	3.10	信濃川発電所における不祥事に対する行政処分により、 同発電所での取水を停止
	3.14	JR北海道「Kitaca」とのIC乗車券・電子マネー相互利用開始
	3.31	ラーメン高架橋柱・橋脚の耐震補強対策(せん断破壊先行型)が完了 新幹線全編成にAED(自動体外式除細動器)を搭載
	4. 1	「信濃川発電所業務改善推進部」を設置、 同部内に「信濃川発電所業務改善事務所」を設置、 「エネルギー管理センター」を設置、 「安全対策部」を「安全企画部」に改称、 経営企画部内に「海外鉄道事業推進室」を設置、 「JR東日本研究開発センター」内に「環境技術研究所」を設置 駅舎清掃・車両清掃整備・駅業務に係るグループ事業再編 首都圏の一定エリアにおける駅の全面禁煙化 石田副会長(当時)が国際鉄道連合(UIC)の会長に就任 国際部に「ブリュッセル連絡室」を設置
	4.29	「ebisu green garden」オープン
	5.20	新しい旅行商品ブランド「旅市(たびいち)」発売開始
	6.20	「ecute日暮里」オープン
	6.30	新宿南エネルギーサービス(株)をグループ会社に編入
	7. 1	「ワーク・ライフ・プログラム」スタート
	7.27	Suicaインターネットサービス開始
8.26	「LUMINE MAN SHIBUYA(ルミネマン渋谷)」オープン	
9. 1	(株)ビューカード設立	
9.28	「ホテルメッツ駒込」オープン	
10. 1	(株)川崎ステーションビル、(株)ボックスビルが(株)アトレ と合併 新型成田エクスプレス「E259系」営業運転開始	
10. 7	「シャルプラット東神奈川」オープン	
10.20	「ジェクサーフィットネスクラブ東神奈川」オープン	
11. 1	高崎ターミナルビル(株)のホテル事業を日本ホテル(株)へ 移管	
12.28	埼京線で防犯カメラを試行開始	
2010年 (平成22年)	3.13	横須賀線「武蔵小杉駅」が開業 「TOICA」、「ICOCA」との電子マネー3者相互利用を開始 JR九州「SUGOCA」、西日本鉄道「nimoca」、福岡市交通局 「はやかけん」とのIC乗車券・電子マネー相互利用開始 モバイルSuicaでオートチャージサービス開始 伊豆急行(株)でのSuicaサービス開始
	3.25	「アトレヴィ巣鴨」オープン
	3.28	「SouthCourt ecute東京」オープン
	4. 1	(株)紀ノ国屋グループの経営権を取得 池袋ターミナルビル(株)の一部事業を(株)ルミネに移管、 同社を(株)ジェイアール東日本ビルディングに合併
	4.19	京浜東北線・根岸線へ女性専用車導入
	4.30	「soradofarm戸田」オープン
	6. 9	信濃川発電所において「流水の占有許可」に基づく取水を再開
	6.26	山手線恵比寿駅でホームドア使用開始(8.28目黒駅で使用 開始)
	7. 1	「国際部」を「国際業務部」に改称し、 「海外鉄道事業推進室」を同部に移管 経営企画部に「環境経営推進室」を設置
	7.31	岩泉線列車脱線事故 発生
	10.21	東京モノレール羽田空港国際線ビル駅に 「JR東日本外国人旅行センター」開設
	11. 7	中央線三鷹～立川間の高架化完了
11.19	「アトレ秋葉原1」オープン	
12. 4	東北新幹線八戸～新青森間開業 「NorthCourt GRANSTA DINING」「A-FACTORY」「あお もり旬味館」オープン	
2011年 (平成23年)	3. 5	東北新幹線「はやぶさ」運転開始
	3.11	東日本大震災発生
	3.20	「Keiyo Street(京葉ストリート)」オープン

2011年 (平成23年)	3.31	「ecute上野」オープン
	4. 1	(株)JR東日本青森商業開発と弘前ステーションビル(株)が 合併 盛岡ターミナルビル(株)のショッピングセンター運営事業 の一部を(株)JR東日本青森商業開発に移管 子育て支援施設設計54カ所、GV2020スタートから3年で倍 増の目標達成
	4.29	東北新幹線全線運転再開
	5.16	「ecute品川South」オープン
	6. 4	C61形蒸気機関車復活運転
	6.24	電力使用制限令に基づき、「夏の特例ダイヤ」を実施
	7. 9	東北新幹線の一部徐行解除
	7.15	総合企画本部内に「観光戦略室」を設置
	7.27	新潟・福島豪雨災害による大規模水害(只見線ほか)
	9.23	東北新幹線、通常ダイヤでの運転再開 「ecute赤羽」全面オープン
	10. 1	(株)ステーションビルMIDORIと(株)しなのエンタープライズ が合併 (株)日本レストランエンタプライズと(株)デリシャスリンク が合併
	10. 4	山手線の車内でスマートフォン向け情報提供サービスを試行
10.10	仙石線において、無線を用いた列車制御システム「ATACS」 を使用開始	
10.28	「ルミネ有楽町」オープン	
11. 1	日本コンサルタンツ(株)を設立	
11.16	「ジェクサー・フィットネス&スパ亀戸」オープン	
12. 1	「JR Kanto Area Pass」発売開始	
12. 9	「車両が風から受ける力をより適正に評価し運転規制を行う 手法」の導入	
2012年 (平成24年)	1.20	地域再発見プロジェクト常設店舗「のもの」オープン
	3.14	「エコステ」四ツ谷駅使用開始 八戸線、全線復旧 武蔵野線「吉川美南駅」開業
	3.27	「ホテル アール・メッツ宇都宮」オープン
	3.30	岩泉線についてバス転換を表明
	4. 1	無人駅に「名誉駅長」を配置 設備保守に係るグループ会社再編、車両・機械設備グループ 3社の機械設備部門とJR東日本メカトロニクス(株)を統合、 車両部門は、東日本トランスポートック(株)と新潟交通機械 (株)を統合
	4. 2	東急車輛製造(株)の鉄道車両製造事業を吸収分割により承 継した会社の全株式を東京急行電鉄(株)から取得し、新た に(株)総合車両製作所として子会社化
	4.26	「今後3年間(2012～2013年度)の重点課題及び数値目標」発表
	5. 1	総合企画本部内に「復興企画部」を設置
	6.28	「グランスタ丸の内坂エリア」オープン 「エコステ」平泉駅使用開始
	6.30	「JR南新宿ビル」完成
	7.13	「ジェクサー・フィットネス&スパ新宿」オープン
	8. 1	清野会長が国際鉄道連合(UIC)の会長に就任
8.20	気仙沼線BRT暫定運行開始	
10. 1	東京駅丸の内駅舎保存・復原工事完了 東京駅にJR EAST Travel Service Centerオープン、 東京ステーションギャラリー開館、Central Streetオープン 訪日外国人向け無料公衆無線LANサービス開始	
10. 3	「東京ステーションホテル」リニューアルオープン	
10.30	「グループ経営構想V(ファイブ)～限りなき前進～」発表	
11. 1	「ブリュッセル事務所」設置	
11. 5	自己株式400万株を消却	
12. 5	モバイルSuica会員数300万人突破	
12.22	気仙沼線BRT本格運行開始	
2013年 (平成25年)	1.10	「JR神田万世橋ビル」完成
	2. 1	東京駅とニューヨーク・グランドセントラル駅との姉妹 駅締結
	3. 1	子育て支援施設と高齢者福祉の複合施設「コトニア吉祥寺」 オープン
	3. 2	大船渡線BRT運行開始
	3.15	「シンガポール事務所」設置

2013年 (平成25年)	3.16	E5系「はやぶさ」国内最高速の時速320km運転開始 E6系「スーパーこまち」営業運転開始 湘南新宿ライン浦和駅新規停車
	3.23	全国10の交通系ICカード相互利用サービス開始 新潟交通の「りゅうと」エリアでのSuicaサービス開始
	4. 1	「北陸営業センター」開設(石川県金沢市) 「(株)JR東日本ステーションサービス」設立 中央線武蔵境駅の駅業務を(株)JR中央ラインモールに委託開始
	4. 8	「ホテルメッツ新潟」オープン
	6.10	技術企画部内に「知的財産センター」を設置
	6.22	札幌市交通局などの「SAPICA」エリアでのSuicaサービス開始
	7.12	1日あたりの交通系電子マネー利用件数が400万件を突破
	7.26	自己株式100万株を消却
	8. 1	交通系電子マネーの利用件数が7月に1億件を突破
	8. 3	BRT専用ICカード乗車券「odeca」サービス開始
	9. 3	訪日旅行ブランド「東日本鉄道假期(東日本鉄道ホリデー)」立ち上げ
	9.12	「JR大塚南口ビル」オープン
	9.13	「エコステ」海浜幕張駅使用開始
	9.20	東京駅八重洲口「グランルーフ」完成
	10. 1	新宿南エネルギーサービス(株)とディーエイチシー新宿(株)が合併
	10.19	「TOHOKU EMOTION(東北エモーション)」運転開始
	10.29	グループ経営構想V「今後の重点取組み事項」発表
	11. 6	タイ・バンコク パープルラインへの事業参画を発表
11. 7	鉄道博物館にて「世界鉄道博物館会議」を開催	
2014年 (平成26年)	1. 1	本社内に「政策調査室」を設置
	1.27	「nonowa東小金井」オープン
	2. 2	駅遠隔操作システムの導入
	2. 4	「グループ安全計画2018」発表
	2.23	京浜東北線川崎駅構内列車脱線事故 発生
	3. 7	「のものが秋葉原」オープン
	3.10	JR東日本アプリサービスイン
	3.15	EV-E301系(ACCUM)営業運転開始
	3.17	高崎線特急「スワローあかぎ」でのスワローサービス開始
	3.31	新津車両製作所を廃止((株)総合車両製作所へ承継)

会社役員



取締役会長
清野 智



取締役副会長
小縣 方樹
技術関係(全般)
国際関係(全般)



代表取締役社長
富田 哲郎



代表取締役副社長
深澤 祐二



代表取締役副社長
柳下 尚道

会社役員

常務取締役

森本 雄司
総合企画本部長
監査部担当
財務部担当

原口 宰
鉄道事業本部副本部長
鉄道事業本部営業部担当
観光振興(全般)

川野邊 修
鉄道事業本部長

一ノ瀬 俊郎
事業創造本部長
人事部担当
厚生部担当

澤本 尚志
鉄道事業本部副本部長
総合企画本部システム企画部担当
総合企画本部技術企画部担当
鉄道事業本部サービス品質改革部担当

中井 雅彦
鉄道事業本部副本部長
総合企画本部復興企画部担当
鉄道事業本部信濃川発電所業務改善推進部担当
建設工事部担当

梅原 康義
東京支社長

高橋 眞
IT・Suica事業本部長
広報部担当
法務部担当
総務部担当
オリンピック・パラリンピック担当

福田 泰司
鉄道事業本部副本部長
鉄道事業本部設備部担当
鉄道事業本部電気ネットワーク部担当

西山 隆雄
国際担当

取締役

江藤 尚志
東京支社東京駅長

佐々木 毅

濱口 友一

常勤監査役

星野 茂夫
東川 一

監査役

山口 俊明
仁田 陸郎
石田 義雄

執行役員

熊本 義寛
総合企画本部復興企画部長
横山 泰和
総合企画本部副本部長
品川開発担当
有山 伸司
総合企画本部品川・大塚開発部長
坂井 究
総合企画本部経営企画部長
向山路 一
総合企画本部投資計画部長
尾高達 男
総合企画本部技術企画部長
JR東日本研究開発センター所長

渡利 千春
鉄道事業本部安全企画部長
赤石 良治
鉄道事業本部営業部長
太田 朝道
鉄道事業本部運輸車両部長
輿石 逸樹
鉄道事業本部設備部長
山本 康裕
鉄道事業本部電気ネットワーク部長
藤森 伸一
鉄道事業本部信濃川発電所業務改善推進部長
建設工事部長

日野 正夫
事業創造本部副本部長
新井 健一郎
事業創造本部部長
野口 忍
IT・Suica事業本部副本部長
前川 忠生
総務部長
野澤 伸一郎
構造技術センター所長

平野 邦彦
横浜支社長
佐藤 裕
八王子支社長
浅見 郁樹
大宮支社長
黒岩 雅夫
高崎支社長
小池 邦彦
水戸支社長
石川 明彦
千葉支社長

松木 茂
仙台支社長
嶋 誠治
盛岡支社長
白石 敏男
秋田支社長
関森 多市郎
新潟支社長
内田 浩二
長野支社長
小栗 彰
新幹線運行本部長

事業所

本社	〒151-8578 渋谷区代々木二丁目2番2号	03-5334-1111
JR東日本研究開発センター	〒331-8513 さいたま市北区日進町二丁目479番地	048-651-2214
JR東日本総合研修センター	〒961-0888 白河市十三原道下1番地1	0248-31-2822
JR東京総合病院	〒151-8528 渋谷区代々木二丁目1番3号	03-3320-2200
JR東日本健康推進センター	〒140-0005 品川区広町二丁目1番19号	03-3771-7520
エネルギー管理センター	〒151-8578 渋谷区代々木二丁目2番2号	03-5334-1013
構造技術センター	〒151-8512 渋谷区代々木二丁目2番6号	03-6276-1251
東京支社	〒114-8550 北区東田端二丁目20番68号	03-5692-6024
横浜支社	〒220-0023 横浜市西区平沼一丁目40番26号	045-320-2540
八王子支社	〒192-8502 八王子市旭町1番8号	042-627-6498
大宮支社	〒330-9555 さいたま市大宮区錦町434番地4	048-642-7401
高崎支社	〒370-8543 高崎市栄町6番26号	027-320-7111
水戸支社	〒310-0011 水戸市三の丸一丁目4番47号	029-227-5884
千葉支社	〒260-8551 千葉市中央区弁天二丁目23番3号	043-284-6833
仙台支社	〒980-8580 仙台市青葉区五橋一丁目1番1号	022-266-9611
JR仙台病院	〒980-8508 仙台市青葉区五橋一丁目1番5号	022-266-9671
山形支店	〒990-0039 山形市香澄町一丁目1番1号	023-622-8977
福島支店	〒960-8031 福島市栄町1番1号	024-522-1233
盛岡支社	〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通1番41号	019-625-4011
青森支店	〒038-0012 青森市柳川一丁目1番1号	017-734-6734
秋田支社	〒010-0001 秋田市中通七丁目1番1号	018-832-5873
新潟支社	〒950-8641 新潟市中央区花園一丁目1番1号	025-248-5106
長野支社	〒380-0927 長野市栗田源田窪992番地6	026-226-7555
新幹線運行本部		
東京工事事務所	〒151-8512 渋谷区代々木二丁目2番6号	03-3379-4632
上信越工事事務所	〒370-8543 高崎市栄町6番26号	027-324-9360
東京電気システム開発工事事務所	〒151-8512 渋谷区代々木二丁目2番6号	03-3379-4642
東北工事事務所	〒980-8580 仙台市青葉区五橋一丁目1番1号	022-266-9663

〈海外事務所〉

ニューヨーク事務所	East Japan Railway Company New York Office One Rockefeller Plaza, Suite 1410 New York, N.Y. 10020 U.S.A. TEL : (1)-212-332-8686
パリ事務所	East Japan Railway Company Paris Office 3, rue du Faubourg St. Honoré 75008 Paris, FRANCE TEL : (33)-1-45-22-60-48
ブリュッセル事務所	East Japan Railway Company Brussels Branch Square de Meeûs 23, 1000 Brussels BELGIUM TEL : (32)-2-808-3643
ロンドン事務所	East Japan Railway Company London Office 1st Floor, Boston House, 63-64 New Broad Street, London EC2M 1JJ United Kingdom TEL : (44)-20-7786-9900
シンガポール事務所	East Japan Railway Company Singapore Representative Office 4 Shenton Way, #18-04 SGX Centre, Singapore, 068807 TEL : (65)-6536-1357

2014 会社要覧

発行 2014年11月

東日本旅客鉄道株式会社 広報部

- 当要覧で使用したデータは、2013年度実績を中心としたものです。なお、四捨五入等してありますので、合計と内訳の計は必ずしも一致していません。
- 当要覧の写真・図表等の無断転載は固くお断りいたします。
- インターネットでも、JR東日本についてお知らせしています。
<http://www.jreast.co.jp>